<u>号数</u> 78	発行日 昭和46年11月1日	見出し	内容等1	内容等2
76	四和40年11万1日	  特別展「京都日本画の精華」について	藤田猛	
		西欧における閨秀画家の系譜	マリー・ローランサン展に因んで	原田 平作
		我が周辺(1)  当館所蔵品より	川端 弥之助 川村 曼舟作「霧氷」	<u> </u>
		友の会だより	加T)支加F 榜小」	
79	昭和47年3月1日	LIEB MARTIN	m+n —	
		榊原紫峰の画業 美術館評議会について	岡部 三郎    評議員会に関する規定	第24回京展作品募集要項
		友の会だより	BI BASE AICKIT WILL	第25回水瓜下面券未交換
		我が周辺(2)	川端 弥之助	
80	昭和47年4月30日	「1972京都ビエンナーレ」の開催		
		新任のごあいさつ	館長 井島 勉	
		第24回京展開催 教が周辺(3)	川端 弥之助	
		当館の展覧会	7川2両 3小とり	
		友の会だより		
81	昭和47年5月30日	  我が周辺(4)	川端 弥之助	
		友の会だより	7/12III 39:42 PJ	
82	昭和47年6月30日			
		新収蔵庫と所蔵品   我が周辺(5)	藤田 猛 川端 弥之助	
		当館の展覧会	7112iii 371C 201	
	PT 10.17 TO D. 1	第26回市民美術展作品募集要項		
83	昭和47年9月1日	   我が周辺(6)	川端 弥之助	
		秋の特別展	大正期の洋画	
		「京都弁で絵を見る」ということ	平野 重光	
84	昭和47年10月1日	表紙作品解説		
	2	魚眼レンズ	1930年の頃(1)	伊藤 久三郎
		メトロポリタン美術館名品展	平田 平作	
		「女性絵画」という概念  美術館の展覧会	TH TH	
		友の会だより		
85	昭和47年12月15日	  「京都弁で絵を見る」ということ(2)	平野 重光	
		魚眼レンズ	九室会のことなど	伊藤 久三郎
		日展の数字		
86	昭和48年3月25日	表紙作品解説		
00	<u>начачо</u> 437231	「京都弁で絵を見る」ということ(3)	平野 重光	
		5月の展覧会		
87	昭和48年月15日	友の会だより		
		京都市美術館平常陳列	出陳の日本画・洋画・工芸について	
		人体ではなく人間を描く	日本画家 小嶋 悠司氏	
		美術館の展覧会   友の会だより		
		表紙作品解説		
88	昭和48年9月30日	深世徐、現仏版画 るるれいの世界	   平野 重光	
		浮世絵・現代版画 うるおいの世界  使ってよくなる物こそ本物	工芸家 黒田 辰秋氏	
		秋の美術館特別展	「昭和期における日本画と洋画」	
		美術館の展覧会 友の会だより		
		表紙作品解説	小野 竹喬作「沼」	
89	昭和49年2月20日	All the L. T	***************************************	
		微笑するモナ・リザ 彫刻は虚と実との対話	藤田 猛 彫刻家·版画家 冨樫 実氏	
		第26回京展作品募集	PARTIES HARMAN PARTY SAFE	
		展覧会予定表	············	
90	昭和49年4月20日	表紙作品説明	小野 竹喬作「冬日帖」	
		ギリシャ彫刻の衣服について	馬場 京子	
		風と光を好んで・・・ 展覧会予定表	伊庭 新太郎(洋画家)	
		展見会ア定衣   美・コラム	上原卓	
	npr	表紙作品解説	竹内 栖鳳作「潮渉永日」	
91	昭和49年5月25日	めざましい新人の活躍 第26回京展	審査員の感想	受賞者名
		セザンヌ展		0011
		() ロッス ウェ	小牧 源太郎	
		6月の予定表 表紙作品解説	 徳岡 神泉「麦」	
92	昭和49年7月10日			
		不気味な感じ	平野 重光	
		アンドリュー・ワイエス展と第11回日本国際美 美	<u> </u>	
		平常陳列 新収作品と新蔵品		
93	昭和49年8月30日	表紙作品解説	竹内 栖鳳「雨」	
- 33	**************************************	市民美術講座から	明治・大正の日本画壇	小野 竹喬
			体験的陶芸史	八木 一夫
		平面を徹底的に追求してゆきたい   表紙作品解説	日本画家 広田 多津氏 橋本 明治「浄心」	
94	昭和49年11月25日			
		昭和の洋画	戦前の動向	
		「昭和の洋画」展によせて 市民美術講座から	青年画家の講義 パリ画壇と日本の洋画家	馬場 京子 川端 弥之助
95	昭和50年2月25日			
		福田平八郎遺作展特集	 	
		福田平八郎の美の世界   所蔵品の展観	原田 平作 平常陳列	
		2月3日の美術館の主だった展覧会		
96	昭和50年6月10日	風俗画について	美術館平常陳列	藤田 猛
			POLICE L HIPPET	W == /==

		ホドラーの美術	勝 国興	
		当館所蔵品より	黒田 重太郎作「渚に坐せる女」(馬場)	
		展覧会案内	京都国立博物館	京都国立近代美術館
			京都国立博物館	京都府立総合資料館
			府立文化芸術会議	朝日画廊
		友の会見学会	河内長野市の観心寺へ	
97	昭和50年9月15日			
		昭和10年代の思い出	初期シュルレアリズム運動について	小牧 源太郎
		美術館秋の特別展余話	森寛斎の吾妻登り日記	原田 平作
		当館所蔵品より	榊原 紫峰作「獅子」	馬場 京子
		展覧会案内	当館	京都国立近代美術館
			京都国立博物館	
98	昭和50年11月15日		7,411/11/11/19/11	
"	PH1800   117710 H	江戸末・明治の画人たちと京都	大須賀 潔	
		泰西名画展	平野 重光	
		展覧会案内	当館	京都国立近代美術館
		MRAXF1	京都国立博物館	京都府立総合資料館
		第7回日展	水 即	
		<del>                                    </del>		
<del></del>		友の会見学会	秋季見学会	大原の善峰寺
		及の云元子云		人际の音味寸
	177 fnc 1 /c 0 1 1 0 1		加井郁向原刊の入価元寸	
99	昭和51年6月10日		# m x7	
-		宇田 萩邨氏の芸術	藤田猛	J. 44. NE -1- Arr
		作画40年(1)	独立美術京都研究所時代	小牧 源太郎
		展覧会案内	当館	京都国立近代美術館
		 	京都国立博物館	
		友の会春季見学会	法華寺・海竜王寺・法起寺	
100	昭和51年8月30日			
		秋の展覧会から	藤田 猛	
		作画40年(2)	シュルへの傾倒	小牧 源太郎
		展覧会案内	当館	京都国立近代美術館
		新しい展示ケースできる		
101	昭和51年10月25日			
		戦後の日本画の展開	特別展「日展日本の名作」	11/3~28
		シャガール二つの展覧会	大須賀 潔	
		作画40年(3)	美術文化協会結成	小牧 源太郎
		展覧会案内	当館	京都国立近代美術館
			ドガ展	
102	昭和51年12月1日			
		第8回日展	12/15~16	
		ドガ展によせて	ドガの描いた踊り子たち	馬場 京子
		作画40年(4)	戦後の活動	小牧 源太郎
		展覧会案内	当館	京都国立近代美術館
		友の会だより	秋の見学会	近江路
103	昭和52年3月1日	~~~~	INVESTA	Mills (rate Mild
100	*HIHOT-TODIO	美の巡礼	堂本 印象展	3/29~4/20 (藤田)
<del>                                     </del>		作画40年(5)	戦後の活動(承前)	0/20 T/20 (MR)H/
<del>                                     </del>		展覧会案内	当館	
<del>                                     </del>		放見云条内		<del>-  </del>
104	昭和52年6月5日		<del>-  </del>	<del>-  </del>
104	晒和32年0月3日			十. 在智 : 即
<del>                                     </del>		常設展コーナー	花鳥画の陳列にふれて   (塩川)	大須賀 潔
<del></del>		葛飾北斎		77 HZ 400 1/4
<del></del>		繊細で優美な現代美術	13回目を迎えた「現代美術」	工工 平野 重光
<del></del>		展覧会案内		
<u> </u>	nm#	友の会だより		
105	昭和52年8月25日	14-01-0	What a large way	L CT to 117
		特別展	戦後日本画の一系譜	大須賀 潔
			「創造美術・新制作・創画の30年」	
		就任のごあいさつ	館長 黒川 武男	
		大東洋美術館		
		当館の展覧会案内		
		続 我が周辺(1)	川端 弥之助	
		藤田猛君の死によせて	岡部 三郎	
		薤露行	加藤 一雄	

京都市左京区岡崎公園

#### 当館所蔵品より

楠部弥弌作 青華水指

文様、 は涼感と清澄さを誘う さえ白色と紺色の調和 美しく輝かす。 柄が、地肌を更に白 それが陶磁の場 犯しがたい程に、 コバルト色の図 ただで

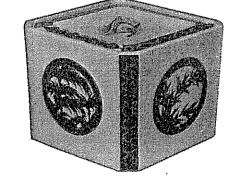
磁肌に染付けられた竹

白いすき透るような

える。 新しい感覚による染付を作ったのが青華 は何百年の昔の歴史の歯車をもどすにす 陶とまったく同じものが作れようとそれ を呼ぶことであろう。 で形づくった蓋の取手の意匠であろう。 れ、制作されるのはその紺色が白地の中がただよう。現代もなお、染付が愛好さ いのは作者の研磨によるものである「古 いない。盛夏のお茶席に置けばさぞや涼 ふと微笑みたくなるようなユー りに理路整然としていて、 から創り出される不思議な神秘性故であ きわだって研ぎ澄まされた、高貴な気品 染付と呼ばれるこの種の作品には、 それをやや和げているのは竹の茎 何か今日的な作品を、 水指の形体もすきがない。 全体の調和を破って 古さを感じさせな 冷たくさえみ あま

水指であった」と作者自身語っている。 工芸とは生活道具であった、

> 磨きがかけられ、 てきた。 芸術品となって、その地位が向上してい それらが、美術品と名を変え、あるいは ものであり、身につけるものた。花を生けるものであり、 ただ置いてその美を鑑賞するものに変っ くに従い、 と同時にその美しさはますます 壺は花を生けてはいけない。 素朴さを 失い、 機能性を 失 身につけるものであった。 近よりがたい気品を擦 茶を飲



**- 4** --

昭和初期に提唱された民芸運動がそれで 違いない。反面、民衆の生活から遊離し 庶民の中に戻そうとする運動も興った。 作家から職人の手に一部の特権階級から 芸家たちにとって、喜ば しい ことには 然とした識別がなされている。 で使う陶磁器と、 えるようになってきた。 お高いものとなった。工芸を再び、 作家の創る作品には歴 現在では、 それは工 家庭

> また工芸界全般についても片手落ちとい 状は後に続く工芸作家たちにとっても 者自身が飾り物、置物を制作している現 では美中心になり機能性は皆無の状態と 美と機能性の両面を追求して成功した例 分に持って 性質を兼ね併せた作品こそ、 引いている。 作家にとって、 なっている。 べた場合、進和感も感じないであろう。 て真価を発揮するものであろう。その点 この水指は水指としての機能性を充 工芸の抱える問題は今もなお尾を しかし、 いるし、 しかし、 実用性と芸術性、 現代 陶芸 界を代表する作 実用性だけではあきたら より高次のものを求める 茶室の他の道具と並 作者の作品も現代 工芸品とし

保っている故に、 創り出す、不可思議な世界、 だといわれている。それは、轆轤と手が られ、研かれれば研かれる程に実用性か も許されない。ことにこの作家はかたち 彫刻と同じ三次元芸術であり、一分の隙 を究極的にまで追求して、 の可能性を持つ世界を形成する。 陶磁器において重視されるのはかたち この水指のかたちがまだ、実用性を 文様とかたちが一致して独自の 芸術性の高いものとなってい 費重なものといえない かたちが整え ついには意匠 しかも無限 それは

(二) 頁の続き)

横光利一を生んだ、あの土壌で培われたもあるいは早大時代同期であった中山義秀や

けたが、日本の自然は前景のしまりが悪い 頂を示すのである。 の事情を物語っていよう。 とよく言っていた。そういうこともこの間 マがくり返し出てくる。写生にもよく出か だからフォルムそのものよりも色のヴァ 体としてでなく、感覚的な被造物として、 田さんのいうように、対象を客観的な被写 巧みな構図や配置に続べられている」と黒 をたたえた明暗や色彩の美しさ、それらが 彼の作風はともすると印象派に基づけら ルを情感的に捉える点において、 彼はそう言われることを嫌ったとい 「的確という以上に、ゆたかな詩味 彼の作品には同じテー その骨

京都ならでは輩出できない作家の一人で情こそエスプリというものであろう。 しめるところであり、それが醸す独特の詩なく、彼のいうインテリジェンスのしからゆき渡った細かい神経は、執拗というので ている。息を抜かない一作一作、隅々までよ佳境に入った彼独自の様式がよく示され回京展の「中書島風景」などには、いよい 石濤の水墨に傾倒していたという。しか、んだ彼も、晩年近くには仏典や八大山人、 最後の出品作となった昭和四十三年第二十 印象派よりもゴッホやルオー 英文学よりもロシア文学に親し ヤガ

あった 九月十五日から十月十日まで

#### 特 別 展 京都日本画 「の精華 つ

して国画創作協会の運動がおこり、日本画は新たな展開をみせ彩あるものとした。大正なかばにはこれらの画家の活躍と併行松園、橋本関雪、菊池契月らの逸材が輩出して京都の画壇を光と同時に頂点であり、それに続いて西村五雲、西山翠嶂、上村と同時に頂点であり、それに続いて西村五雲、西山翠嶂、上村 に司時に頂点であり、それに続いて西村五雲、西山翠嶂、上村明治中期以後に限ってみても竹内栖鳳は一つの出発点であるいいたったが、その過程にはおのずからハイライトがあった。 つかのうねりを経て今日

昭和46年11月1日発行

であり、日十 あり、現在画壇に第一級の位置を占めていることは周知のと、日本画のこのような階程を継承発展させ今日に至った世代「京都日本画の精華」としてここにとりあげられた画家たち

しかし、これらの日本画の見事な結実のためにはなお若干の日の作家に直接作用し、日本画の骨格と肌あいを変えつつある。の作家に直接作用し、日本画の骨格と肌あいを変えつつある。本画の場合も戦後の変容には顕著なものがある。変化流動の度本画の場合も戦後の変容には顕著なものがある。変化流動の度 合を強めた戦後の変容には顕著なものがある。変化流動の度本画の場合も戦後の変容には顕著なものがある。変化流動の度にせよ無意識のうちにせよ伝統の継承と統御のうちにあった日にせよ無意識のうちにせよ伝統の継承と統御のうちにあった日 子が必要だろう。

に、すでに独自のスタイルを完成させ、現代日本画の水準の高たどったかなり長い道程を自かち歩み、その丹念な薔薇のうえこれにくらべるならば本展の画家の特質は、戦前の日本画の い範例を示しているところにある。

いずれにしても京都日本画の袖領竹内栖鳳な子上村松簋は大正十年西山翠嶂の門をくぐって芳文、ついで菊池契月であり、山口華楊は西村正期にあいついで栖鳳門下となっている。字田 栖鳳の高弟西山翠嶂につき、福田平八郎は絵専在学中栖鳳らのも竹内栖鳳の門に入っているし、堂本印象は大正初年には竹内正期にはじまっている。因みに小野竹喬は明治三十六年はやく「京都日本画の精華」の画家たちの出発は明治末年ないし大 金島桂華、徳岡神泉、 一の門をくぐっている。山口華楊は西村五雲、 いる。宇田荻邨の師は菊池池田遙邨は明治末から大

京 都 ती 美 彷 館

画家の薫陶のもとで画家たることを志した世代であり、 し し は 京

るならば、 るならば、円山四条派の命脈と原型は時代とともに拡散し霧消芸術上の伝統である。少なくとも後者に力点をおいて考えてみての画系であり、もう一つは絵画思想や技法の継承もふくめたこには二つの側面が考えられている。その一つは師弟関係とし 京都の日本画が円山四条派の流れをくむといわれる場合、都派の最後の光栄ある担手であることに変りはないのである栖鳳をピラミッドの頂点として構築された京都画壇ないしは しつつある。 のである。

、榊原紫峰、野長瀬晩花らによる国画創作協会の運動は、当一般的には 大正七年に 輿った 土田麦僊や 小野竹喬、村上華

得なか んのことである。しかしこれらの画家の決定的な役割はやはりみずからの代表作となったような作品が少なくないのはもちろ境地をさし示し、その後のみのり多い展開を予感させ、併せて 戦後に求められるべきものであろう。 の要因のからみ合う中で、 /地をさし示し、その後のみのり多い展開を予感させ、併せて長い画歴をもつ本展の画家たちに戦前すでに日本画の新たな かならぬかれらによって確保されたのである。った軌道のもっとも先進的な開拓者としての明瞭な位置 日本画がゆき進み、 戦後の美術をめぐる幾多 ゆき着かざるを

生きた内実を与え続けているのである。れている「京都画壇」ないしは「京都の日本画」という概念に代日本画のタイプが形成されたのであり、今日なお存続継承さ それぞれの画家のものであった。準、制作の改新陶治についての進取性は、 教養の集積と円熟した美術についての思考、 そしてこのことによって戦前の日本画の基本様式を超えた現 画風の違いはあれ 技術の高度の水

-1 -

り立っているようであ

のがないのと同様に、

女性音楽というも

一体女性絵画という

吹してきたのであるか

ら、男には見られない

女性は詩人や画家を鼓

だがしかし一般に

性画家がいたのか、 するが、その考察は、では過去にどんな女 を発して閨秀画家の性格を考えてみようと フランソワ・マテイは、まずこのように問 ンサンの六人を扱った画集に論評を書いた に始まる。この論評は ール、マリー シュザンヌ・バラドン、 リゾ、エバ・ゴンザレ と題して、 ス、セラフィヌ・ルイ、 ベルト・モ ・ローラ

ロ: 23~79)が伝える小アジアのシジクスの その概要を紹介してみることにする。 その歴史。最も古くは大プリニウス (A.

興味深いので、以下、このたび当館でおこ

なわれたマリー・ローランサン展に因んで、

家に比すると影が薄くなる。 ーやフラゴナール、グレーズなどの男性画 いるといった感じである。ブーシェやワト 縁者遠であって、 あろうが、 ら、多くの女性画家が登場するのは当然で 世紀は女性的といえる面があるのであるか 多くの女性画家がいる。考えてみるとこの ジェリカ・カウフマン、ブーシェ夫人など にはエリザベス・ヴィゲールブラン、 がいて注目されるが、全体としてこの世紀 ったロザルバ・カリエラ(Rosalba Carriera) 初めにはパステルで女性肖像画の流行を作 られる。そして次は一八世紀。この世紀の て、そこには共通して父の画風の反映が見 るが、彼女達は皆有名な画家の娘達であっ Robusti)、アルテミズ・ジャンティレシィ 時代のマリエッタ・ロブスティ (Marietta ンタナ (Livinia Fontana) などがあげられ 名であった。次にやや下ってルネッサンス イディア (Idia) がいる。彼女は肖像画で有 彼女達の場合も、有名な画家の 小声で既知の歌を歌って リビニア・フォ アン

秀画家≫(1951, Paris) かろうか。▲六人の閩 現してもよいのではな 感覚を女性達自身が表

Baskirsheff) などが成功した例としてあげ heur) やマリー・バスキルショフ (Marie ヤラフィス(Séraphine Louis, 1864~1934) пンサレス(Eva Gonzalès, 1849~1883)′ るキッツ (Berthe Morisot, 1841~1895) などを除くとローザ・ボヌール (Rosa Bon-では次の一九世紀はどうか、ここにあげ

> にして不思議な共感をもちうるものも出て は多くの画家が輩出しており、その独自性 るものの、やはり男性とは違う絵画を創造 の歩みは遅々ではあるが進んでいて、 したとはいい難い。そして今世紀。今世紀 られるが、今度は若干個性的になってはい いるような気がしないでもない。 微妙

> > とする時、息切れがしているように思われ 領域から離れて、男性に伍して活躍しよう

ここに紹介するモリゾのやさしさ、

(l'enfance et la maternité) の領域で成功 母性愛と子供の領域、特に子供と母性愛

しているといえ、

女性画家達は、これらの

倣の芸術 (un art d'imitation) といわなけ ればならないだろう。 かにつけ鋭敏なもののようであるけれど模 性絵画というものは、その本質において何 持続的であったりする。いずれにしても女 火的に開花し、それが一時的であったり、 上昇的であるのに反し、女性画家は線香花 うして男性<br />
画家の場合はその才能の<br />
展開は ともに受けとめようとすることがある。そ が、女性絵画の場合は、逆に前衛理論をま 流派のアカデミックな理念を追おうとする 本能と同化作用がうまく混り合ったものと その現象は通俗画の現象に匹敵するもので ったり、 のものは一九世紀絵画の魅力ある反映であ を果したとはいい難く、例えば今世紀初め どうみても絵画の主展開の面で重要な役割 では次にその性格はどうか。一般的には 例えば通俗画は狭義に解釈された 帰結であったりするものが多い。

式の模倣ではあっても、

これらの領域に於

**— 2 —** 

いるわけではない。彼女達の作品はある様 分は彼女達を非難するためにこれを書いて の官能性、皆然りというべきであろう。 Valadon, 1867~1938) の真実味、 フィヌの 神秘性、 ヴァラドン Blanchard, 1881~1932) の精神性、 ンザレスの優雅さ、ブランシャール(Maria

(Suzanne そしてロ

セラ

ドンキン(Marie Laurencin,1885~1956)

É

は

の表現の機会は男性よりも恵まれていたと てその優れた偉大さを示すものである。そ

といえよう。

も人間的に意味のある世界を展開している

いえないが、男性には見なれない、し

のであろうか。そうではない。 いうものがあるとすれば、それは微笑みと ではその美術は全くつまらないというも 女性絵画と

された一九五一年といえば、ローランサン

はまだ生存していた。思い切った論評が面

そらく文字通りの評価なのであろう。 盾した論理と思われる節もみられるが、 マテイ氏の真意はどこにあるのか。やや矛

以上をもって紹介を終る。フランソワ・

## から 周 (1)

三条室町衣之棚は 聞いて極楽居て地獄 京都とは全く不思議なところである。 III

お粥かくしの長暖簾

吉、竹中良吉、三雲祥之助、薄田芳彦と多 廓となると梅原竜三郎、里見勝蔵、向井潤 である。明治から大正にかけてこの中京か 日の中京ではなく六角堂を中心とした界隈 諷刺した戯れ唄の一首である。中京とは今 ら洋画家が輩出した。津田青楓、加藤源之 昔から京都の旧弊な中京の生活の実態を 安井曽太郎、須田国太郎、ややその外

郎が出ているのだからチンチン電車と共に 五郎、太田喜二郎、田中善之助、岩崎又二 又中京に劣らぬ古くさい西陣から沢部清



20代の自画像

いた。

端 弥 Z 助

騎馬兵の絵であった。 三年上級であった。奈良帯解で大演習を全 さんとは二丁余のところに生れた。 れ、最優秀作にあげられたのが須田さんの 校生徒が見学した後、展覧会が校内で催さ んは小学校の五年先輩、須田さんは一中の 私は須田さんと一丁余、加藤さん、安井 安井さ

校内の一部の者が回覧誌を出していて、 るにある酒吞童子はその誌中の一作であっ はよく表紙や詩をかいていた。槐多の唄へ 一中で私の二年下には村山槐多がいた。 彼

私の中学生時代は明治の末期であった。 のあたり、 原っぱであった今日の岡崎グラゥンド に好意を寄せられ講評に来られたと聞 があった。後にその設立にあたった一 いた。京大には三高も混じえた三脚会 人川村多実二さんから浅井忠先生が特 関西美術会博覧会が催されて 博覧会場の残骸と思わるる

> 階上が博覧会に使われたのも、 御苑内にあった図書館が岡崎に移され、 それから間

出品している伊丹英之助、新劇に出演して ら来た三宅周太郎がいて直ちになじんでし か二名の文科生小島政二郎、同志社中学か いる東屋三郎こと油屋三三助、 財科予科の私のクラスは楽しく、 一中を卒業して東上、進学した慶応の理 片岡鉄兵僅 巽画会に

った。 が開店その披露が沢部清五郎帰朝記念会だ 見て歩いた。銀座に田中喜作の田中屋画廊 私は伊丹に誘われて展覧会を片っ端から

ヌやゴッホの名を知ることになり、 有島生馬、高村光太郎と続く帰朝でセザン 味わった記憶がある。それと前後して神田 品油絵水彩など明るい美しい色彩に感激を 小川町の琅玕洞で梅原竜三郎滞欧展もいた。 も話題となった。 ハドソン河の風景、フランスの大小の作 ロダン

次第に制作慾に移らんとしたが仲々踏み切 と私の姉が結婚したので、洋画鑑賞の熱は れなかった。 恰度その頃高工出の浅井門下長谷川良雄

状に不満を持つ新進達が、一科二科に分科 大正三年文展開催を前にして洋画部の現

> 展と時を同じうして日本橋三越に於て二科 井柏亭、有岛生馬、斎藤豊作、 たが、文部省の却下するところとなり、石 して鑑別審査を科別に行なうべきと提起し 会第一回が開かれた。 山下新太郎、湯浅一郎等によって急遽、文 津田青楓、

待った。 を聞き、近く帰国する事を知って楽しんで 津田さんから私は安井曽太郎なる人の話

思わしめる作品から、 源之助の斡旋によって再び陳列された。 和大路四条の会場で、後の画箋堂主人山本 あった。之等作品は全部御大典で賑わう大 は大きな話題となった。ミレー、ピサロを に違わず、滞欧作品を陳べた第二回二科展 翌年の安井さんの帰朝は津田さんの吹聴 後期印象派風なまで

描いていたが、桃山桃陽園に新居を構え柿 壺、教会、牛肉など記憶に新たである。 の木のある風景や、 孔雀と女、 安井さんは暫く湯崎に休養水彩の風景を 足を洗ふ女、早春の丘、 うど畠などを次々と発

二科会に出品された。 模屋の遊園で写生中の安井さんを見た。 あった。この絵は丘の道と題してその年の 傘をさしかけていたのが新婚早々の夫人で 或る早春の日私は計らずも伊豆山温泉相 Π

昭和47年3月1日発行

京都市左京区岡崎公園

て美術工芸学校に進み、 西陣あたりの子弟と一緒に一種の職業 越えがたい

京都

क्त

美 術

館

# 画

代を画した芸術運動であったことは衆知の通りである。 紫峰が国画創作協会を起してからもう半世紀以上にもなろう 土田麦僊らとともに近代絵画史上に清新な一時

抜けるよう欠けてゆくの見て気丈な紫峰も深い感慨をもって八 ことである」と語ったのも同じころであった。 々や有縁のものがつぎつぎに死んでゆくのは何んともさみしい の始更を失ったのも、 も自分と一緒に国画創作協会の運動に参加したことのある弟 余年の生涯を顧ることが多くなったであろう。同じ兄弟の中 その時分の僚友たちも世を去り、縁者たちも歯の 一昨年のことであった。

それから間もなく紫峰も世を去った。 この一月が一周忌にあ

画家の一家に育った。 の雨村も弟の始更・苔山・弘も、みな絵筆をもった、いわゆる 紫峰は同じ日本画家榊原蘆江を父にもったばかりでなく、 紫峰も他の兄弟たちと同じく小学校を経 兄

系統をひく山元春挙の一門に勢力が二分 の門下には曼舟をのぞいて、 たる俊英がひしめきあっていたが、春拳 系統をひく竹内栖鳳の一門と、円山派の 京都画壇では当時、四条派の 栖風の門下生にはそうそら それ故に曼舟の存在が 際立った弟



える。 目立ったし、 彼が高く評価されたともい

派の流れをくむ山元春挙の門に明治三十

曼舟は明治十三年、京都に生れた。円山

軽妙な筆致である。

一年入り、二十代で早くも頭角をあらわ

した。初期文展には第二回展から入選し

大正十一年には絵画専門学校

洗練された味がある。その味が時にはこ 開していった。奔放な迫力に乏しいが 各地の風景に材をとり、温雅な画風を展 の作品を発表してきたが、後期には日本 木立の間に結んだ氷が、溶けて、 に暖い作者の心情が通ってくる。

露にな 今にも てのものを凍らせる、

冷凉さを欠いてい

なにか春の訪れを知らせるかのよう

うな清浄さを表現しきっているが、すべ

く光景は、すき透るよ

だが曼舟の描

子が少なか

当館所蔵品よ

をも寄せつけない毅然

とした冷たい世界でで

それは清らかで澄んだ 美しい風物詩である。

を歩んだ。

ってきそうな雰囲気を伝えている。

川村曼舟は京都の風物を描いて、数々

の絵に配された熊のように画面に余情と

ユーモアを与える。

京都人らしい、

性の違いは著しいが、 法や写生技法を取り入れた近代的性格を 条派をひっくるめて 京都派と呼び、透視 と識別することは難かしい。円山派、 鳳と春挙を比較してみた場合、 四条派と円山派と区別して呼ぶが、 流派の違いを厳然 両者の個 00

った。そうした持ちながらも、 師の良い面を高めることによって辿り着 練された、粋なものを感じさせる。町絵 を受け、京都画壇を隆盛に導いていった いた境地といえる。 そのまま絵になったような、優しさが 迫力はほとんど感じられない。その代 円山派の違いではなくて、彼らを生ん 風を特色ならしめているのは四条派と 創り上げている。と同時に、 いが伺われる。曼舟もまた、 しい。師の持つ、 舟の作風は師、春挙同様に風景画家で だ、風土ではなかったのだろうか。 ろどころに伺われる。栖鳳と春挙の作 しい、田舎人の素朴さが画面のととこ 暖かみのある、京都の自然風物が 雄大な自然を題材に雄壮な画風を そうした流れをくみながら栖風も むしろ、 西欧から入ってきた近代化の波 師ほどの力強さ、 栖鳳の持つ軽妙な味わ せまってくるような 気骨に乏

栖鳳ほどには洗練されていない。 洗練された作風になっている。 都会人的感覚が身についているせ

◎友◎ ◎の◎ ◎会◎ ◎た◎ ◎よ◎ ◎り◎

海の奈良といわれる小浜の神宮寺を訪れま 国定公園の中で最も風光明媚な三方五湖と 見学会を終えました。 また青い海と緑の山々とでコントラスをな 尊薬師如来などまるで神秘の世界を思わせ に照らされながら藤原時代末期の寺宝や本 着きました。私たちはさっそく本堂の説明 ないました。約百人の参加で今回は若狭湾 たにもかかわらず、全員元気で秋の楽しい 色でした。少し強大なスケジュー 一方に、雄大な日本海を望むすばらしい景 り、四つの湖がかもし出す景色に目をうば もさわやかでした。ひきつづき三方五湖め るようでした。又芝生の拡がる庭での昼食 した。二時間あまりバスに揺られ神宮寺に 友の会はさる十月十七日秋の見学会を行 レインボーラインでのドライブでは、 一行は小雨の降る中を遊覧船に乗 その美しさを満喫しました。 真暗な内部を懐中電燈の光 - ルであっ

岳・波光らはのちに起した国画創作協会の名とともに紫峰とも 優・小野竹喬・野長瀬晩花らもいた。 光らとともに本科二学年に入学を許 された。同じく別科の方には土田麦 た村上華岳や上級の兄雨村や入江波 画専門学校が開かれると、 に高度な近代美術教育機関として絵 これら麦唇らをはじめ華 同級だっ

円山派の写生技法を厳しく教えこまれたが、絵画専門学校では 線も実は容易ならぬ才能と資性を要求されるけわしい道であっ 鳥画の分野に新しい道を開いていった。この目ざましい進出振 品して入選している。 同じこの画統をつぐ竹内栖鳳・菊池芳文・山元春挙らから自由 た。そこには明治の新興日本画がかかえこんだ縮命的な容易に りは麦僊のそれと比べ得る。 くも絵画専門学校に入学した秋には「動物園の猿」を文展に出 「南国の一隅における曲と眠り」・「夕栄」などもつぎつぎに出 美術工芸学校では江戸期から京都に伝わる画系である四条・ 当時時代おくれとなって衰頽の道をたどりつつあった花 リシスの克服という課題が 紫蜂は早くから花鳥画に才幹をあらわした。 つづいて毎年『永き日』・「花ぐもり」・ しかし、 この一見順調に見える路 いくえにも待ちかまえ 文化史的な

以来日本が歩んで来 り」が旧き小さく ように東洋と西洋と も他の明治人と同じ 一つであった。紫蜂 た近代化の諸段階の い方をすれば明治 あの「やどか

国の一隅における曲と眠り」・「夕栄」で一 ಶ್ಠ 本来の理念とは根元的に相反する西欧の象 **層鮮明に見られる。しかし、ここでは写生** 正)の青年の岩々しい感傷とが入り混って 徴主義的要素と、さらに明治(あるいは大 めたのもそのころからであると述懷してい める。紫峰自身も洋画家の友人をもちはじ しにはあり得ない写生の技法が目立ちはじ とも「永き日」のころからいかにも若々し ていくつかのクリシスを越えてゆく。少く った貝殻をつぎつぎに脱ぎすてるようにし 紫蜂のそのような西欧への傾きは「南 かなる意味にしろ西欧美術の理解な

国画創作協会を設立することになる。 を創立する三年前であるが、紫峰の言葉を 梅」屛風が生れたのは、まだ国画創作協会 殻を求めて脱皮を試みつづける。 それら の憂目を見たが、ひるむことなく新しい貝 られている。このような外見からは時代お 葉・すすき・白菊を淋派風に処理したもの 高野の赤不動に絶体的な萱仰と感動をもっ 永徳のような豪壮なものに心をひかれ……、 ついに文展を去って華岳・麦僊らの同僚と の試みが文展で拒絶される結果となり、 くれにしか見えない作品は、はたして落選 で前者のような西欧的な要素は全く捨て去 「この時分から力強さを求め、狩野山楽や それに反して翌年に描れた「秋草」は柿 と述べたあとで「冬のいてるような寒 一方では洋画に 傾き ながらも 「白

の立体的処理を

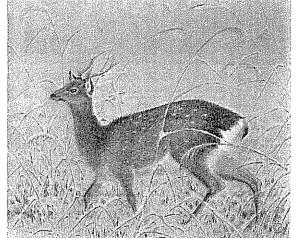
つかの作品から にのこしたいく すれば、同時期

して洋画風

国画創作協会展に出品して問題を投げかけ 期の作品」であった。その4年後の第二回 肉を云われたものですが要するに私の過渡 気の厳烈な所に太い古木の梅が頑固な枝を る図です。この作品は先輩からいろいろ皮 無数に延ばして、氷るような花を咲せてい

を描い て見るべきであ 時期の産物とし 渡期につながる た六曲一双屛風「赤松」の大作も、 「白梅」 た翌年

ろ う。



目を見ている。

て再び落選の憂 を文展に出品し にも「題不詳」

描いたものだと

ように孟宗竹を もし伝えられる

と指摘して

いる。だが

欠けている. 神的深さが

2年に文展に出品した「梅雨晴れ」の竹葉翌年に文展に出品した「梅雨晴れ」の竹葉 ۶ の立体的な描法からもうかがうことができ

価を与える重要な契機となっているが、 峰が中国の花鳥画に傾いていったのはこの 紫峰の中国画の蘊蓄は紫峰芸術の高い評 紫

> 者では作者は「唯ありふれた寺の庭の一隅 努力とを示しているのである。 ころからのようである。紫峰の中国画研究 「雪柳白鷺図」では驚くべき鮮明な理解と した「膏梅」や第4回の同展に 出品 した とらえがたいが、第1回国画創作展に出品 については、どう云うわけか、その全容を しかし、 を理窟なし 前

この過

国画の形式 理由に「中

分から自然に対する私の考えが確立して、 の森」では紫峰をして「このころの自分の 自覚ができました」と述懐するようになる。 はっきり感じさせる。紫峰自身も「この時 気持ちが多分に出たものと思っています」 の確乎とした自信なり、 第3回国画創作協会展に出品した「奈良 自覚らしいものを

こしたのが最後になった。

# 美術館評議員会に

例の一部が改正され、同日施行された。 があったが、昨年七月三十日付で美術館条 間機関としては京都市美術館評議員の制度 これまで美術館運営についての市長の諮

審議するため美術館評議員会をもつことに なり諮問機関としても一層完備され、運営 も明確化されることになった。 これによって美術館は市長の諮問に応じ

名で構成されることになった。 学者から一名、洋画家から三名、計四名の 者および洋画関係から補充することになり 議員に加えて、比較的人員の少なかった学 ちから委嘱してきたが、今回はそれらの評 新評議員が委嘱され、評議員は総計二十一 評議員は従来も学識経験豊富なもののち

月十九日美術館で開かれ、市側から舩橋市 員を議長に選出、美術館運営の基本方針、 術館長、黒川副館長らが出席、井島勉評議 長、岡本助役、竹村文化観光局長、木下美 昭和四十七年度事業計画その他について諮 昭和四十六年度の第一回評議員会は十一

問審議を行なった。

骨子にしている。 査研究活動⑦施設の整備、 品の充実④質館事業⑤美術の普及活動⑥調 常設陳列の開催②特別展の開催③所蔵美術 決定された基本方針にのつとり、かつ若干 の補正を行ない決定された。基本方針は① 基本方針については昭和八年開館当初に 拡充の七項目を

贈、寄託作品については、基準を定めて受 収蔵庫内の講演室を活用する。③美術品の 動をつよめ、また普及活動の一環として新 展のほか平常陳列を年間一五〇日を目途と 整備計画をすすめるなどであった。 関連もあるので一階北室へ移転するための 購入方針、計画は美術品購入審査委員会議 入れを行なう。④平常陳列室は収蔵庫との に諮り、所蔵美術品の充実につとめる。 して開催する。②美術に関する調査研究活 昭和四十七年度の事業については①特別 寄

(市長は実現に努める旨約束された。 (ら次のような意見、要望が提出され舩橋/とくに席上、舩橋市長に対し各評談員か)

一、所蔵品の充実のため美術品購入費の

- 調査研究費の増額。
- 、美術館組織の確立と学芸員の研究職 への格づけなど待遇改善。
- 一、二階展示室の照明施設の改善。
- 、平常陳列室一階北室への移転と施設
- 一、美術工芸(伝統産業にも関連する) 一、平常陳列ケース、照明設備の改善。 に関する総合的な研究機関の設置の要
- 一、彫刻台の改善

# 評議員会に関する規定

# 京都市美術館条例

第20条・美術館の運営に関する事項につ 会」という。)を置く 京都市美術館評議員会(以下「評議員 いて、市長の諮問に応じ審議するため

- て組織する。 評議員会は、 評議員30名以内をもっ
- 者のうちから市長が委嘱する。 評談員は、 美術に関し学識経験ある
- 残任期間とする。 評議員の任期は、2年とする。 ただ 補欠の評議員の任期は、前任者の

な幻想の反映であった。 を借りると、この作品の基調となって豊富 に使われている 黄 金色 はカザルスのセロ と云わしめるが、ここでも紫蜂自身の述懐 「スペイン舞曲」の古典的で、 しかも華麗

るように思われて来る。 求める紫峰の姿勢が次第に鮮明ににじみ出 は東洋の精神の深さと高さとを真摯に追い 出品した「獅子」・「蓮池」・「冬の朝」でそれに反してその後の国画創作協会展に 極的に追い求めようとしたものを理解し得 て来る。さすがにここまで来ると紫峰が究

描こうとし

た」ことを

にそのまま

じている。 な作画生活に閉じこもって83才の生涯を閉 国画創作協会が解散したのを境に出品生活 位もゆるぎないものとなったかに見えたが から退き、外のわずらわしさを避けて静か そして紫峰の花鳥画家としての画壇の地

のいすぎ精

の方がとと

前半生とはちがって後半生には珠玉のよう 故老らしい風格のある水墨画をいくつかの 後は病のため長期にわたって筆を絶ってい 生とに二分されるが、大作を多くのこした たが、快癥に向うと再起を試み、いかにも ように厳かで静かであった。不幸にして戦 きものであった。その生活は聖者か高僧の 生の作品は紫峰の静かな告白とでもいうべ 挑戦と冒険の時期だとすれば、これら後半 な小品を多くのこしている。もし前半生を 従って紫峰を考える場合、前半生と後半

えはともか 絵の出来ば

紫峰

ると、この ここまで来

# 京都市美術館規則

第 9 条 「評議員会」という。)に議長を置く。 京都市美術館評議員会(以下

- るものとする。 議長は、評議員の互選によって決め
- 談長は、評議員会を代表し、会務を
- 理する。 議長の指名する評議員がその職務を代 議長に事故あるときは、あらかじめ
- 第10 条 第11条 評議員会は、評議員の過半数が 出席しなければ、会議を開くことがで 評議員会は、 市長が招集する。

— з

第12条 評議員の庶務は、 の決するところによる。 過半数で決し、可否同数のときは議長 評議員会の議事は出席した評議員の 美術館におい

# 評議員(〇印新任者)

池 # Ħ 遙 邨 勉 (日本画家) (美学者)

伊伊 藤 久三 郎 (洋画家)

(美術史家) (日本画家) (洋画家)

字 野 Œ 村 荻 脛 松 衝 (日本画家) (日本画家)

槒 金 水六兵 部 麢 弥 桂 <del>]=</del> 衞 華 (主芸家) (工芸家) (日本画家) (洋画家)

端弥之助

辻 本 印 哥 (日本画家) (彫刻家)

日比野 福田平八郎 徳 五 神 (日本画家) 審 (日本画家) 寥

松 П 華 (工芸家) (彫刻家) (日本画家)

田

Ż

ОЩ Ш (洋 画

第二四回京展作品募集要項

一部日本画 門とします。 大きさの制限なし

二部洋画

十号以上のものに限る。 額椽をつけること。

版画 یے 大きさの制限なし。版種 を出品申込書に明記する

三部彫塑 制限なし。 とくに大きいもののほか

四部工芸 同右

五部 書 米(一二平方尺)以内と 二米 (七尺) 以内とし、 額椽を含めて一辺ニ・一 かつ面覆は一・〇八平方

度がありますので、その 二四糎米 (八寸)×横 一 も設備、陳列作業には限 とくに制限のない部門で 品裏面に貼付すること。 五糎米(五寸)以内)を作 は受付けない。釈文(縦 る。屏風、軸、帳、巻物 する。額装したものに限

**〔版画について〕 二部のうち版画は単** 独に取扱い、 一括して鑑

点ご注意下さい。

募集作品

日本画、工芸、書は一人一点、

祥酉、版画、彫塑は一人二点ま

숲

期 場 4

昭和四十七年四月二十五日(火)

から五月七日(日)まで

会 主

京都市美術館

で。点数については版画も一部

[資格その他] ります。

品 ス 付けます。 四月十七日(月)、

京展賞、市長賞、須田賞、 時に搬入して下さい。

授

四月二十四日(月)午前十時、 館玄関に掲示するとともに、 文 714

出 扱業者(たとえば日本通運三七 ご都合のわるい場合は美術品取 七八一一八一五八など)に委託 えにお渡しします。日時の点で 館会場において出品預証と引替 五月八日(月)、九日(火)の両日 午前十時から午後四時まで、当 ――四一一一、マルイ美術運送

めて行います。 審査し陳列も別個にまと

本人の未発表の創作に限 だれでも応募できます。 居住地の如何を問わず

料 二点出品の場合は一括して同 後四時まで美術館において受 (火)の両日、午前十時から午 |点につき|、000円。 十八日

賞 社賞など。 新聞

入選発表 響でも通知します。

されるようお願いします。搬出

もちかねます。 日を過ぎた作品の保管は責任を

せは当館事務所まで。 申込用紙の請求、詳細なお問い合 による損失は補償しません。出品 作品を保管しますが、不慮の災害 者は善良な管理者の注意をもって 上記搬入日から搬出日まで、 主催

京都市左京区岡崎公園内 電話 0岩(七二)210七(代表) 京都市美術館

#### 友の 会だよ

\_ 4 \_

波焼窯元見学会を催します。実施要項 学会を行うことになり、三月十九日丹 は別途お手許に参ります。 しましたが、本年はさらにもう一度見 友の会は二月二十九日 委員会 を開 本年度内の事業などについて協議

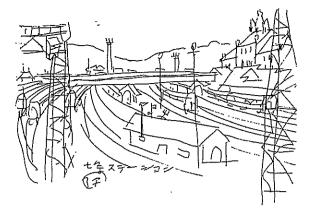
から美術館で開催される「海北友松展」 今後の展覧会としては三月二十四日

に児童美術教室の募集も行います。 は三月十五日からはじめますが、同時 なお友の会の四十七年度会員の募集

#### 我 カジ 周 (2)

大きなタッチの絵であったことを覚えて居 ズム風な岸田劉生の自画像で明るい色彩の 展を見た。只一つ記憶にあるのはフォービ ぶらをしたものだが、或日当時京橋畔にあ った読売新聞社本社楼上でフューザン画会 私は慶応の塾生の御他聞に漏れずよく銀

京都の義兄から太田喜二郎の帰朝を伝へ



指導を受けて来た人であることを知った。 のガンで、点描の大家エドモンドクロスの で東京の美校を出ると早々に渡欧ベルギー て来たのもその頃、太田さんは一中の先輩

日懐かしんで居る次第である。 推移に接し得たことは幸せであったと、 憶ふに独立自尊の慶応の生活は楽しかった のは勿論だが、眼のあたりに新しい画壇の 大正七年私は卒業と同時に京都に帰った。 <u></u>

選又竹中君は文展に初入選したことを知っ

向井君はこの年十七才で二科に初入

事をつとめられ渡欧されたことを始めて知

った。

盲格子の大構へで、近寄り難い風格があっ の近所でも評判の御大家で至極滋味な紅殼 お辞儀を交わす程度であった。須田家は私 ンバスの一部が覗いて居た。須田さんとは の着流しだったが、持物の風呂敷包からカ を出た須田さんは中京の岩旦那らしく角帯 をすら感じて居た。 たが、須田さんにこの家の住人らしい畏敬 或日途上で須田さんに逢った。 京都帝大

始めた。 に徹する自信のないまま、義兄長谷川の紹 を学ぶこととなり関西美術院でデッサンを 介によって沢部清五郎さん門下として洋画 その後一年余して私は不謹慎ながらプロ

当時の関西美術は伊藤快彦院長、都島英

て名を連ねて居た。 喜、沢部清五郎、黒田重太郎が指導者とし

の志望のためにデッサンに励んで居た。 本節哉、上野為二、田中吉之助などが夫々 末吉、国賀義篤、井村啓三、島田洗耳、橋 は黒田英三郎、薄田芳彦、近藤悠三、玉置 中良吉、平山哲夫などが古顔で私のあとに 院生は幹事の三輪四郎以下向井潤吉、竹 向井君に聞いて須田さんがこの春まで幹

Ж

端

Ż

が出来た。 九年二科の第七回展に私も初入選すること きづられてよく励んだ。その甲斐あって翌 蔵が居た。向井君の才独と勤勉に我々は引 二、服部喜三、井垣嘉平、芥川弘吉、 一方の鹿子木塾には池田治三郎、三井文 林重

中善之助が居た。 ンボで行き違った榛名丸には日本に向ふ物 山、佐竹徳二郎が船客に居た。航海中コロ 理学者アインスタイン教授と、帰国する田 ととなった。欧渡航路の箱根丸には佐藤朝 そして十一年私は三輪と共に渡欧するこ

بر م 頭に出迎へて呉れたのが橋本節哉、ドクト ギャール・ド・リョン停車場に着いた。駅 ル寺尾幸吉、春芳堂の伏原佳 一郎 であっ 神戸を出て四十二日長い航海の後バリの

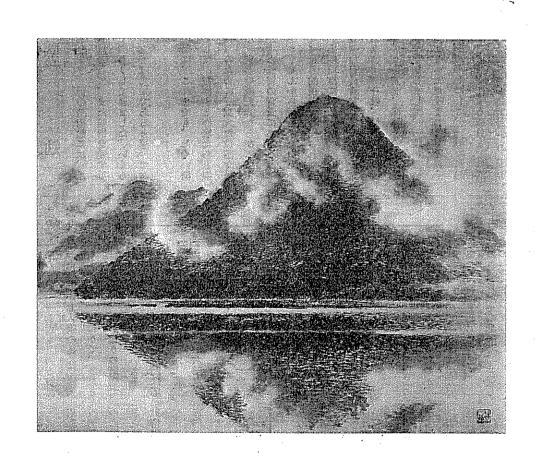
> 会合した。 タンソムラールの宿で黒田さん須田さんと に高畠蓬四郎が居た。到着の夜カルチェラ こととなった。そのホテルには橋本君以外 のドランブル街オテル・デゼコー 私は橋本君の斡旋によってモンベルナス

見勝蔵などが帯在して居た。 鳥之彦、国松桂渓、折竹錫、橋本節哉、 麦僊、入江波光、吹田草牧、間部時雄、 が居た。中井宗太郎夫妻、菊池契月、 帰る途上であった。パリには沢山の京都人 須田さんはミューヘンからマドリードに 击击 霜 里

忙であった。 新しいネオクラシックの構成に午前中を費 スに通学専らアンドレ・ロー し、午後はルーブルその他画廊の見学で多 ・ビシエールの師導を受けて構図の研究や 黒田さんは当時アカデミー・モンパルナ Ł

が来た。清水君は間もなく同じコラロッシ 室には遠山五郎、阪本繁二郎、 と私はアカデミー・コラロッシでシャルル ス・ドニ、やケルベの指導を受けて居た。 ってしまった。 の彫刻ブルデルの教室に移り、彫刻家とな ・ゲランに師事することとなった。私の教 黒田さんの紹介によって霜鳥さん三輪君 橋本君はアカデミー その後清水多嘉示、中野和高など (洋画家) ・ランソンでモー 小山敬三が

No. 8 0



近藤浩一路作 広沢雨気

#### 「1972京都ビエンナーレ」

の開催

展覧会において常

対るような最適会 対るような最適会 と先鋭的な感覚によって試みる 対策術活動を、いま 一歩積極的に推進

を新たに設けることも美術館として重要な企画の一つであろうと思われます。すなわちへ前衛美術とが今後歩むであろういくつかの道程を予想して、注目すべき、また期待すべき若い作家たちを選抜し、その活動を評価して次代の美術の旗手たるべく世に問うということです。<前衛美術とあるいはこれからの美術活動が、なお美術館というものを必要とするかどうかの論義はあるとしても、それはむしろ人美術との中で決定されることでしょう。今日の美術の状況に照して、美術館自体がかかる新しい美術に照して、美術館自体がかかる新しい美術に照して、美術館自体がかかる新しい美術に照して、美術館自体がかかる新しい美術に照して、美術館自体がかかる新しい美術にいて、一人でも多くの秀れた作家を世に送る機会ができれば意義ある企画だと考えます。

全国的にこの種の展覧会がきわめて数

<一九七二京都ビエンナーレVは以上の はうな意図で企画されましたが、これは当 面へ京都アンデバンダンVと隔年制で開催 されることになります。今回選抜された三 されることになります。今回選抜された三 されることになります。今回選抜された三 されることになります。今回選抜された三 されることになります。今回選抜された三 がンVや個展や選抜展で活躍し、注目され ならはそれぞれ自らの信ずる制作意図で新 作を発表します。ご期待下さい。

田 淹 鈴 志 佐 夕 楠 木 北 岸 川 川 河 片 柏 郭 奥 岡 大 植 并 并 狗 池 芥 代 本 木 野 野 ボ 「村 辻 川 村 越 口 岡 えつと 徳 善 靖 「 垂 由 貴 賢 慶 俊 次 夫 明 樹 シ 男 佑 央 芳 郎 夫 夫 和 む 俊 巳 夫 敬 二 之 由 二 一 耿

なお会期中の二月二六日(土)午後二時から京都市美術館講演室において講演時から京都市美術館講演室において講演時から京都市美術館・学芸員) 「一九七二京都ピエンナーレー・寄せて

分に職賣を果し得ない不安もご ざい ます けれども、何かとご不便をおかけしたり十 ますようお願い申しあげます。 が、できるだけ微力を尽したいと考えてお とでありましたから、おひきうけしました た。非常動嘱託の身分でよろしいというこ ばかりでありましたので、少々当惑しまし 間、通いなれた京大文学部から解放された りますから、どうか格別のご支援を賜わり した。三月末に定年を迎えるまで、四十年 四月早々に京都市美術館長を委嘱されま

年とともに京都を愛するようになってきま した。美学の研究という専攻柄、 私は京都に生まれ、京都に育ちました。



する作家と観賞者の大きなまど いの 中か を期しております。奉仕する職員と、共演 同も、心構えをあらたにして、一層の奮起 的な態勢を整えていただけました。職員一 課制度が採られたりしまして、一段と効果 革されまして、次長制度、総務と学芸の二 らぬものがあります。今般、館の職制も改 従来、館の優秀な職員諸君の努力は並々な ればならず、その期待にこたえるために、 全国的もしくは世界的視野で展望されなけ 申すまでもありませんから、その使命も、 的位置づけがその任務の背景にあることは 賞する市民たちのために、重大な役割を果 ります。 かでもお役に立てば光栄であると思ってお してきました。京都の歴史的ならびに文化 な大美術館として、制作する作家たちと観 京都市美術館は、これまでも、たぐい稀

深い間柄にあります。市の美術館には、二 十年来の評議員として、また美術を愛する 一市民として出入りしてきました。いくら ぶりであった。しかし入選の 枠は 従来 催

ら、新しい未来が開かれることを念じてや

であった。

度の一一三八点を一一七点も上回る盛況 た。今年の応募総数は一二五五点で昨年 恒例の京展は四月二十五日から始まっ れた。 て、もっと冒険心が欲しいとの声も聞か どおりで、各科と 京展は美術館が創立されて、二年後の

若手の依嘱出品の 審査員が多数出品 みであったのが、 は、昨年までは、 列しされない状態 版画も昨年あたり 狭き門であった。 から応募者が急増 殊に洋画部門は応 し、一部屋では陳 入選率約三〇%の 入選作一六三点、 募作品五四七点、 あったといえる。 もかなりの厳選で また日本画部門 展は市展時代から数えるとすでに三十三 最も重要な事業の一つとなっている。 に根を下し、美術館の春の行事として 回を迎えている。すっかり京都市民の間 十五年には万国博を記念して、万博記念 第十五回京展では版画が一つの部屋にま 京展を開催し、万博記念賞を設けた。京 とめて陳列されるようになった。昭和四 との年、書部門が参加した。三十八年、 後、当館で第五回京展をひらいた。なお までは中断した。昭和二十八年接収解除 駐留軍によって本館を接収されてから、 昭和十年、日本画、洋画、彫塑、工芸の 専門学校等に移して開いたが、二十七年 二十三年まで、会場を博物館、 展と名称をかえて第一回が発足したが、 のに端を発する。戦後の昭和二十年、京 四部門をもって第一回市展が開催された なお五月六日には新設された講演室で

<del>--</del> 2 --

京

展

開

例年にない活気を呈した。 授賞式を行った。受賞者、審査員も出席 例年以上の盛況であった。

第24回

ていたが、ある面では規格的になりすぎ て応募作品が質的に向上したことを述べ 各部門の審査員がその講評で、共通し

みません。

である。 由画の様な作品を並べてパーントル、ディ 道でルーマニヤの貴族のお嬢様方と知り合 フェル塔の絵は、そのアトリエ附近を描い した。海老原喜之助がアンデバンダンに自 たものである。佐伯の絵にはその後よくこ い、国賓のような待遇で王室に迎へられも の附近のおんぼろ家や門などが描かれた。 マンシュ、日隁画家と批判されたのも当時 石黒旦那が来たのもその頃で絵よりも柔 私がサロン・ド ートンヌに入選したエミ



て、既に相当の好評を博して居た。 の三四軒隣のアトリエに最初の夫人と居 藤田嗣治は私の最初に居たドランブル街

ケ月を歩き廻った。ローマから先は殆ど即 **興詩人を手にして、十四年一月一日のカブ** 十三年の冬から独りスイス、イタリアの二 に、スペインを半月計り独り旅をしたり。 私は須田さんから聞いて居た知識を基

> た想出もなつかしい。 リ島のグロック、アズラに及び宿飲を巡っ

なかった。 教授に出逢った。何年かを経てその令息の う。フィレンチェの駅のホームで内藤湖南 う在留京都人は橋本君一人であったかと思 一人に私の姪が嫁するなど勿論思っても居 パリのアトリエに帰った二月の頃にはも

展に私の絵が並べられて、出品を共にした 林倭衛は既に亡く硲伊之助は脱会して、遂 に会員となって三十年余独り居 揃っ て居 帰国前ふとしたきっかけで春陽会第二回

美大昇格に黒田さん須田さんを迎へて創立 が完成した。 篤、高林和作の就職を条件として就任、京 昭和二十四年京美専に招聘され国盛義

術館の洋画部の評議員も須田さん黒田さん 私が残り京美大の創立時代の洋画科のスタ の過重に圧しられて居る現在である。 伊谷君の逝去によって私一人となって責任 ッフも私一人となってしまった。京都市美 関西美術会の会員も今日では里見勝蔵と

である。 たり、逢へば互に昔を語ってつきない友達 れたり電話をして呉れたり、手紙をよこし 向井君との親交は変らず京都に訪ねて呉

媏 弥 之 我

周

辺

(3)

須田さん持参のスペインのつくね芋を貰い れた。とろろ汁の好きな児島虎次郎さんが ニを手に入れた苦労談を聞かされた想出も その折児島さんの話題にグレコやセガンチ に、ソムラールの宿に来たことがあった。 須田さんはパリに来る度に私を訪ねて呉

沢部さんの家でお逢いしたのが始めであっ 渉は大正十年アメリカから帰朝されて多々 はよく舞鳥さんを訪ねた。霜鳥さんとの交 りの獅子文六など相当心配して居たのを覚 九月二日の晩方なされた。慶応での顔見知 を送って間もなく東京震災を報道がパリの 何不自由を感じなかった。霜鳥さんの帰国 旅など英語に堪能な霜鳥さんとの同道は、 ベルギーの旅を共にした。殊にイギリスの は一層親しくなり、イギリス、オランダ、 た。ゲランの教室で毎日顔を合はしてから の頃黒田さんが帰国の途につかれると、私 へて居る。彼は霜鳥も京都に移転して居て よかったねと恙やんで居た。 大正十二年カルナバルが過ぎミカレーム

> 旅に出てそのまま帰ってしまった。 **瑤、広田百豊など、嘗て関美で黒田さんと** 之等が来たが鍋井は一ヶ月討りで帰ってし 共に学んだ足立源一郎、彼について鍋井克 佐伯は里見の半年に及ぶ奔走斡旋の結果、 が里見をたよって妻子連れでやって来た。 まった。梅原さんも来たが昔のよさが無く モーリス・ド・ヴラマンクに節事すること なったと言って、二ケ月計りでイタリアの しい日本人画家が来た。京都人では石崎光 震災のほとぼりが覚めると突如として夥 翌大正十三年になって罹災した佐伯祐三

後を続いで佐伯が入った。そのアトリエに 田毅が居た。E・H・エリックや岡田真澄 近くのシャトー街十三番地のアトリエに岡 は岡田時代からよく行って居たので佐伯と の父でインゲボルグ夫人と新婚時代を過ご ロニ街七番地のアトリエに移ったが、すぐ も親しくなった。 して居た。広い三階の部室だったが、その 私は霜鳥さんのアトリエを譲り受けてべ

No. 81



梶原緋佐子 作 いでゆの雨

#### 所蔵品が展示されます。 和46年度一年間の新収品を中心に美術館 ども開かれ相かわらずにぎやかです。美 五月・六月は東京展を 終った 光 風 会 高大生二〇〇円(一五〇円) 大 人三〇〇円(二〇〇円) 大 人三〇〇円(二〇〇円) (前売)二五〇円(二五〇円) 第25回 全関西行動美術展 王関西現代書展覧会 ループ道8回展 ープ7・4展 ト展、新槐樹社展が西下 料 22 28 覧 社団法人 第 20 回 第8回 京都府立大学 三部展 新槐樹社 会 全関西現代書展覧会

新興美術院展

は二〇名以上の団体料金

31 30 } } 6/6 6/4

年度の総会は5月12日楽友会館で行われ れ、友の会が毎年の「固定会員」に新規入 同数に達しましたが、今後も増加が見込ま 10日現在で昨年度の会員数七六六人とほぼ

友

なお前館長木下稔氏は京都市経済局長に 多数の市民の期待をあつめ (美術館主幹)

昭和四十七年四月三十日発行京都市美術館ニュース №80 煎都咖·四一○七(代)都市左京区岡崎 公園 内部市 美 術 館

わった。昭和三十七年、七十八才で死去。

などとも親しく交

# 美術館二課制となる

会では46年度事業、会計報告を承認し、

制であったが、今回課制がとられ、館長、 に就任したほか若干の人事異動があった。 館でも京都大学名誉教授井島勉氏が新館長 一部の機構改革を行ったが、この結果美術 またこれまで館長、副館長、主幹、主査 京都市は四月二日、補職者の人事異動と 総務課長、学芸課長、総務課主査

学芸課主査となった。新人事は次の通り。

総務課長

(美術館主査) (京都市行政研 年度の事業および予算案が決りました。総 会での議決事項については近く会員のみな

紙写真説

ョコ六一センチの小品である。 九回院展出品作品、タテ五一・五センチ、 りある。との「広沢雨余」は昭和九年、 ことがあり、京の風物を描いた佳品がかな に出品するようになった。京都にも住んだ

作品を発表している。フランスにも長く居 、水墨画に転じて、院展

リシヤの自

Ø

場

ている者にとっ シャ彫刻を勉強し れなかった。ギリ たと感動を抑えら ついにここまで来 空港に着いた時、 飛行機がアテネ

ギリシャ本土

京

子

馬 は憧憬の地であ

化され、 となってかえって ぐんだ。それを思 の美術を生み、は の凡てがギリシヤ 空、そういったも いう言葉が更に美 そのギリシ ギリシヤと ŋ 強い魅力 シ Ť の 来た時、

ない。 いる。 の明るさがギリシャ美術の源なのかもしれ の地に今、 アテネの空港ビルは明るかった。こ 自分は足を踏みこもうとして

理石が空に映えてまぶしい程である。しか 日本の車の広告、 しそれらはあまりに身ぎれいで、 ない。大理石で造られた美しいビルディン 窓にうつるギリシヤとの間に妙なくいちが 向う時から自分の考えていたギリシャと車 グ、それらは近代的な美を誇っている。大 かれているが、日本の光景となんら変りが いが生じているのだ。コカコーラの広告で ナイズされた町並なのだ。 ところが空港からアテネ市街へとバスで 確かにギリシヤ文字で書 크 | |

のに周囲を圧している。写真で観たとおり と居並び、 整のとれた美しい建物である。列柱は整然 神殿の美麗な姿が人目をひいた。確かに均 バスがアクロポリスの丘の見える所まで 「白亜の殿堂」であるパルテノン 建物自体そんなに大きくもない

るのた。 に整いすぎて、古代と びったりする。それが余り 空には大理石の建物が一番 るのだ。確かにギリシャの たなにかが食いちがってい の姿、形である。 メージからかけ離れてい

の繁華街の近くにある。 に一歩入るとミケネ、 国立考古博物館はアテネ クレ +

に往時の光沢を放っている。

はディプロンの頭部、翼を拡げるニケ像な 感が電気にうたれたように自分の中に伝わ ってくる。 ではわからなかった大きさ、立体感、生命 は正しく本物のギリシャ彫刻である。写真 った物が、今、 が、歴史の重みを示している。常々写真を ていたのであろう。土色に染まった大理石 みて、是非、 た。ほぼ完壁な巨像は長い間土の中で眠っ されたという三米余りもある少年像であっ 先に目に入ってきたのはスニオン岬で出土 目にみて素通りして、 しかし自分の目的は彫刻だったので、 さして広くないその部屋の中に 自分の目で観て、確かめたか クの部屋の前に立つと、 自分の目の前にある。それ 彫刻室へ入った。

だが、ま りから醒めて、 りでもこんな状態で置かれていたのである る。これらの像はその昔、

は今古代ギリシャを再現している。彼等を 能な程、身近な存在なのだ。地中の長い眠 がそれらの脇に立って記念撮影するのも可 ら宝物扱いされているわけではなく、観客 点位の作品が並べられている。それらは凡 つけられていて、部屋には少なくとも約10 う。各部屋は主軸になる名品の像の名前が 日本でいえば国宝級のものでありなが 再び息を吹き返した像たち

黄金のマスク、黄金の牛頭部などはいまだ タ文化の発掘物が大きな室を占めている。 目前にして二千五百年の歳月の隔りはほと んどない。ギリシャ

人の血が彼等を通じて

レリーフには死者が

にその美を誇るかのように並べ られて い どの名品が、ケースの中で澄ましかえって いるのではなくて、 無造作にまるで観覧者 神殿の中やまわ 一番 初 横 死の暗いイメージを取除いてくれる。 そこには死という暗い陰欝さは 微 塵 もな 分達を理想化したとはいえないだろうか。 い。その上ギリシャの空がいやがうえにも の姿を永遠に普遍的なものにするために自 あり、姿である。ギリシャ人たちは自分達 のレリーフの人物像にも似た美しい顔立で 皆美しい。当時の一流の彫刻家の手で彫ら れたものもあるのだろう。 ないのではないか。墓碑に描かれた人物は ながらも、これほど美化している民族も少 ともに同席している。死を厳粛なものとし あたかも生きているかのようにその家族と 描かれているのだが、 の日常生活の一こまが死者への追悼として クラシック彫刻の部屋には無数の墓碑レ ーフが置かれている。当時のギリシヤ

パルテノン神殿

館を一歩でると自動車が行き交い、 とまた戻る。 ーラの広告が目につく近代都市、 に私が考えていたギリシヤがあった。美術 ギリシヤに来てよかった。無数の彫刻の中 どっぷりとつかることが出来る。やっぱり の中にいるかぎり、古代ギリシャの世界に といわんばかりに追いかけてくる。 一個一個の像が「見逃すと承知しないぞ」 で、反対にこっちを責めたてる程である。 美術館の彫刻はその数があまり に 厖 大 アテネヘ 美術館

(京都市美術館員)

## 我 周 (4)

貸家を京都の仮寓にして居られた関係もあ た以上に、滋賀県にあった須田本家が私の 生家が近所で、 存在である。前にも述べたが須田さんとは 我が周辺の中で特筆すべきは須田さんの 一中で三年の上級生であっ

たやで、 懸って居り中庭があり玄関があった。 構へで猿戸を開けて入り五六歩行くと、 知る範囲では所謂中京の素封家らしいしも く金大の商標を抜きあげた茶褐色の暖簾が 須田家は金大という屋号があったが私の 間口の広い盲格子と続く土塀の大 白

厳を身に備へていた。 ふさはしく謹厳で、ちよっと近寄り難い威 須田さんはこの家の住人としてまことに

箱を持たなかったと述懐された。 に包み、絵の具を袂に入れ筆を懐に絵の具 に出るときもカンバスとパレットを風呂敷 であった。渡欧以前は近所の目を憚り写生 とく平常は縞の着物に角帯をしめた着流し 京大を出た須田さんは中京しきたりのご

脊年時代にはよい意味での中京人として

生来類身量駆まことにスマートだったと言 受けとられたようでもあった。須田さんは の鍔広の帽子を眼深に心もち傾き加減に冠 へば嘘のようであるが、スペイン時代は黒 



タイの締め方、背広の衿つけ肩の仕立など あったが首の太さと高さの比率アスコット に黒であった。当時一般が硬い立カラーで イト、フィットの背広を着こなし、靴は常 濃紺の無地時には紺地に白い細縞のタ

> その挙手の礼の差異など、一々身振りよろ 念の入った長り方言をの諸軍を拝施したこ とがあった。欧洲各国の将校の軍帽軍服又 しく教へられたには驚いた。

ある。 堂々たるゼントルマンを思はしめた所以で 一印象は欧洲人の間にあっても、まことに たのであって、パリで逢った須田さんの第 な品のよい、風格あるお酒落を形成して居 斯様な博識の根拠が須田さんのスマー

のたしなみが、人々に謹厳叮重に過ぎると

]]]

弥

之

られた。 に答ふるための努力に依ったと述懐して居 であったお蔭で、語学の優れた先生の難問 の語学の力は深田先生と一対一の教授学生 に誘はれて講義を受けたそうであるが、私 トガル語、イタリー語は読むことが出来た 実にうまいと賞め合って居たという。ポル 下宿人はセニョール・スダはスペイン語が らしく正しい独語で話して呉れるといい。 あった。又下宿人の一人はスペイン人であ ンでの常宿であった。マダムはドイツ系で った。マダムはヘルン・スダは日本人に珍 いて語った。彼の下宿が須田さんのロンド の友人には素晴らしい男が居るんだねと繁 或時ロンドンから慶応の友人が来た。 ロシヤ語も三高時代同級生の高倉テル

音楽に就いての造詣も深くクラシックは

れて居るとて須田さんが蜜慨して居たこと 折新聞が挙って名舞踊家として 紹介した れもした。先年アルヘンチーナが来日した が、これが全部アルヘンチニー ス、ラッケルメーレにも及んだ。アルヘン チニータ、コルドベシータの舞踊を推賞さ いうに及ばげる。 ーテは殊に詳しく 歌手ではロリタメンデ タと混同さ

時代に始まり、その豊かな音声は家元先代 金剛巌師の推賞するところであった。 金剛流の謡は定評があったが稽古は三高

ぜと笑はれたものである。 まで来て酒の味も知らず、帰る馬鹿が居る をさまして後別れたことがある。折角パリ テルを一ばいやってみようということにな 或時二人で散歩の折須田さんの提唱でカク た。須田さんは酒は飲めない方であった。 吞み、最後まで膝を崩さなかったと語られ たようで父はこの正座の姿勢で朝から酒を 見たことがなかった。これは先代譲りだっ た間柄だが遂に正座端座以外にあぐら姿を り、結果加茂川の橋上で涼風に吹かれて酔 と評判が立った。その馬鹿はお前と須田や 須田さんとは私など相当近く席を共にし

られたのはまことにお気の毒であっ 酒も吞まず煙草も吸はず肝硬変で亡くな

(洋画家)

#### 京都市美術館二ュ

No. 82



#### 呂、伊藤幸治郎、葛川都留子、 北島ただし、的場正夫、斉藤斉、吉田妃 年度の事業計画案、収支予算案をそれぞ 島勉館長らも出席しました。昭和6年度 日午後6時から京大楽友会館で開かれ、 れ審議決定しました。総会終了後、懇親 ーティが開かれ、ビールをくみかわし 総会では次のような事が決りました。 大野毅(会計)、山本久吉(監査)、 田中學、副会長 重達夫 美術館の井 大藪基 日、大和文華館、石上神宮見学。 の美術)日展、美術館特別展(著名作家 リタン美術館展、美術館特別展(大正期 新京都美術展、新制作展、自由美術展、 展、関西国展、 全関西行動展(以上実施ずみ)主体美術 〔見学会〕二回行なう。第一回は5月28 〔講演会〕京都市主催展、共催展などに 〔展覧会観賞事業〕京展、ボストン美術 田畑武兵衛、井上与宗夫、笠島好子、 山中英治、藤田猛

独立美術展、メトロポ

は西田秀雄氏ほか。本年は抽選等はなし い、さらに多くの人々に友の会を利用し 〔児童美術教室〕四月から開講中、講師 〔会員拡大〕会員をもうひと回り増やし 入室者全員が入室した。 一二八名。



度に購入、寄贈された新収作品を中心に、 当館所蔵品を展覧しています。

和27年)の8点です。それぞれ京都を主た (昭和40年)、水清公子「楽器」(昭和8年) **家ですし、作品もその作家の技倆を知るに** る活躍舞台として確とした地歩を築いた作 そして陶器で清水六兵衛「兎文花瓶」(四 無田重太郎「旒る女」(大正15年)、 「流れ」(昭和27年、第10回日展)、洋画で 作「北野神社」(昭和35年)、「藁塚」 新収された作品は、日本画で榊原紫峰一 第6回二紀展)、高林

帝展出品作で、タテー七九センチ、 ハニセンチの二曲半双屛風である。 昭和四十七年五月三十日発行都市美術館ニュース №81

**糸の作品と戦後の作品を選んで陳列し、伝** 今回はこれらを中心に、日本画では国展

品の作家を中心に、彼らの周辺を陳列し京 る一端を展観します。また洋画では新収作 都における洋画の盛んな摂取期を見たいと とその意匠を展観することになります。。 思います。また工芸は京都の伝統的な技術 会期 昭和47年5月27日から6月25日ま (ただし、月曜休室)

大人三〇月

紙写真説

認められた。その後官展に移り、 に「暮れゆく停車場(当館蔵)」を出品し、 い。文学的な味わいのある作品である。 作者梶原緋佐子は明治二十三年京都に生 もなければ風俗画と呼ばれるものでもな 春雨に煙る湯の里の風情が情趣豊かに描 菊池契月に師事し、大正七年第一回展 いわゆる美人画に属するもの

猛

準備が進められてきたが、このほど完成を 蔵品目録の刊行がくわだてられ、鋭意その 美術館の新収蔵庫の建設を機に美術館所

館所蔵品の大要について一応の見当がつく 点の作品写真が収録されているので、美術 ることになっているが、AB版大、一五九 ように編集されている。 ベージで、原色版、白黒版合わせて約三百 この目録は美術館で来館者にも販布され

レクションとなりつつある。 京都の美術についてのかなりまとまったコ 五一点、近代日本美術についての、とくに 所蔵品は昭和四十六年九月一日現在で四

美術館などと並んで現代日本美術の有力な も知れないが、それにしても東京国立近代 は十分なテンポであったとはいい得ないか 術の歩みをコレクションとして反映するに たことになるが、伝統と力量ある京都の美 る。平均すると毎年十点余の作品を収集し 美術館が開館したのは昭和八年であるの 今日まですでに四十年の日子をへてい クションということができる。

> 自己の趣味と鑑賞眼で、自由に欲するとこ て、限られた予算の中で有効に作品を収集 ろの美術品を収集、蓄積する場合は別とし うことではない。財力の卓越した個人が、 つの館においても、開館以来全く同じとい る。それは館によってことなるし、また一 しようとすれば、目安や基準は不可欠にな 作品収集の目安にはいろいろなものがあ

深まることも重要なことである。 れを通じて鑑賞者の美術についての認識が が全体としてある時代、時期を反映し、そ ととは当然の目安になるが、コレクション できないよりは当然好ましいことである。 効果の内容として、作品を通じてある時代 の美術の総体についての概観ができる事も 育的効果を上げなければならないが、その 設であるから、美術品の展示を通じて、教 個々の作家のすぐれた作品の収集という 美術館は、博物館法でいう社 会 教 育 施

もコレクションが、この様な役割を果すた めには、 こう考うてみるとわれわれの館において 今後も一層の努力が必要である。

> 標でもある。算術的計算でいくと年間十八 て設計されたが、これは予想と同時に、目 点のテンポで、これまでのテンポよりは に所蔵作品が一千点になることを 予想し 規模なものである。設計当時、 庫の約三倍の容積をもっており、かなり大 新収蔵庫は、現在使用されている仮収蔵 三十年後

実のためにである。 社会的な要請に応え得るコレクションの充 一ばいたなればよいということではなく、 も必要なことである。もちろん収蔵庫さえ 当然購入予算を増やすことが何んとして

応の予算的土台が築かれたことはよろこば 方面の努力によって美術品購入のための 購入費にくらべるとまだまだ少ないが、各 度は一千万円になった。同種類の美術館の 数年前まで二百万円程度の予算が、本年

定まっていくので見通しをもった交渉が必 だけが相場はずれに安く購入できるような の美術館をふくめた複数の購入者側の間で 要素も加わってのことであろうが、美術館 の値上りもめざましいものがある。 しかし遺憾なことにここ数年来、 美術館の「購入相場」も他 投機的 美術品

派なものである。須田さんのはたしか緑が て居て、味に拡げると全くの円形とかる立

がつきましたがと書いてあった。 シーで座ったまま脱ぎ忘れ、汽車の中で気 数日後マドリードからの通信によるとタキ たあたり、須田さんによく似合って居た。 黒の帽子にこのカーバーを肩に跳ね上げ

ったようにならず冷汗もので、もうこりこ が婦人ばかりの受講者とあって、結果は思 に作ったために、材料調味分量の点と相手

して居られたがスペインで自炊の経験もあ りしましたと報告された。須田さんは謙遜

渡欧の前には大市のすっぽん、瓢亨の

席に脱ぎ忘れて来ましたとナポリからの便 之れも亦イタリーの温かさにタキシーの座 にぴったりで大変な気に入りようでした。 ブルーの素適なしろ物で、須田さんの好み なり、是非にと手に入れました。ネービー ンドンで買って来ました。一流の店のショ ーウインドに飾られて居るのを見て欲しく られた。今度はこのオーバーコー 帰国直前にロンドンの帰途巴里に立ち寄 トをロ

船の梯子に移るとき、 横切りアレキサンドリヤに寄港し、乗替え してしまいましたと絵葉書に書 かれて 居 タリーで買ったばかりの手鞄を、 キサンドリヤの高浪の埠頭でランチから本 てギリシヤに渡る他に道がなかった。アレ その頃ギリシャに行くには船で地中海を 小脇に挟んで居たイ

傘に到っては数退りなくで或初夏の頃京

クションの骨格をなす作品が少なくない ぐれたものをということで、美術館のコ 蔵品として自己の作品が収まる以上は、す 寄贈作品も、これまで当館所蔵 品の 構成 上、大きな役割をはたして来た。美術館所 **購入とは別に作家、所蔵家の第志による** の・レ

記事が流れて、 を貸倉庫のような形で預るようにもとれる 一部の新聞で美術館が所蔵家、作家の作品 新収蔵庫の完成に関連して、昨年あたり 各方面からとい合わせがあ

ないし実現の可能性は全くない。 徹底するには所蔵庫は狭少といわざるを得 は一案である。しかしサービスをそこまで それらの作品を美術館であずかるというの えて困っている向きもあるので、 多くの作家は大作の出品画を自宅にかか たしかに

なってくる。 展示可能なもの、 て活用できるもの、とくに平常疎列などに ある。 客託を受ける場合、 館も行っている美術品の寄託制度の確立で ただ現在考えられているのは、 というのは基本的条件に 他の美術

ねが何より重要である。 形成にはたゆまざる恒常的な努力のつみ重 日でつくられないように、コレクションの なコレクションの形成ということが、 の作品収集の基本方向であるが、歴史が一 京都を中心とした日本の近代美術の豊富

都美術館で大夕立に塗われた。途方にくれ て居られたこともある。 て、骨が大方折れてしまいましたと苦笑し 乗る拍子に閉じきらない傘がドアに挾まれ 飛び出したはよかったが、急ぎタクシーに 一年振りの傘に巡り会った嬉しさに雨中に に手を入れると美術館の傘札が出て来た。 ながら久々に着た夏服のズボンのポケット

かけて居ないのである。 れでタキシーで帰りましたと翌日逢ったと た。須田さんが慌てて乗った車は目的のサ ドで一杯のキャフェーで語り合ったが、或 られたが何れの場合も、他人に何の迷惑も き語られた。以上の様に数々の失敗は重ね ヌにつっ走った。遂に終点で降され時間切 ンミッセルに向わず反対のポルトバンサン 晩などメトロの終電ギリギリになって別れ によく来られた。二人はカフェーロ カルチエラタンから私の居たモンパルナス 次は物忘れの失敗ではないが須田さんは

果たして居られたことを今更思い出す。 一片のメモもとらず約束を違えず義務を (洋画家)

 $\Diamond$ 

 $\Diamond$ 

 $\Diamond$ 

]]]

弥

Ż

は全く本物であった。これは府立第一高女 海老、貝のままのあさりを混えて煮たもの 家庭の一日スペイン料理を供したいから来 数知れないが、美術に関する以外に料理の の同窓会から講習を依頼され、御馳走にな てスペインで喰べたが須田さん作るところ である。塩バターの味付で御飯の黄色はた った。スペインの五目飯で黄色の御飯の中 るようにと招待された。バレンシヤ飯であ **講師実演をされたことがある。出雲路の新** ったのはその試作であった。 しかくちなしの実で色付けされて居た。嘗 須田さんが講演講義をされたことは勿論 人蓼、野菜等のミヂン切りと、小

本番の日は多勢が試食するとあって大量

戦後肥えられると共に滅退、殊に晩年に到

若くスマートであった頃は食欲旺盛で、

であった。

里で語って居られた。併し麵類だけは嫌い あるものを一願喰べて廻って来ましたと巴 会席、鳥居本の祇園料理等々、京都の名の

るが、スペインのものは黒地で衿元に金モ 昔旧制高校生が皆着て居た将校マントであ がある。カーパーとは合羽の語源で、その のカーバーを羽織って巴里に来られたこと 味がないと苦にして居られた。 っては腹のすくことがなく、何を喰べても 敗が度々あった。或時素晴らしいスペイン 慎重な須田さんに意外な似合しからぬ失 ルの飾りがあり、前身頃の裏には華やか

な赤や緑や藍などの一条の色羅紗が施され

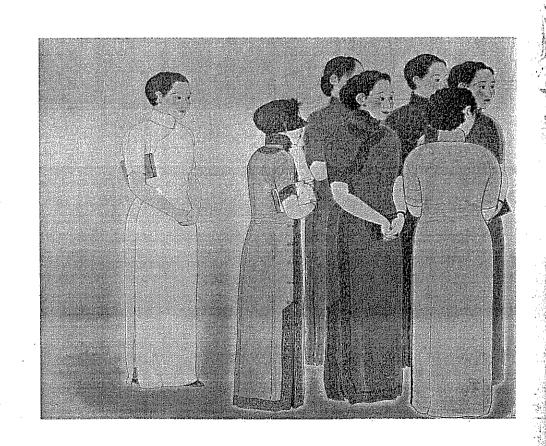
#### 京都市美術館ニュ

京都市美術館

京都市左京区岡崎公園

昭和47年9月1日発行

83 No.



12 20 31 16 { 21 7/26 } 4 高大生二〇〇円(一〇〇円)一〇〇円大 人三〇〇円(一〇〇円)一〇〇円)一〇〇円 前売 毎日書道展 京都展 -} 9/6 . 9/6 9/6 第 10 具回 第 1 仮回 第 26 市回 八 大 ちびっこア 第 3 七回 公 日本図案家協会半会員展社団法人 学 孶 美 当 月 術 小高大現 中大 生生人 連 美 小高大 中大 生生人 盟展 館 無術 無 展 0 料 26 { 10/1 26 ≀ 28 18 ? 25 12 { 18 12 } 16 8/31 8/31 展 10 私 N児童美術研究室展・ 京都市中学校書作品展覧会 第23回水明書道会展(一般部) 第 10 回 同志社・立教72年展 第 26 回 覧 **竜谷大学書道部学外展** 大学美術連盟展 現代児童美術研究会展6回 「プHOBCOM展 市民美術展 無 会 展 五五五 無

出品料

められるものはこの限りではありませんたてまえですが、本展覧会に不適当と認審 査 出品作品はすべて陳列する 品搬入と同時に搬入して下さい。 一点につき七百円

紙に記入のうえ搬入して下さい。から午後四時まで。美術館で所定の用から午後四時まで。美術館で所定の用

受付けません。 高校生以上を対象とし、中学生以下は 高校生以上を対象とし、中学生以下は の創作に限ります。 ります。 に不適当なものは受付けないことがあ 寸法制限はありませんが、運搬や陳列 。会場において作品預証と九月六日(月)午前十時から

第二十六回

ませんので必ず定められた日に搬出してた作品の保存は京都市として責任を負え 引換えにお渡しします。(搬出日をすぎ

# 市民美術展は京都市に在住、 市民美術展作品募集要項

すので、 です。本年は下記のとおり作品を募集しま ア美術家のために例年京都市が行う展覧会 通学先 (高校生以上) をもつアマチニ ふるって作品をお寄せ下さい。 もしくは诵

京都市左京区岡崎公園内

市長賞報道関係社賞など。

電(七七一)四一〇七・

四

0,7

京都

美術館、

京都市美術館

縁をつけること) 日本画(枠張りのものに額 (木)から九月六日(水)まで 昭和四十七年八月三十一日

募集作品

水彩、パステル、版画を含) 洋画(額縁をつけること。 塑

年五葉会展に出品されたものである。 の手法を取入れて、日本画の近代化の推進 チ、ョコ九一・五センチの軸物で、 者ともなった。 た洋行をして、西洋画に感銘を受け、 昭和四十七年六月三十日発行京都市美術館ニュース &82 発行者 京都画壇のリ 本画は、 タテー 九四 セ ・となった。 昭和十

電話京都伽一四一〇七(代)京都市左京区岡崎公園内行者 京都市美術館

館 **表紙写真 \** 밂 設

当

ながら、 晩年の佳品である。 れ、淡い色彩が施されている。軽妙であり の木に、鳥が二羽、戯れている。墨でかか 激しく降った雨の後、まだ靄がかった柳 鋭い写実精神が伺われる。 作者の

御所である。元治元年京都に生れた。 竹内栖鳳はいうまでもなく京都画壇の大 幸野

楳嶺に師事し、

明治二十年頃から頭角をあ

ŧ

前田青邨作

## 周 辺 (6)

んに、事もあろうにマドリードで娼家を案

世の中には、この様な謹厳潔白な須田さ

][[ 端 弥 之

乗越乗り違へも何度かあったそうである。 気まりの悪いことでした。と語られたが、 た。どうやら竜神の芸者衆でした。何とも 若いきれいどころで、堺近くで下車しまし 三四人掛りで起して呉れました。 だまま白川夜舟、動揺のとたん坐席から抛 電車でオーバーのポケットに両手を突込ん 勢であろうか。併しいねむりは若い頃から り出されうつ伏せのままもがいて居ると、 た。今にして思えば既に体調が不順だった こぼして居た。 ジンマシンをよく 出され 晩年は殊にひどく、 須田さんを襲う腫魔は時処をかまわずで 和歌山高商に日帰りで出講の頃、 夜は熟睡が出来ないと 彼女達は

三人はかぶり付であった。黒田さんは耳が を枕に仮睡された。黒田さん須田さんと三 人で東和映画の試写会をよく見たが、常に よくいねむりをされた。研究室で椅子の背 少年国さんも中京のぼんさんらしく祇園 美大頃も学長代理就任までは、 須田さんはいねむらない為、私は 一学期の学 教授会で

二人のお附合という次第であった。

れたそうである。 友に告げると、相手は、祇園祭を知らなか 期試験が七月十七日の祭の当日から始まっ ったので、哀れな子供も居るものだとあさ た。一中とは何と不酔な学校であろうと級

と、本庁採用にパスして有能な国鉄人とな 詳しかった。子息の寛君は遂に京大を出る 又汽車殊に汽鑵車が好きで、型の種類に



にすることになる。 たから、数年ぶりにことしは洋画をテーマ昨年は「竹内栖飖とその後の展開」であっ

を認めようとするのである。 の Persönlichkeit (個性) に、 の自由を求めている。したがって、芸術家 うエッセイをかいた。 山脇信徳が「停車場の朝」を出品 したと 明治四十三年の第三回文展に若い洋画家 雑誌「スパル」に「緑色の太陽」とい 髙村光太郎はこの作品を大変ほめる一 「僕は芸術界の絶対 無限の権威

れら二つはともに日本の洋画のアカデミズ

ムを形成していた。

秋の特別展

大正期の洋

曲

だと思って Schätzen(評価)したいのである。僕が青 を非としない。 緑色の太陽をかく の感情が充実しているかを問題にしたい。 みることによって、 ことを好ましいとし、 ことなく露出し、 体ははだ色に、草原は緑に、ではあるけれ 卒業制作に「裸体美人」をかいている。 万鉄五郎は明治四十四年東京美 術 学 象主義の大胆な宣言とされているが、 た。この「緑色の太陽」は日本における印 い。むしろ自分と異った自然の見方のある 人が、自然の核心をうかがい得たか、そう その個性を出発点として、その作品を それはその人の個性にもとづくとこ ゴッホやゴーガンの影響もはばかる いるものを、 苦惰をいうべきこと で は な 」という意味のことをかい 大担鮮烈な印象を与え 人があっても 僕 は こ れ いかほどまでにその人 いかほどまでにその 他の人が赤だと見 校の 画家

黒田清輝がそうであったように、 ラファ

される。昨年は「京都日本画の精華」、一

美術館の秋の特別展は「大正期の洋画」

十一月三日から二十六日まで開催

助 て居た。 も見ず帰って行かれた、 内させたと言う先輩で豪の者が居た。須田 さんは断り切れずその家の前まで行って、 又或る画家は須田さんの斡旋を得て、 とその男は吹聴し 蒼篳として、

後

まったので、後始末をさせられましたと漏 と、その儘いつとはなしに巴里に帰ってし 添うても要は要とはスペイン女の味ですわ を続けず、 ンバスを持ち込み、一日描きかけた儘で後 セオブラドーで模写をするとて、|百号のカ 下宿を訪ねた須田さんに、一夜

ま下宿のことになった。前に永く居た家は のは盗群となって私も被害者となった。 と寧ろ哀れみをかけて居られた。併し彼れ で通告して呉れて、須田さんの手に戻った に入れた。幸い質量が私の遠縁であったの 須田さんが最後の巴里訪問の 夜で あっ 又或男は須田さんの独逸製の写真機を質 彼れは、気の毒に一種の病気ですナ、 ムのテラスで話はたまた

当時はスペイン全土に移って、 日本人は

下さいと語られた。 思うので、 大変よかったが、止むなく移ることになり あなたにも今後参考になろうかと 誰れにも話さなかったが聴いて

ンの厳正を基本とする画風が育ったが、こ ランスに学び、そこからフォルムやデッサ 中村不折のように、 現象であったし、 らかれたころの洋画界では、 期のことであって、 エル・コラン系の外光派の移入は、明治中 一方では、鹿子木盂郎や 明治四十年に文展がひ ごく一般的な ル・ロ

のはいうまでもなく二科会であり、 されたことになる。 本の洋画が美術の創造上における個性や自 「緑色の太陽」宣言や万鉄五郎の実作に示 これにたいして大正期はおのずから、 芸術の自由の問題を自覚にのせた時代 すでにその兆候は高村光太郎

である。 目である。 年に第一回展を開く春陽会などに区分けす 科会所属の作家が数多く登場するのは当然 会「大正期の洋画」においても、 ヾ 帝展とたもとを分った有力な洋画家容しつ 会展の開催も、 フュウザン会の旗上げや、同四年の草土社 髙村光太郎、万鉄五郎、岸田劉生らによる ることができるが、 大正期の洋画運動の有力な母体となった 優秀な多くの新人を輩出させた。展覧 大正期の洋画は、 さらに院展の洋画部、 大正期をいろどる重要な項 大正元年、斉藤与里, 画壇的 大正十二 当時の二 には官

科造形美術協会」などの運動を経て、 汇 大正末年には前記の春陽会の結成のほか 造形美術協会」などの運動を経て、昭和「アクション」や「マヴォ」さらに「三

> 娘さんは、何くれと世話をし、話相手でも 員として遇され、 れた。須田さんは何の隔てもなく家族の一 公使の紹介で三人家族の中流家庭に寄留さ 公使を始め館員、須田さんと田舎に居る少 年修道僧の僅か七人であった。 中でも美しいしとやかな 須田さんは

ったそうである。 りで居たところ、 んの並々ならぬ素振りに、若しやと気がか が送れたそうであるが、控い目ながら娘さ ことも出来、平和な何に不自由のない日々 お蔭で模写に励むことも出来、 案の上その時が来てしま 本を読む

たスペインの思出、 現在のところに移ったそうである。苦しま たが、 Ó いて居た一輪の紅いバラの花であろう もなかったが、恐らく須田さんの秘められ と思われる。その後この話は再び聴くこと られたが、 ぎれの移転でしたと自分では言い切って居 ぐんだ結果、両親には格好の理由を作って うである。娘心を銋つけまいと考え考えあ まった。須田さんも好意は寄せて居たもの 一夕娘さんは想いのほどをうち明けてし 色々な事情を諒々と語り説得につとめ 相手は仲々納得して呉れなかったそ 本当は苦しい別れであったのだ 若き日の思出の中に咲

洋画家伊藤久三郎氏です この「回顧シリ ーズ」次回からの執筆は

協会によっており、フォービズムのほかに 昭和の洋画の開幕はすでに歴然たるものと 一回展が開かれる。里見勝蔵、 羲(モダニズム)も一そう旗色を 鮮明 に る 初年にはプロレタリア美術運動も活発にな なっていく。 シュールレアリズムなども登場してくる。 小島善太郎、古賀春江、前田寛治らがこの し、昭和元年には「一九三〇年協会」の第 また一方では、 反自然主義的な近代主 (藤田猛・館員)

写真 小杉末醒「アルハンブラの丘」

#### 京都弁しで絵を見る ということ

語を含め七カ国語に精通している。との学者は日本語を読み書き話せて、母母学者と対話した記録を読んだことがある。 ある外国の著名な言語学者が日本の言語

野

重 光

<del>- 3 -</del>

京都市美術館

京都市左京区岡崎公園

昭和47年10月1日発行

No. 84

とを回想する場合ですら、そのできごとが かねてからものを考える場合だけではな のを考える場合でさえ、 て考えをめぐらすには、当然その国の言 ものを感ずる場合にもやはり言語が媒 たとえば楽しい思い出やつらい経験な 考えることがらに関係の深い国の言語

日本画というものが十分理解できていない 本画をいかにもアメリカ人らしい見方で見 ていたということがある。このときは大体 るものだろうか。あのアメリカ人はこの日 をしているといえるような鑑賞の仕方はあ たとえば京都人的な見方

のことばである。批評には批評のための言 はなく作品の前に立って鑑賞して 一般的な感情、見方の言語である。

「それはどこの国に関することを考

どの国に

画面に出ているということまで指摘するこ 的な作風とか、京都人らしい作家の好みが 描いた洋画であることはごまかしようがな 徴がある。この場合は鑑賞者の見方を述べ 触を認めることができる。つまり日本人の かにもフランス的だとかドイツらしいと 事実作品の中にそう指摘すべき特 その作品の作者の感覚に 日本的な感 いかにも京都

(太い) が Futêとなったり、 (連用)・エー (終止)・エー もっとも関東でも Futoi のようにすっかり姿、

(体)・よけれ(仮定) は京言葉の中でも特殊な形容詞の一つで この「ヨー」とか「エー」とか「ヨケラ 」が変形したもので 」と変化するが、

しているにちがいないと思っていたが、そ

「あなたはいろんな国の言語に精通

何語でお考えになるので 一体頭の中でものを

定されるが、善い行ない、

る。どの意味かはそれぞれの文脈の中で決

女、佳い作品等使い分けができる。

だんだん表音化の傾向をたどってきて

もう一つには幅の

近年とくにかな表記が増えて「よい」はほ

一つには日本語が

だからである。「善いことは良いことだか

だとすれば、

うことになるのか。 ら、好い」わけである。 絵」は「イイ絵」で「ヨーない絵」は

×二二二十七ンチの額裝、絹本彩色、 ったものである。 が帝国美術院会員になって、 へ絵の審査にゆき、 いる。服飾からして日本の風俗でない んだ若い女性たちが静かに絵を観賞してそれぞれに手鞄をもち、端正にいなら そのときの光景が直接のヒント 女性を描くことの少な

麦紙作 品解

角とぐ鹿

# 一九三〇年の頃の

# 伊藤 久三郎

原込町がある。馬込町は町と言っても未だ馬込町がある。馬込町は町と言っても未だ村の面影が残っていて、東京郊外によくある小さな岡の起伏の上に拡がる田畑が大部る小さな岡の起伏の上に拡がる田畑が大部をであった。私の近所に小林古径先生の画生んでいた。私の近所に小林古径先生の画生んでいた。私の近所に小林古径先生の画生があった。あの小柄な先生がモンペ、ゴム長姿で霜どけの路を足早やに歩いて行かれるのが今でも目に残っている。私はそこれるのが今でも目に残っている。私はそこれるのが今でも目に残っている。私はそこれるのが今でも目に残っている。私はそこれるのが今でも目に残った。

□・九三○年協会と言うのは当時、健在で石井、山下、有島、湯浅、坂本、藤田などの諸先生に対して、会友であった各々新帰の諸先生に対して、会友であった各々新帰の諸先生に対して、会友であった各々新帰の諸先生に対して、会友であった各々新帰の諸先生に対して、会友であった各々新帰の諸先生に対して、会友であった名々新帰の諸先生に対して、別の第一次のは当時、健在で

本がより自由な活躍の場を求めて、友人の中野和高、鈴木千久馬、宮坂勝、批評家の外山卯三郎氏等同時代の同志を加えて創立 大山氏の近代美学の話に続いて前田氏のリケ山氏の近代美学の話に続いて前田氏のリケルの近代美学の話に続いて前田氏のリケーがよる。 会は発足すると方々で美外山氏の近代美学の話に続いて前田氏のリケーである。

又、後輩育成のために研究所が設けられ、展覧会は公募展を上野で開いた。このれ、展覧会は公募展を上野で開いた。このれ、展覧会は公募展を上野で開いた。このれ、展覧会は公募展を上野で開いた。この知識や技術経験の思恵を受けたのであった。里見さんは、そのころ仲々の凝り屋でた。里見さんは、そのころ仲々の凝り屋でた。里見さんは、そのころ仲々の凝り屋でた。里見さんは、そのころ仲々の凝り屋で、アカデミックな描き方をしていると容様なシャツを愛用していた。指導は断定的成とで、アカデミックな描き方をしていると容がなく布切れで画面を拭い、特にモデルのあなく布切れで画面を拭い、特にモデルのあなく布切れで画面を拭い、特にモデルのあなくを表情に就て細かい注意を与えながという。

色で見違う様になるのであった。林武さん は何時も長く伸びた髪とひげが特徴的で、 は何時も長く伸びた髪とひげが特徴的で、 時々和服の着流し姿でやって来られた。我 々が只何の感動もなしに絵を描くことを戒 められ、雑念を払って対象を熟視し自ら感 められ、雑念を払って対象を熟視し自ら感 められ、雑念を払って対象を熟視し自ら感 かた。画面構成の力関係やムーヴマンに就て た。画面構成の力関係やムーヴマンに就て た。画面構成の力関係やムーヴマンに就て かで京都出身に残っている。我々研究生のな

で新入の我々を圧倒した。五分刈頭、紺耕て新入の我々を圧倒した。五分刈頭、紺耕を好んで用いた。同年配に服部正一郎、加を好んで用いた。同年配に服部正一郎、加を好んで用いた。同年配に服部正一郎、加を好んで用いた。同年配に服部正一郎、加を好んで用いた。同年配に服部正一郎、加を好んで用いた。同年配に服部正一郎、加を好んで用いた。同年配に服部正一郎、加を行んで無い研究所は遅れて行くとイーゼルを名で狭い研究所は遅れて行くとイーゼルを名で狭い研究所は遅れて行くとイーゼルを名で狭い研究所は遅れての生命会は一九三一年になって新した。五分刈頭、紺耕は従来の会員の大半が参加した。五分刈頭、紺耕は従来の会員の大半が参加した。五分刈頭、紺耕は従来の会員では関した。五分刈頭、紺耕

存在の ない、 ない、 ない、 ない、 かいっ である かいっ である、 かにき からさま である、 である、 がなるう がなるう

にちなんでする京都の女流作家たち展中常陣列・所蔵品を中心と

「女性絵画」

という概念

上村松園「晴日」

<del>-</del> 3 <del>-</del>

和16年)にみられるような、

優しい顔立ちとしなやかな仕ぐさ、

田

**₽**E

手がかり位はつかめそうな気がする。しか ならないほど多くの作家が輩出したので、 降百余年、 通なものを指摘することは可能なのかどう 性美術というようなものはある のかどう 人間としての女性作家は別として、 特性も影が薄くなるというものであるが、 はない。めずらしくなくなると、勢いその今日では女流作家といってもめずらしく ゆけばゆくほどむずかしく否定的になって か。こうした問題を考えてみると、明治以 か、云い換えれば女性が制作する作品に共 とは云っても、 この間にはそれまでとは比較に まともに考えてゆくと 一体女 かさ、

面から考えてゆくと、例えば人晴日♥(昭8年~昭和34年)についてであるが、この8年~昭和34年)についてであるが、この8年~昭和34年)

お一層の考察をすすめてゆくと、それは気にはあり過ぎる。それでここにわれわれは、これらの印象を越えてなおかつ一般に共通これらの印象を越えてなおかつ一般に共通にはあり過ぎる。それでここにわれわれは、ちと激しい動作をもった作品が、女性作家

ない、云い換えれば強調とか一面の否定と 存在の項わしさを無視したものでは決して 品といっても、性を全く無視したり、所謂 だろうか、と思うのであるが、 細さというべきものである、とまあこう云 うのではない、節度のある、 た豊かさを本質にしようとしている立場で ない、ものに両面があれば両面を常に心得 ってみて、 いえる、それは研ぎ澄まされた繊細さとい あくまでもものの均衡を考慮に入れた表現 かいったものを前提としたものではない 同様のことはこまやかさについても そこに徹底化がないというのでは こうしたことを一般化しえない 中庸をえた鐵 どうであろ

ある。 ない。従順と強い意志と、情調と理知と、 ここでは後からの麗姿がとらえられている ঠ্ 慮と強い愛情がみられるのは、その限られ けてとらえがちである。多くの時に細い配 şĺ 現に於て、 般に女性の絵画にいえることは、ものの表 多くの批評家が松園の芸術について、 ていて、見る者を遠ざけるような艷麗では わけであるけれど、それとなく親近感が出 うものを考えてみてはどうかと思うからで た輪の中に濃縮して注がれがちだからであ って、それ故に物象を自己の周辺にひきつ というのは、今ここで云いだいのは、 両面均衡的・同心円的になりがちであ 今度は大正15年の人待月~について、 とこのように仮定して、 もう一度松園にもどって云ってみれ 一面の強調をするとい うより 女性絵画とい との

かとも云えないような絵画や、

きつい顔立

ゆくわけにはゆかないだろう。世間には、に述べようとする問題にまで立ちいたって

一見しただけでは、気品があるともこまや

わけであるが、勿論こうした 印 象 を もっ色彩、こうしたことがまず想起されてくるそれに如何にも女性らしい柔らかな運掌と

これらだけの指摘に終っては、

今とこ

なった。

(洋画家)なった。

(洋画家)なった。前田寛治、佐伯祐三、三岸好太郎はそれった。

(神の時、既に他界されていたのである。我々の時、既に他界されていたのである。我々の時、既に他界されていたのである。我々の時、既に他界されていたのである。我々の時、既に他界されていたのである。我々の時、既に他界されていたが、こ岸好太郎はそれった。

# 美術館名品展

#### 

**—** 2

**輩株で、大胆なフォービックな作品を描い見安治郎の諸君がいた。何れも研究所の先** 

展示品は古代主ジプト、中近東、ヨーロッパ中世、近世、近代、古代中国、さらに近代アメリカ美術などその内容も多彩で、考古品、彫刻、絵画、江芸品にわたっています。画「版画、工芸品にわたっています。同館のすぐれた所蔵品を実見し得ると同時に、館の広範な収蔵・展示ると同時に、館の広範な収蔵・展示の分野についてもその一斑を知ることができます。

園の芸術の根幹になるものに、柔剛二つの 面が具はっていて、時に随ってそのどちら 論になってゆくようである。 する。そうなれば性とはかかわりのない理 する絵と、 ゆくと、絵には常にものの両面を見ようと が一緒に融け合ったり、別々に出たり、 このような解釈は消えてしまいそうな気も の二種があるのだ、という見方のうちに、 うことである。もっとも更に深く考察して も今云うような意味で解してみたい、 のだろう! たは牽制したりして松園芸術を作り上げた かが多くはたらく、この反した二つの気性 ような二面性を指摘し、鏑木清方も 片面を強く強調しようとする絵 、と評しているけれど、 これを

校の学生などに始まり、 沢映月、片岡球子など、 作家の歴史であるが、初めに触れたよう 子、甲斐仁代、深沢紅子、佐伯米子、 など、そしてひろくは有馬三斗枝、 川)滝野、 渡辺幽香、 梶原緋佐子、三谷十糸子、新制作の広田多 島成園など、そして少しおくれて日展系の れに松園と同世代の池田蕉園や伊藤小坡、 も、日本画では、奥原晴湖と野口小蘋、 なった。若干の名前だけを列挙 して みて には彫塑に、多くの作家が輩出することに ところで次にことでわが国に於ける女性 秋野不矩、 明治以後になって日本画に洋画に、 桂ユキ子、 水清公子、西田静子、 ラグーザ玉、そして工部美術学 それに院展の小倉遊亀や北 などがあげられる。 京都では加藤(山 一方の洋画では、 松村綾子 更 そ

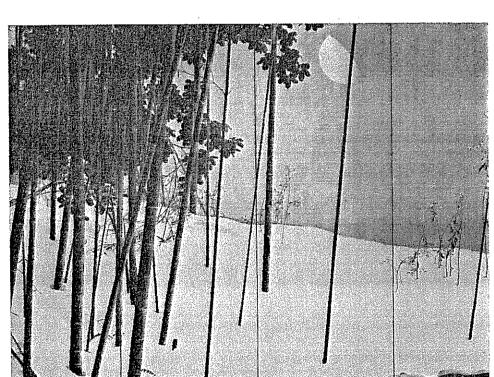
- **-**

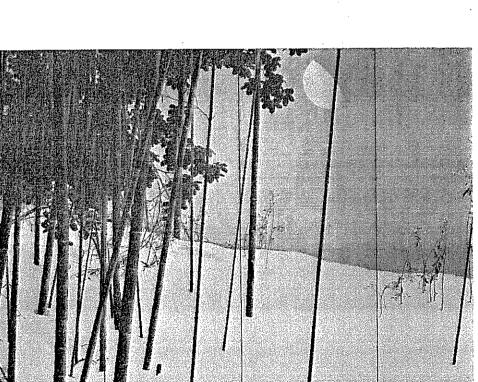
#### 京都市美術館ニュ

京都市左京区岡崎公園

昭和47年12月15日発行

No.85





があったと想像されるところであるが、事 今のところ今云う女性絵画とこの女絵とを 云えないけれど、極彩色の絵に対する墨描 の名が江戸時代には出てくる。そうしてこ 俗画の稲垣つる女、北斎の娘・お栄、 の娘・雪信、池大雅の妻・玉襴、それに風 がってこなくなるわけであるが、狩野探路 たのだろうか。 実はその通りであったようである。 に伍して世に出るに当っては、 特徴であり、これらの作家たちが男性作家 洋画では大正・昭和に多くなるというのが がみられることで、この女絵の解釈はむず **圏連ずけて考察することはできないが、平** もてるのは、大和絵に男絵・女絵の名称 みてもすぐには出てこない位のものであ ではこれに対して、 ただこの日本の歴史の中で今最も興味 専門絵師の絵に対する素人の絵とか 一般の絵に対する特に情緒的な物 女流画家の絵を指すとはほとんど もう個人の名は、専門家に聞い さまざまな解釈がなされうる。 もう急に名前さえあまりあ 明治以前はどうだっ

上村松園「待月」

値する意見であろう。 えてみたい面も ある け 論理をこの見解に合せて考 は今の考察にとって傾聴に 何だか私自身が息切り 私の

30 30 22 18 18 14 5 3 1 10 10 | | | | | | | | | | | | | / / 12 12 26 28 28 20 16 26 12 29 8 // | | | | | | | | | | | | | | 12 11 4 26

乙EROの会展

新制作京都日本画展

大正期の洋画

第 36 回 トリエ展 自由美術展 独立美術展

安時代にすでに女絵という言葉があったと いて今少し触れておくと、 なお先にあげた江戸時代の女流作家につ うことは、注目しておきたいと思う。 彼女等娘なり妻

て日本画は明治・大正期に多いのに対し、

るように思われる、 子供の領域で成功していると云え、 が出て来ている、もし女性絵画というもの 的な展開をおこなった作家達とは云いがた して活躍しようとする時、息切れがしてい があるとすれば、それは微笑みと母性愛と やゴンザレス、それにセラフィヌ、ブラン 代になってくるとそれでもベルト・モリゾ マテイはそこで、その点を指摘した後、 ソワ・マテイは▲六人の閨秀画家♥という 西欧でも同じであったようで、仏のフラン たと云わなければならないだろう。事情は 明治になってからの展開、 咀磨した点では認められても、 い、という点が一般的にみられる。この点 **柯松園などの展開は、本格的積極的であっ** ル、ヴァラドン、 これらの領域から離れて男性に伍 父なり夫なりの作風を解釈 と述べているが、これ この点に触れている。 ランサンなど 女性画

24 21 18 15 11 8 8 | | | | | | | | | | 29 22 27 26 16 13 10 第27回

麦紙

作

品解

第27回 新制作油絵展 不思議の国子供アト パンリアル展 土と炎の会展 行動美術展

新匠会公募展

消え、一種古淡な味わいを加えてい 作品であるので旺年のはなやかさは 第13回帝展に出品したもの。晩年の 秀な成績をのこし帝展の審査員もつ 流れをくみつつ、大和絵風などもと 本亡洋に経学を学んだ。画風は京都 大家今尾景年に日本画を、儒学者山 とめた。「角とぐ鹿」は昭和7年の の日本画の画系である円山四条派の の商家にうまれ、少年の頃から時の 木島桜谷は明治10年京都三条室町 六年後の昭和13年に歿した。 文展、帝展時代を通じて優

11

新制作彫刻展新制作油絵展

ハトロポリタン美術館展

とを期待しつつ、この辺で擱筆する。 における閨秀画家の系譜>参照) テイの説については本ニュース風78八西欧

# 覧

10

作家たちを中心とする京都の女流飯田清毅の遺作と所蔵品 トロポリタン美術館展

せいぜいご利用下さい。

ひまわり会 子供アトリ

知らせしました。美術シーズンもたけなわ 学会を行ないます。 日のうちに満席が切りとなりまし 館展」「行動美術展」についてお 覧会観賞は「メトロポリ 友の会は来る10月29日、 川ダムを見学します。 今回は近江路の西明寺、金 、百済寺をたずれ 好評のため数 秋の見 さらに なお展

月(部分)

# 「京都弁で絵をみる」というこ (2)

重 光

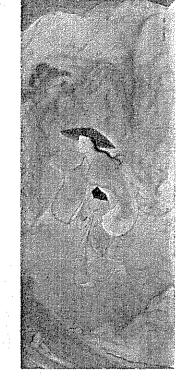
ことの上においてである。 指示や象徴として機能するのは、 手から受け手へと意味が伝達され、 われは共に了解している必要がある。送り そういう言葉のなりたちとはたらきをわれ శ్ の言葉がもつ意味と広がりは、ものごと、 さまざまに分節した記号である。 具体的な符号である。 情報の交換が誤りなくできるためには、 それらの分節のされ方を示してい 感じ方の様態とその領域を示す。 物象、事象、心象を そういう それぞれ 指令や 心象の

ある。 も過不足ない情報を組立てることは無理で しかし反面言葉には限界があって、いつ それは分節間に一種の断絶がある証拠 すきまが残っているからである。 言をつくじて窓をつくさぬことは多 隣り合った意味と意味とのあい

ş

あるかを物語る一例である。 葉ではいい表わせないほどのすばらしさ> 体験することはある。そのときひとは八言 三つをよせてもなおいいつくぬことがらを れい>でも<美しい>でも、 な場合さえある。<すばらしい>でも<きくに情緒的なことがらについては、致命的 な場合さえある。 これはいかに言葉が不便な記号で あるいはこの

てゐて大へんいいと思ふ。只あれを見たと山も、牛乳色の川の水も、甚だ効果を強め めくらになってゐたのが本当かなと思った。 が出てゐると思ふ。壁土のやうな色をした が安珍に惚れて追いかけて来たやうな心持 品に注目したが、 川龍之介は、その秀れた観照力で数点の作 <日高川>を面白 大正八年第二回国画創作協会展を見た芥 清姫は盲目になったのかなと思って、 とくに いと思ふ。いかにも清姫 「村上華岳氏の



村上華岳「日高川」 を含んでいるが、具体的、 げている。

べると遙かにいい」とほめた。<日高川>を松岡映丘氏の<目しひ>に比

外に追い か まいで厳密さを欠く。 価を決定的なものにする具体的な言葉は言 からどの程度<面白く>いかに<いい>の 後の言葉で一応了解される。 <面白く>なぜ<いい>のかは補足的な前 ぐれた作品だといっているのである。なぜ る。龍之介はこの<日高川>を文句なくす 現であると同時に評価用語として使用され は作品鑑賞によく出てくる言葉で、 い>という言葉は便利だけれども、 <面白い>とか<いい>とかいう形容詞 そこは言明されてない。この作品の評 やちれている。 <面白い>とか しかしそうだ 印象表

どっどっしゃろえええなあ 西空がうっすらと薄紅い玻璃みたいに ま、見とみやすなよろしゅおすえな 空中に女の毛がからまる どうどっしゃろ紫の空のいろ このたそがれの明るさや暗さや 「ま、綺麗やおへんかどうえ

**— 2** 

を示しているように思える。 介の「イイ」よりも一層幅広い情感の領域 四条大橋からみた情景を、京言葉巧みに使 作った<京都人の夜景色>の一節である。 <日高川>はよく見て知ってい って抒情味豊かに、そして絵画的に歌いあ これは大正三年村山槐多が十九才のとき ここにでてくる 「エー」 は龍之 厳密にその領域 私は奉岳 るが、 大 の

> 正期の京都は知らない。 た例だと思う。 れ目が訛語や訛言によって見事に補填され 言葉とのすきま、情感の分節と分節との割 的な内容は槐多の方が明確である。言葉と 之介の評価よりも概多の印象の方が過不足 「よい」の変形だが、その「よさ」の具体 にもかかわらず龍

」の二つの訛語に意味領域のずれが見えて ばめでるときの決定的な用語となる「よい な感覚に基づいた賞賛である。 するからである。そしてまたともに主観的 両者の態度と感情移入の対象が質的に相異 っている。同日に比較すべきものではない もちろん両者の「よさ」の質と内容は異 ただしばし

というように他の い。これも「イイ格好」とはずれがある。 るのに無理するな、 に揶揄の気を含んでいる。 好」は素直なほめ言葉というよりは、多分 間食の総称に用いる。また多くは「エー恰 は「イイもの」と領域を共有するが、 たもの、好ましいものという原意について「エーもん」というとおやつを指す。すぐれ 好」というときの「エー」がある。 のをもつ。たとえば「エー 域が広い。しかしこれを「エー 「エー大人が」というときの「エー」に近 とうして訛語や訛言は必ずしも dog≡犬 明らかに「イイ」という訛語にない 「よい」という形容詞はもともと意味領 (……3) 頁下段へ続く) といいたい場合に使う。 本性は知れてい もん」「エー恰 一という場 京都で 多くは ŧ

### 魚眼レン

伊藤久三郎「エムペドクレス」(九室会出品) フ張りの野菜を出品したが何れも永続きせ 同制作を描いたり、

横山潤之助氏がマシコ

古賀春江、

中川紀元氏や東郷青児氏を中心

てしまった。

その代りアクシオン以来の新しい作風の

二科会を退いたので、これまでの様なフォ 独立美術協会を創って同志の人たちと共に 持っていた。里見、中山、林などが新しく 科のモダニズムと謂われた特徴的なものを

い人たちが築まり、

シュー

もない滝口修造氏を囲んで所属の別なく若

科会の外部でも、

当時、

慶応を出られて間

かにこの傾向が目立つ様になって来た。二

般に若い人たちの間に拡がり、

出品作のな

ーヴイズム傾向の作品は殆んど影をひそめ

新傾向を包含し、

一般に公募展のなかで二

賢たちの作品傾向の他に比較的若い世代の

超現実主義的なものに対する関心は漸く一致程度、立ち消えになってしまった。然し

立ち消えになってしまった。

一九三〇年前後の二科会は従来の創立会

とする人達の作風が前面に顕れることにな

った。二科会ではその頃、所謂、

プロレタ

リア美術に組する作家もなくはなかったけ

例えば津田青楓氏が帝国議会の共

## 九室会のことな

藤久三郎

はば正統派を自任するとでも言った格好で、 や新宿で展覧会を開いた。その人たちは謂 野政行その他の人たちで「新造型」と言うグ ループが創られ、 究が盛んであった。そのなかで今井滋、 美術討論会を開いて一般に働きかけ 機関誌を出したり、 一郎は始め 銀座 ф

ばする状況で、 乃至、幻想的な あるが、 開かれた。展示作品の傾向はシュー 春に日本橋の白木屋で第一回の九室会展が 来ることになった。その翌年、 会のあとで一般にはかって「九室会」が出 てが生れ、それが第二十五回二科展の懇親 依る研究と親睦のためのグループ結成の企 他の出品者の間にこの第九室の作家たちに であったが、 所謂新傾向の作品を一括して陳列する慣し た。当時二科会では上野美術館の九号室に 場を銀座に移し、自由美術の旗上げ迄続い 魅力のある同人展だった。この会は後に会 ての画生活の雰囲気をその儘伝える新鮮で 喜之助、マツシモ・カンピリ氏などを混え 竜起などの人達があり、 来た人達と上野竹之台の美術協会の会場で 川三郎氏が同じ頃に外遊し相次いで帰って 詩情に満ちた作品で評判が良かった。 君は「飾絵」と言う同人展を銀座で開催、 君は理論家で定期的に二人展を開いたし、 傾向の作家のなかでも阿部展也、 の方面に大きな影響を与えたことは周知で 独立展に精力的な大作を続々発表して、 彫刻家として渡欧されたのだがパリでシ 一方そのころ、 「新時代」展を開催した。 山口薫 e状況で、なかにオブジエも二三あっ幻想的なものと抽象傾向のもの相坐 アリズム研究に専念され、 独立展所属のシュールリアリズム 偶々吉原治良、 斉藤長三、土屋幸夫などの諸 矢橋六郎、 アブストラクト傾向の長谷 村上正誠、 フランスで海老原 メムバー 山口長男その 昭和十四年 、米倉寿人 帰朝して 難波田 -に森芳 ル的 叉 ح

> でグループは事実上解消したのである 示を行なった。しかし展覧会活動はそこ迄 れ、全く奇妙なかたちの笑うに笑えない展 をテーマとする展覧会と言うことで許可さ 訳で第三回の九室会展は防空のための迷彩 特高に報告せねばならなかった。そう言う から危険視され、 リズム的なものはブルトンの宣言書の内容 くなり も次第に酣になると軍部の美術干渉が厳し 第三回展を迎えて、 の自由な制作と発表が許されたけれども、 示した。第二回展までは一応無事に出品者 東京を終えて大阪の朝日会館の会場でも展 のレリーフ的作品を出していた。第一回は を思わせる様なベニヤ板に着色した切抜き たが斉藤義重君などはその頃から近年の彼 てとになって、会の行動はもらさず所轄の 全ての新傾向、 一切の発表が禁止される 既に始まっていた戦争 殊にシュールリア

怒怒

怒怒

怒怒

をもつ。 結局はそういう方言や訛りを育てかつ継承 圏固有の文化現象として、 ないのか。(つづく) (当館員)してきた文化圏の中で身につけたものでは われわれのものの見方、感じ方(視覚)も、 るとはかぎらない。 (2頁より……) 語にそっくり置換えられ その地域の文化の象徴でもある。 訛りや方言はその言語 独自の意味領域

- 3

京都市左京区岡崎公園

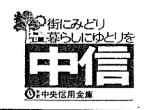
昭和48年3月25日発行

No. 86



南波照間 菊池契月

美を愛する心 ゆとりの生活 中信がお手伝いします



%、千葉三〇%、

和歌山二九・三%、佐賀

**高で群を抜いている。次いで富山三一・九** 

九〇(五七三)で、全体として入選一にた 工芸五五(七五)魯四三(一九一)全体一

(落選七〇) 洋画五 (四五) 彫塑四

このうち入選落選の別は日本画入選八六

工芸王国を誇っている。

いして落選二の割合。

この入選率は全国最

四%、埼玉二一・九%の順で、

香川二四%、

岐阜二三: いずれも工

滋賀二五%

七三(六七五八)で、京都は全国の応募総 数の約八・五%となる。さすがに高い比率 応募数は日本画一五三(全国五五四)洋画 現在の日展にもほぼ当てはまるものだろう 改組第一回日展から拾ってみた数字。大局 五〇(一九〇〇)彫塑八(二七〇) 京都は美術の中心地の一つであり、 (六九三)書二三四 (三三四一)合計五 日本画、工芸はとくに高率で、 同年の京都の出品

十二月十六日から京都で第四回日展がは

日展はいうまでもなく東京が 本年は入場者も二十万を超

日

数

都日展は郷土色豊かともいうことができる 点中二九八点となり約五○%に違する。京 中には京都作家の作品も当然ふくまれてお 八三、魯四五)合計六〇七点。基本作品の 画七三、洋画一二七、彫塑四七、工芸五六 (日本画一〇〇、洋画一六、彫塑九、工芸 滋賀の地元作品二五三点 彫塑二点



生産地としてのエネルギーを次ぎの世代に ○才三人を最低に二○代四七人、三○代四 の年令、年代別をみると、 縄の六、本土では高知の一五となっている 二〇才代の比率が高いのは、京都が美術の バランスがとれており、 四〇代四三人、 五〇代三七人、六〇 他府県にくらべて 京都の場合、

本年の京都展は基本作品三五四点(日本

なる。入場者も多いが、

日展の門をめざし

殺到する出品者もぼう大で、

花園大学書学会展一十日∼二十四日 |九日~二十三日 美術コース展 無京都市立日吉ケ丘高等学校 Ħ 二月一日 日曜画家

(十二月二十八日~十二月十六日~十五

十五日

美術館の展覧会

のは古今東西、一つの真理に違いなかろう たことがある。 なったいう話を、笑い話としてでなく聞い 家では嫁入道具に髪枚もの着物を用意する 人はきらいではない。 ことを喧しくいい、そのため身代が危うく こともあるまいと思うけれど、形式はった 活そのものがかわってきているからそんな 体的に安直になっているから、そして衣生 なっている。いまでは結婚という儀式が総 たことばだろうが、 に生活のポイントをおくかを比較していっ いうことばがある。 <京の着だおれ、大阪の食いだおれ>と <なり>をみて人をはかるのは、京都 京都人の虚飾的な生活の比喩と <衣食足りて礼節を知る> 大阪人の実質的な生活 もともと衣食のどちら

うるさい。 はっきりしている。 物による自己表現 の<人となり>を含んでいた。京都人の着 には単に見た目の<なり>だけでない、そ 祖母がよくいっていたが、このほめことば 人はいつもエー好みのもんを着てはる」と とくに京都の老人は着物については口が 目が高いし趣味もいい。 - 顕示、示威はかなり 一あの

味はなかなか解きほぐしにくいが、「この着 を反映した独得のことばとして面白い。 意 着物に関して「コゥトな」という京言葉が この形容詞はそういう京都的な趣味

> 同時に、生き方の態度に通じている。 には明らかに文化の匂いがある。 から「あの家はなかなかコウトや」ともい ず品のよさが具っていて落着きがある。だ 価値をもっている。そしてその価値には必 趣味のよさをも評価している。年令や比較 地味や渋味がこの語で形容されるものの性 と関係なく趣味のよさを包含した客観的な との語で形容されるものを選んだ人の眼― 状を主として指すのに対し、 た方が無難よ」という意味をもつ。 という語も、したがって上のように「避け 評価がある。 であろう。すなわちもとの味にすでに負の の渋に通じて刺激のあるちょっといやな味りけのない味であろうし、渋味はまさに柿 化したものだからであろう。地味は地の味 評価語だが、 はおそらくこの語が味覚の判定用語から転 物はあんたにはちょっとコウトえ」と使う。 る着物を指している。地味も渋味も一種の 年令に比してやや地味だと見える渋味のあ つまり,一つの<なり>の形容であると 「地の人」というときの地であって飾 この両義を含んだ「コウト」 よくも悪くも評価する。それ 「コウト」は しかし

> > **—** 2

少しづつ合んでいる。「この着物はハンナリ ども、派手な明るい、晴れやかなという意を る。これは「コウト」の反対語ではないけれ これに対して「ハンナリ」ということばがあ

が

にいわない とはいうけれども「コウトな絵」とは絶対 その故にではないが、「ハンナリした絵」 と表面的でスタティックである。もちろん のうちに含んでいるのに対し、これはもっ コウト」ということばが主観的な願望をそ り客観的なよさの判定語だからである。 それは着物自体の柄や色彩から受ける、よ ることを常とする。 **శ్** 着きを具えていることは先の例と同様であ この語がはなやかさのなかに、 しててエーがな」という具合に使う。そして しているとか、していないとかいういい ハンナリという語を用いることはない ただこの語は比較対象をもたずに用い 私がその着物を選ばない理由 すなわち私にはハンナ 上品さと落

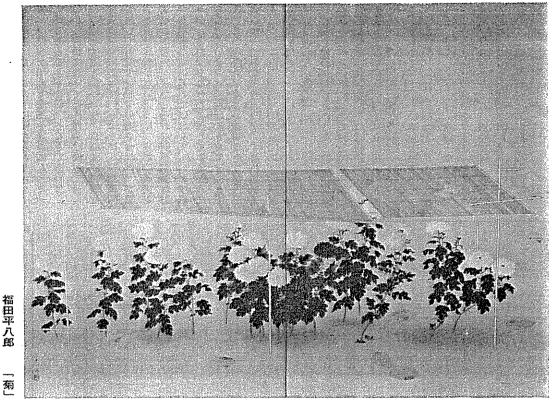
それほどはなれた意味をもっている。 ろん、聞く場合もなかなか馴染みにくい。 の意に使う。この二つは性質は異っている する感謝のことばとして、 ンェー はしばしば協力してくれたことに対 ね」とか「許してね」という意の「カンニ らないのは一つの例である。また「ごめん が「オーキニ」といいながら絶体それに乗 ときにも乱発する。男の誘いに対して京女 りがとう」の京言葉だが、 ると私も思う。 のか知らないけれど、一面でいいあててい ことがある。 言語学的にはどういえばよい があるけれども、意味があいまいだと聞く ところで京言葉には一般にやさしい響き 京都人でなければ使用することはもち たとえば、オーキニ」は「あ ありがたくない 「ありがとう」 ح خ

いう例はほかにもある。

局あいまいとなるのであろう。 意志表明が単刀直入でないため、 婉曲的な表現になっている。平たくいえば 場合でも相手の立場を尊重するようかなり て一応断りを表明しているわけだが、 する」ということでなく、受手の意志とし うときは、もちろん「疲れた」とか「思案 イ」とか、 省略される。 丁寧だが、謝意につづく受手の意志表明が はまず相手の気持ちや好意を損じないよう に配慮されたことばが多い。 少し性急な叙述だが、こうして京都弁に 「その話は考エサシテ」とかい 「その約束はちょっとシンド 丁寧といえば 意味は結 この

時代を迎えたことによっていよう 造語を生みながら奇妙な語法で使用される り払ったこと。すなわち並べて国民文化の も封建制度の打破が階級や階層の障壁を取 ようになったこと。そして四つには何より の盛んな移入とともに他国語の表現法が新 一化が推進されたこと。三つには外国文化 雑誌にまで波及し、いわゆる国語教育の均 致の運動が興って、 なったこと。二つは明治二十年代に言文一 とともに、良くも悪くもこれを練磨しなく なったこと。これは京言葉を一方言化する 東京語が標準語として広く行われるように 時代以降いわゆる近代化のなかで、 るのか。乱暴なドグマかも知れないが、明治 験するこの種の特徴は、 とくに京都弁による会話のなかで今日経 これが数科書や新聞、 一体何によってい 一つは

とくに京都においては、この小さな盆地



福田平八郎

ことば、 文化的遺産であると同時に、他の町人文化 語であったばかりでなく、 て少し大袈裟にいえば、京言葉は長く標準 農家のことばというふうである。したがっ ば、主として中京の問屋街に行われる商家 たとえば公家や華族を中心とする公家こと でのことばも自然に発達したと思われる。 や公家文化の素地、基調として直接間接に とに生活圏が形成され、 かなり明確化し、それぞれの階級、階層で いたのである。当然その間に階級や階層が で一千年余綿々と政治と文化の中心がつづ 祇園その他の花街ことば、そして また西陣の織屋を中心にした職 かつ支えとなっていたと考え したがってその中 それ自体一つの

言としてのいわゆる京都弁が、これをくぐ のないものにしてしまった。これが加えて 生活や生き方に激しい振幅を与えて落着き そればかりでなく、この近代化はなにより に対して直接的な変更を加えたのである。 になったことであろう。 級、階層のタガがはずれて全市民の京言葉 をもち、しかも絵じて意味があいまいに用 ってきながら、 ことばを乱したことに与かっている。一方 いられる最も大きな内的原因は、 しかし上述のように近代化の荒波は言語 なおずば抜けて豊たな語彙 やはり階

け自らの装いをよくしようとし、より高尚 といわれる趣味や生活に傾くのは本性であ もつものである。現代人といえどもなるだ ジは保存されたまま、なおリアリティを 現実は変ったけれどもことばのもつイメ

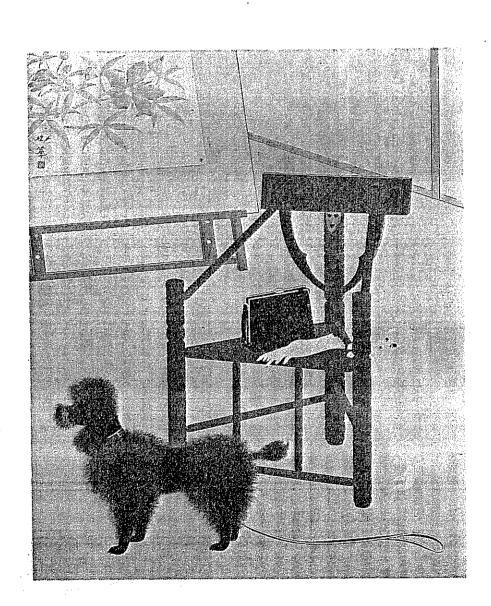
> 造を形成していくのである。 防衛本能にあろう。もちろんことばが使用 制的封建性の中から京都人が受継いできた 方が相手の気にも合って話手のイメージは 訛語そのものはまたかなり重層的な意味構 がその使用人になることによって、 に具えているものでもない。あらゆる市民 る賢明な手段は本性を見透されないような 文化構造の上層にあることはいうまでもな 人と無関係に品性や細やかな感情まで明瞭 ことばを選ぶことである。 しないで、同時に他に対しても自己を律す よくなるのである。何様に対しても礼を失 い。「オオキニ」より「スンマヘン」の方が、 きたかかる趣味や感覚の対象が、 る。伝統的に好ましい(理想的)とされて 「スンマヘン」より「カンニンドッセ」の その根は長い体 重層的な 一つの

ろう。 美術の近代化があったことは指摘できよう。 のがかなり複雑な曲折と微妙な感情の分節 とか日本美術の近代化というときの「近代 いることは否定できない。近代日本の美術 映して一つのエコール的な匂いを漂わせて を積重ねて形成されてきたことは事実であ 」とは一体何か、という問題はきわめて難 き出すことは無理だが、京都人の気風を反 して、たとえば<京都様式>なる概念を導 かかる京都弁を含めて京都文化というも 京都に行なわれてきた近代美術を通 京都弁と酷似した関係で京都の

何といっても見た目の「なり」に固執してき たということであろう。西欧伝来の「近代 そのときなおエコール的と呼ぶ気風は、

昭和48年7月15日発行

No. 87



画室の客

#### 市民であることを吐露することであった。 りの<余白>をわざわざ残しているからで 八はこの余白こそ品性の源泉であり、 の知恵だと思っているのである。 この余白 この余白は京料理にも京菓子にも しかしそれは何か重要な部 すなわち京都 京都美術 印象派の画家クロ 日本の画家の展覧会としては、 今回のモネ展には油絵を中心に約80点が

美を愛する心 ゆとりの生活 中信がお手伝いします 街にみどり 暮らしにゆとりを

#### ◎神央信用金章

階学芸課で受付けております。 目下友の会では新規会員を募集していま

友の会の会員申込み数は四月末現在七七

月26日まで当美術館で

・印象」といった

モネ展が東京に続

 $\mathcal{F}$ 

その他の展覧会はつぎの通り。

光風会展

6月4日 東方美術協会展 全日本学生油絵

有の感情の分節によって絵を鑑賞すると

ものの個々の事象 は趣味や好みま

> 正期から晩年までの代表作六十点が展示さ 神秘主義とよばれるような独特の世界を 現代日本

6月10日 第26回 全関西行動美術展 美術館事務所の二

### 表紙作品解説

池契月が円熟期にさしかかる頃の制 想境が歌われている。 そこにはどこか遠い南の方にある理 縄に伝承されている歌謡のひとつで (はいはてるま)」という題は、 昭和三年の第九回帝展出品作。 契月はその印象と歌謡の風俗 「散策」「交歓」などととも 沖縄に旅行し

会員ので期待に応えるべく活動を充実した いずれにしても大変な盛況で、係としても 昨年度の会員数八〇〇 友の会の一年間の活動 かと思われます



#### 京都市美術館平常陳列

出陳の日本画・洋画・工芸

について

図がここで一応確立したとい 作品で、作風としては晩年の水郷風景の構 の作風が後期から前期へ移行する過渡期の 描いたものであるが小雨にけむる小屋と柳 の木々が情趣豊かに表現されている。 西山翠嶂は栖風の弟子で本展に陳列され 「雨」は五条木屋町辺りの炭焼き小屋を える。 栖鳳

子である。 金島桂華、 池田遥邨は 皆栖鳳の 弟子で あ 品が出陳されている小野竹喬、徳岡神泉、 軽妙な筆致は師ゆずりのものといえる。 る。また上村松篁、 た「広寒宮」(大正十二年作)は師の帰国後 ターナー風の作品の影響を受けて 山口華楊は栖鳳の孫弟 いる。

木島桜谷は直接栖鳳と係わりはないが四

達の作品を示すものとの意味あいからであ 鳳を根幹として、 列ケースに明治四十四年第五回文展出品作 作品を次々と発表し、京都画壇を隆盛に導 ぎつつも、洋風の写実を取り入れた新しい どの作家がなんらかの形で栖鳳と繋がって 「雨」が並べられているのも、 た位の実力者であった。出陳されたほとん の栖鳳は東の大観、西の栖鳳と並び称され わゆる近代と区分される時代に入ってから るのが竹内栖鳳である。明治、大正期、 たのである。 京都画壇を語る時、 と同時に彼は京都画壇の伝統を受継 第一室に入って、 拡がってゆく彼の後継者 当展観が栖 正面の陳 ತ್ತ て

è (1)

呼ぶにふさわしい世界を展開している。 抽象的な画風は日本画というより、絵画と 衛運動といえる。三上誠の作品にみられる 作協会のそれとは質こそちがえ、 同類の前

先づ念頭に浮んでく

運動にすら 栖鳳は つながって いたので あ 子であり、 年であった。しかもこの運動の中心者であ った土田麦僊と小野竹喬は、竹内栖鳳の弟 という日本画革新運動が起ったのは大正七 伝統を重んずる京都で「国画創作協会」 かげながら応援している。当時の前衙

日本画におけるスーパー う 事実は京都画壇の多様性をあますところ 十年も前にかくの如き運動が行われたとい とが出来ずに行き詰ってしまっている。 は写実をさらに深めようと試みたもので、 本画である。多田敬一、杉田勇次郎のそれ のうち、 は後期印象派の影響を受けた洋画風な日 第四室に展示された国画創作協会関係者 えようか。だが、 と限界があり、 野長瀬晩花の作品は印象派、 写実主義を徹底さすこ 日本画の繁材にはお ・リアリズムとで ある 五

ってしまっている。 条派の系統をひく手堅い写生画は格調高い えないだろうか。

栖鳳は 同会の 鑑査顧問に なっ

戦後のパンリアル協会の運動も、 国画創

の冴えは現在においてはなお貴重なものと 綻がないので現在では忘れられた存在にな ものである。ただあまりに平明で画面に破 「寒月」にみられる腕

竹内栖鳳作

画

神が、 サロ風な印象派の影響を、 ッパ遊学をしているが、 美術院を出た作家に黒田重太郎がいる。黒 ロッパで 盛んで あった 第三期 キュビズ 田重太郎は青年時代二度にわたってヨー に関西美術院を興し、 げている。伊藤快彦は後年、 は明治二十四年頃の作品で、手堅い写実精 京都洋画壇の先覚者であった。 すすんだのが伊藤快彦である。 た。その洋画展を観て、感銘を受け洋画に 十二年に東山双林寺で大がかりな洋画展が 勢からはかなりの遅れをとっていた。明治 京都の洋画は日本画に比較すると、 後進の指導に力を尽したが、その関西 単なる 風俗画を 越えた 秀作に仕上 洋画を受け入れる機運が盛り上っ 晩年は 院長に 就任 最初の遊学ではピ 次に、 浅井忠ととも いわば彼は 「少女像」 当時日 東京

は彼の 作風の 変遷を かなり 明確に示して 写実的な作風へと帰っていた。本展示作品 かった故もあるが)日本の風土に密着した なくして、 かし、帰国後、キュビズムを徹底すること (写実的ギュゼズム)。の影響を受けた。 (それは日本人の体質に合わな

京都洋画壇の一斑を紹介している。 須田国太郎、 太田喜二郎、 彦に始まり、 世界を構成している。洋画の展示は伊藤快 ークな存在であった。褐色系を基調とし 須田国太郎は我が国の画壇において、 明暗をはっきりさせた重厚な彼独自の 黒田重太郎らの作品によって そして戦後の洋画界の代表者 京都における官展の中心画家

作がお好きですか。

私の絵はマチュエールが荒いの

1々にしたいと思っており

寸法に制限がないとおっしゃると大

I 尝

渡すことは困難である。 芸術としてでなく、 界の代表的作家の若い時代の作品を展観し 当館の所蔵量では京都工芸界を全般的に見 プレベルをいくものであるが、 の作品もそれを顕著に示している。 していて興味深い。 京都の工芸は日本画同様、 戦中の制作であるが、まだ工芸が会場 叶松谷、叶光夫、 叶光夫をのぞいて、 道具であったことを示 東京方面の金工家たち 字野三吾など陶芸 楠部弥弌、 我が国のトッ ほとんど 戦 残念ながら 清水六

厳然と区

## 人体では なく 人間を描

です。

私は人体を

を創ってゆく

人物像

の で、

描いている内に変ってゆきま

描くのではなく

しゃいますが

新制作に入られた理由は

小嶋さんは新制作に所属していらっ

日本画家 小 嶋 悠 司 氏

たいと思っております。 人間の中身を描き 「群像」と

> の大きさに制限がない すので私に合っております。

のも気に入ってま

また、

こだわらず、自由に自分の作品が描けま新制作の雰囲気は作風とか、様式とかに

安」とかいわゆる抽象的な意味を持った な感じを与えたいと願っています。 かいったものが多く、観る人にいろいろ 画題もこった名前は嫌で、 굮

ちになったのは? 常にユニークですが、

小嶋さんがお描きになる人物画は非

人物に興味をお持

別に動機ってありませんが、十年程前



ました。

どのように お変りに なったの です

が生き生きと描かれているのに感銘しま

素材は日本画と同じでしかも、

した。それを契機として、

描き方も変り

旅行した際、

イタリーのフレスコ画を観

れていましたが、二、三年前ヨーロッパ はギリシャの童絵の素朴な人物像に惹か から人物画を中心に描いています。始め

ンバスに向われるのですか。 制作なさる時は草稿なしで直接キャ

スに向い、 てきます。卵で描くと描きなおしがきき 描きません。構想をねりながらキャンバ もちろんデッサンはしますが、 その間にまたイメージも湧い 草稿は

制作中の作品を前に 別できると思います。 はいくらでもあると思います。 存在すると思いますし、将来も表現方法 画ですが、空間性を持っているかぎり、 うにお考えですか くなっているといわれていますがどのよ――最近は日本画と洋画の区別がつかなますので、自然大作になってゆきます。 で……それにいつかは壁画のようなもので、大作になるとそれが目立ちませんの をライフ・ワ

日本画というより、

大きく

って東洋

題名は好みませんね。 ましたが、もし長生きしていたら日本画舟なんか良いですね、若くして彼は死に特別好きな作家はいませんが、速水御 も変っていただろうと思います

陀羅風な構図や、

色を参考にしたりして

モデルなどお使いですか。

モデルは全然使わず

うちに、

イメージが浮か

や石をデッサンしてゆく 津軽地方で採集した流木 その特異な人物像をお描きになる時

教美術にも興味を持っていましたので尋

スに描くようになりました。

~そして、

お好きな作家は?

テンペラ画の方法で、卵で溶いてカンバ

いましたが、

イタリ

から帰ってからは

それまではニカワで溶いて紙に描いて

在新制作協会協友。
和四十八年山種美術館優秀賞を受賞、四年、京都市立美術大学専攻科卒業、 和四十二年より新制展に出品、昭和四小嶋悠司氏―昭和十九年京都生れ。 昭和四十

現 昭

あらためて我々に教えてくれる。

せている。綴織壁掛は手づくりの見事さを ふれる染屏風は京菓子のような味わい

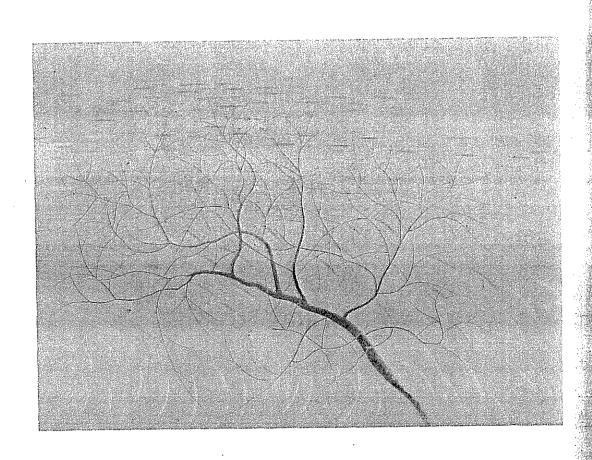
染織の稲垣稔次郎、

小合友之助の詩情あ

京都市左京区岡崎公園

昭和48年9月30日発行

No. 88



小野竹喬作

第 33 回 小高大 中大生 生生人 国際写真サロンの円の大生の一五〇円 京都職場美術展 自主休游展 ——三 無 〇〇 料 円 門 門 無 000 料 月 円 五〇月月

> 美を愛する心 ゆとりの生活 中信がお手伝いします



第 20 回 第25回 第4回 第 11 回 さと蝉の声 大学美術連盟展 書道祭展 前売・団体(二〇〇円) 毎日書道展 小中 生 生 高大生 無無無 無

関西



#### 友 の 会 だ ょ

術

の

覧

4 14 7 } } } 8 20 12

(青少年部展)

友の会はじまって以来の会員数となりまし 集してきましたが、 友の会は、三月から昭和48年度会員を墓 六月末に一千人をこえ

区)で、記念賞として京都市美術館所蔵品 一千人目の入会者は時待達也さん(伏見

現創会公募展

案についても事務局原案通り可決されまし 乾ぱい、なごやかに歓談しました。 た。ついで懇親パーティにうつりビ 会計報告を承認、本年度の事業および予算 席しました。総会では昭和四十七年度事業 開かれ、田中会長はじめ会員約五十人が出 友の会は総会は6月24日京都教世会館で

**搴業を充実させる。美術講座、列品解説を** 担金ではない)の増額によって展覧会観賞 できるだけ多く行う、海外見学旅行などに な点は展覧会入場料負担金(会員の個々負 総会で可決された本年度予算は事業の主 に至ったのが、 ふつさせる。 で白い手袋やバッグが来訪者をほう 画想の熟するとともにだんだん後退

客」はユニークな作品となって 列で展示中。月曜休室) 品に至って、機智的な展開をとげた かった。その意味でもこの「画室の あしらいはその後の作風とはならな としての道を歩んできたが、この作 (7月29日まで京都市美術館平常願 金島桂華は壮重な画風の花鳥画家 しかしこのような知的な

# 表紙作品解説

和29年第10回日展に発表したもので「画室の客」は作者金島桂華が昭 揚させない構想であったのか、それ はモデルになる二匹の犬を相当な金 めから画室の客そのものは画面に登 ためにも周到な準備を重ねた。 とも最初は登場していた主人公が、 この脇役を描く

いずれにしても川端竜子の「佳

興味をひくところだ

遂には画面からその姿を消す

うるおいの世界 へ

<u> 177</u> 野 重

世

増えて、 **剴せる一群についての名称です。それは時を示し、或る程度の明確さをもって一線が** のなかで、 称ではない。今日行われるさまざまな版画 がゆかぬものになってきている感じです。 れまでの美術鑑賞の態度ではどうにも会得 も何とも名づけようのないものがやたらと いますが、 現代版画はもちろん現代の版画を指して とくにそのフォルムについてはこ それなりに共通した特徴と傾き 今日行われるあらゆる版画の総

だからです。 化の総体が、 行の文明に対する一種の批評として展開さ ないにかかわらず否定しらべからざる事実 支配していることは、彼らが意識するとし ちの生活実感、 かかわらず、 れるものです。 な反応を示し、 であるように、 いる諸機能 現実を取巻く政治・経済・文 芸術活動にたずさわる作家た 、世界観、 それは好むと好まざるとに 当の時代と社会が成立って いわばつくり上げられた現 あるいは文明に対して敏感 思想、 情操などを

がら、常に新しいイメージの創造を目差し の流れと人の心の移り変りを先端で捉えな

て展開していく開拓派を指します。ただし

体的な批判を行ってきたということです。 社会つまり 現代文明に 対する 対処の 姿勢 ではありません。大きく現代という時代・ 式に対して超克と発展を見たわけですが、 版画の歴史や版画における既存の感覚的形 ら、版画という一つの表現手段を用いて具 しかしそれのみでいま一座を占めているの 宿命的でもあります。 造を目差すのは本能的で、 も既存のものを破壊・超克しつづけるのは それは広く現代美術の歩調に合せなが

的な作品の視覚的効果、 いう芸術創造の基本課題は、 内容と直結して

前衛的な芸術活動がい つの時代でもそう

**を目差すのは本能的で、そのためにいつ芸術活動がたえず新しい感覚的形式の創** 現代版画もですから

どういう手法で何をいかに表現するかと そのまま具体

でないことと呼応しています。 日でもなお美にのみ期待と喜びを抱くもの い美の創造だけをいっているものではあり それはわれわれが美術に対して今 ジは必ずしも新し ます。現代版画を見るポイント

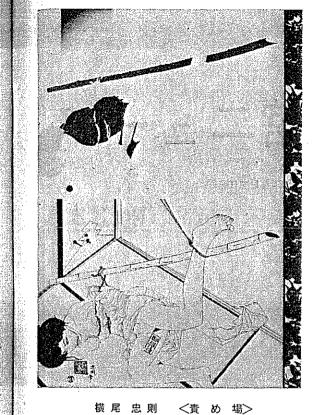
ません。

今日風な美術といえば、

絵画とも彫塑と

布 式への実験的な方法が出てきたり、 的・社会的問題の局面を強くテーマとして 胆な応用、紙に限らず木、 版画といった極端な例もあれば、 機械印刷による大量生産や逆に一点だけの 的感覚のどこを突き、あるいはどこをつま 貫かれていると前提するならば、 たりすることになります。 は意識的に原初的な美的感覚形式を創造し 外なる世界を見直そうとする新しい認識形 出したものや物質的・精神的にわれわれの て版種の拡大が試みられますし、 み出すかということになりましよう。 どういう 印刷技法を 用い、 しよう。それらがいま批判的精神によって スがどうなっているのかという点にありま って今日的なテクニック、 (素材)を選び、流動・変化していく現実 化学材料など市広い物への印刷、そし と、、モチーフ、ヒ、 金属、 いかなる 材質 顔料の大 石 また政治 平たくは ある 結果 砂

席を奪った格恰にも見えます。 線が先へ先へと駆けたため、 た色と形が、 っているということです。 る色と形を具えてしかるべき空間におさま つかは絵画もそうであったように、優美な 勢サロン的です。サロン的というのは、 楽しい部分と、 覧会に行けば歴然としますが、それらは大 る部分がちやんとあります。現代版画の展 しかし理屈はともかく現代版画には見て 親しみさえもつというのはこの失われ 前述したような問題意識から 見るものに親しみを抱かせ それは絵画の前 さながらその 見て楽し



使ってよく なる物こそ本物 黒 辰秋

工芸家 田

から話した方が良いでしよう。 …先生がこの道をお進みになった動機 それについては先づぼくの生い立ち オヤジが

すが、

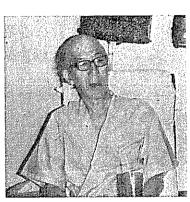
ったその言葉が子供心に身にしみましたけでしょせん縁の下の力持ちや」とい 発表するとはけしからんと 思い まし てた。人にやらせて、自分の名前を世間に は手伝いもしましたよ。 **塗師で、ぼくは生れつき虚弱児でしたの** ら仕上げまで、 「塗師というのは蒔絵などの下地を造る 友だちもなく、 上げまで、一人で一貫してやってお、、それで現在のように材料の吟味かよし自分は一から十まで一人でやろ その仕事振りがおもしろく、 職人さんが二十 ある時オヤジが 時に 人程

たそうですが… ……お若い頃は民芸運動に参加なさっ

動しました。 寛次郎さんの二彩の蓋物を初めてみて、 すどい人で、 これほど素晴しいものがあったのかと感 -ぼくが未だ十七・八才位の時に河井 家 問 それを観た時はやられたと 河井さんという人は本当に 代)さんに河井さんを紹 から民芸運動を提唱して 介してもらい、河井さん 楠部

> 氏 茂神社の近くに三 鳴していったわけ 然に民芸運動に共 おられた柳宗悦さ んを紹介され、 そして上賀 自

を借りて柳宗悦、青田五良、鈴木実とぼく百坪位の社家のかしやがあったのでそこ の四人で共同作業をはじめたわけです。 今は民芸ブ 先生が参加なさった運動と比較な ムなどとい われて たのでそこ



て扱われています。民芸とはあんなものでないものが、レッテルだけで民芸とし 芸運動は工芸品に含まれて ---あれは困ったものですね、さってどうお考えですか いき ましたが、 第一室から 打たれ ましで開らかれている中国文物出土展を観に ではありません。先日も京都国立博物館 を究明し、 現在は工芸そのものも低調な気がし 健康そのもので、 )のが、レッテルだけで民芸とし、体系づけたものでした。そうに芸品に含まれている東洋思想 感動が新しいです 私達の民

> ます。 美術品として、 茶入れを買って、一年後に見せてもちっければ駄目です。先年、四国の方が私の 欲しいですね。 身として、どちらを好まれますか。 くなってきましたが、 ……最近は工芸が道具としてではなく 美しくなっていたんですよ。こう、 のを作ります。使われてこそよくならな ともいえない味わいになっ 毎日のように触れられ、 たのですが、出来上った時よりももっと このでしょう。これではいいでしょう。これでは、大きなではり道具ですから、使って、 使わずに眺めるものが多 ぼくは自分で使いたい 先生の作品はご自 なっているんです、艶が生じてなん 手で P

貴重なものですが、 おられます - 現在ではこのようなお仕事は非常に 先生の後を継ぐ方は

いです さ、叉盲る、… こうなもので、 柔かさ、 塁云えば 鯛の ようなもので、 柔かさ、 塁 云えば 鯛の ようなもので、 柔かさ、 塁 だけでなく、最近は材料が少くなって、 をしておりますが、 悪い木を植えてますでしよう、 かどりかわかりませんね。しかも後継者 なりましたね。しかも切った後、収縮率、正に材木の王様なのですが -1|人の息子が一応、 将来も続けてくれる 私と同様の仕事 将来が危

黒田辰秋氏(くろだたつあき)――明黒田辰秋氏(くろだたつあき)――明黒田辰秋氏(くろだたつあき)――明黒田辰秋氏(くろだたつあき)――明

生れたものであるとしても、 いるかも知れません。 いという気軽さを与えてこれにあづかって できるということも、案外商品となりやす 愁を呼ぶからでしよう。 原則として量産が なお一種の郷

本要素-ころに現代美術における固有の存在があり としての作品を依然生産しつづけていると 他方美術が永く見る者を楽しませてきた基 現代版画は一方で現代をたたきながら、 つまり浮世絵なのです。 ここに庶氏を拒否しない魅力があり 色と形を手離さないで、 創作物

的・具体的情況が決定することになりまし 代版画の体質・態度が今後どう変っていく れわれが現代版画を何と見るか、その現実 に添うことでもあります。 これを生んでいる今日の文明的土壌の実情 て自閉症状を示すことになるか、それは現 かにかかっています。しかしそれは同時に はたして現代版画がそういうこと それともこれを忌避して混沌へ駆出し 一服の清涼剤でどこまでも (当館・学芸課員) そして何よりわ

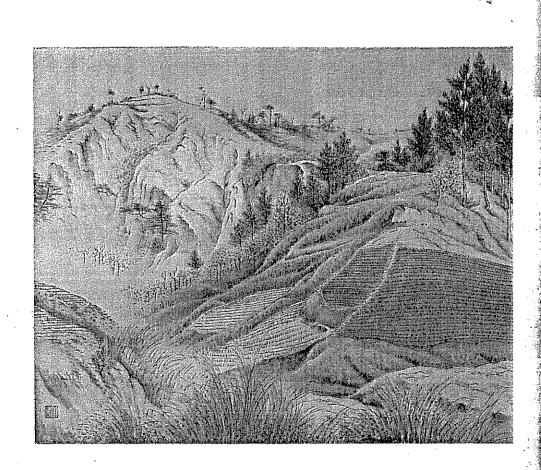


— 3 <del>---</del>

京都市左京区岡崎公園

昭和49年2月20日発行

No. 89



# 秋の美術館特別展 「昭和期における日本画と洋画」

その両

の時代であり、洋画では画壇の大御所鹿子 小孟郎も健在であった。 通覧することは、予想以上に屈曲にとん 戦後から最近に至る日本画と洋画の動向 両々相まって京都の絵画の進展をかな 近代美術史における優に一個の時 黒田重太

美を愛する心

中信がお手伝いします

は11月2日から同28日まで、2日は午後か

同志社大学73年展

第 28 回

ンリアル美術協会展

79自由美術展

第41回独立美術協会展 京都女子大絵画部部展

尽都工芸繊維大美術部 京都薬科大学美術部展

숲 だ ょ

ゆとりの生活

秋の見学会を10月28日(日)

昭和期における京都の日本画と洋 (2日は午後から19日は休室) 不思議の国

第27回二紀展 新制作彫刻京都展 新制作協会日本画展

今回は愛知県犬山の

小野竹喬作

猛

田中角栄氏がフランスへ出向いた際に話が ザ」は関西には残念ながらこなくなった。

レオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リ

まとまり日本展示がきまったこの名作の公

#### 微笑するモナ・

藤 田

まではどうしてももち込めないというわけ

しく制限されているので、京都

望を申し入れたのであるが、日本への貸与 開については船橋京都市長も京都開催の希

情をされるとまず逃げ腰になるにきまって 顔はなんだか不気味で、 の研究を怠っているものにとっては、 とのうえもないと 評されたマツゲがつい いる。はじめ「モナ・リザ」には繊麗微妙 れのように日頃女性の表情と内面について 象は人によってさまざまであろう。われわ モナ・リザの例の「微笑」についての印 恐らくああいう表

ったのだそ 消え去ってしま る修理によって るが、たび重な

ていたといわれ

う微笑になって オナルドの明る とにかくこのス ていればどうい ただろうかー イルは作者レ マツゲがつい

> ましやかな肯定と期待も、あの微笑は現わ けゆく社会にたいするおずおずとしたつつ れているが、その一面、 日では大体、 ではなくて、 しているに違いない。 スタンダールである。そしてこの徴笑は今 を表わすものであると論断したのは文学者 い気質を現わすものとされてきたが、そう そういうものとして受けとら 女性のそとはかとした悲しみ ルネッサンスの開

やが上にも神秘化するようなハメになるの も理由がないわけではない。 のであって「ナゾの徴笑」などといってい 度数過剰な笑いを見聞しているものにとっ それはともかく、 たしかにあの微笑は調子の違ったも 今日のある種の婦人の

あの

り変らなかったという風な、心強いことをきた人の中にも、印象としては図版とあま 干割引されぬでもないのである。 図版といえば近ごろでは原色刷もいよい ってくれる人もあるので残念さ加減は若

があがり、 ことになる。 とあれば、たいへん損な回り合わせという 見をされるに違いないのだが、いまは東京 けた以後も、 も田中角栄氏がモナ・リザの招来をとりつ へ行くより仕方がない。残念である。しか って京都の市民はより的を射た洞察や新発 もっとも実際パリまで行って作品をみて 実際作品がきてみれば、あの名作をめぐ モナ・リザは京都でみられない 物価はどんどん上った。物価

んね。自分としては正にちょうとはかで重きを置いているということはありませ めて、 表裏一体になっています。 なっていて、 のは昭和三五、六年頃、街の印刷屋でリ グラフの機械がさかんに壊される時期に した。現在、彫刻と版画のどちらの方に に冗談をいうのですが、版画をはじめた。 利用して版画をするようになりま それが惜しいので、 拾い集

に分類して、 なものでしょうか、例えば具象と抽象と ◆これからの彫刻についての展望はどん どちらが優位にたつでしょ

表裏一体で共存してゆくと思います。 ただ彫刻というものは床の間に置かれ さっきも申したように具象と抽象は 具象がなければ抽象がなりたたな

も常にそれを心がけています。 のであるべきですね。私の階段シリ るものでなくて、もっとパブリックなも

ズ

食がなりたつ世の中にはありましたが、す。ああなっても生きてゆける自信が乞 孤独な仕事です。それだけに最近、乞食がせん。 自分が考えて、 自分だけが頼りの いなくなったというのは寂しいと思い 人間関係の信頼が 薄く とういう仕事は頼まれてすることでな やれといわれてするものでありま なったとい えま

会員、成安女子短期大学教授。市立美術大学彫刻科卒業、行動 <u>富樫実氏―昭和六年山形県生れ、</u> 行動美術協会 京都

ある。

(当館学芸課長)

The second secon

なくて、 隆寺や平等院の壁画の模写で発揮された画 ようとしている。 っているところの香りや気韻までも再現し これらは原画の色と形を再現するだけでは 家たちの技術の水準は見事なものである。 でもないことであって、そういう点では法 るだけ現物に近い必要があることはいうま よ美しくなった。複製というからにはでき 作品がそれによって高き芸術とな

は今日ではひとまず別のものである。 とれにくらべれば印刷による原色刷など

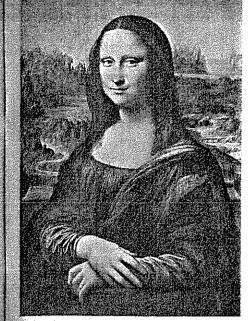
なる。 だけのモナ・リザが存在したということに がつくられたに違いないが、 独立した別の世界をかたちづくる。モナ・ リザも、 色刷というようにそれぞれ平行しながらも することになる。原画は原画、原色刷は原 出し、場合によってはそれを意識的に追及 ながら原画とはちがった別のものをつくり なっているので、 のにならぬ程精巧になり、 ある。しかし印刷技術自体は昔とくらべも に植えかえる。別のものになるのは当然で えにかかれたものをアー によってきめられる。カンバスや絹布のう 大きさや、それを刷込むカレンダーの体裁 原画がどれほど大きくても、 いままでに世界で何百種類の複製 いきおい原画を基底とし トペーパーのうえ 仕上りも美しく つくられた数 図版は本の

**—** 2

のものである。そ はわれわれが普通作品をみる場合の幾倍か 撮影のとき作品にあてられる照明の強さ とき作品は普要とは別

のほかに、 製をみるときの魅力の一つは満月をみると 力にかけては肉眼はレンズに敵わない。複 画面全体を一時にくまなく見渡すという能 予想のかけはなれていることに驚くような ない点において地図以上か、 ていよいよ盛んに出版されるにちがいな 適さである。画集などは資料としての価値 それは視覚に無理を強いることが少ない快 きのようなくまなき平明さにあると思う。 カメラより精緻にみることもあるけれども ような大きさである。 は七七×五三センチ、事情さえ許せば、 経験はだれでももっている。「モナ・リザ」 さだと勝手にきめこみ、現物を見て、 図同様である。 い。しかし図版は原画の大きさを予想させ れわれの家の壁にぶらさげておいてもよい して複製の土台とする。画面を肉眼の方が の相貌を関わず。カメラはその相貌を記録 視覚をたのしませる材料とし との絵はこれくらいの大き 少なくとも地 その

笑をなげかけ続ける場面を想像すると、 客たるもの押し出される方向とひきつけら 気味だという実感がまたもどってくるので ある。そしてそういうわれわれの頭ど れる方向との力の矛盾にひと苦労は必定で か見る時間は与えられないというから、 に、「モナ・リザ」が何んともいえぬあの後 ったときには、 さてとの作品が東京の博物館の壁にかか 観客ひとりあたり三十秒し 餌



#### 刻 は 虚 ځ 実 ع 0

シリ

- ズをしてい

-以前は道化者

彫刻家・版画家 富 樫 実 氏

◆最近拝見いたします作品は木彫が多いのですが、木彫を専門になさっていらっ

間をも含めて制作して良いのではないーズに変わりました。彫刻というのは空

てから、階段シリ スラビヤをまわっ たのですがユーゴ

すが.... レスなど、 どん欲ですから、 ただ木が好きなので、 そんなことはありません。彫刻家は ^が好きなので、木彫が多いでいろいろなものに手懸けます 石、ブロンズ、 ステン

ない、

これらのもの凡てをふくんだもの

その空にかける階段を意味して

空間の空は英語でいう empty でもnothing でもspace でも heaven でも

ムが成立するものと考えます 彫刻は虚と実の対話によって、

フォ

木のどういうところがお好きなのです ◆木がお好きだとおっしゃいましたが、

けです。年輪とホルムの接点に興味が惹分が木目を表現の手段として利用するわその木目がホルムを助けてくれます。自 かれます。 木は彫っていて木目が必ず出ます。

像彫刻をやめたのはその本質を探るのにて、創作の基礎の修業を積みました。仏 の二者選択にせまられ、 にはそれが出来ない、 宗教的に把えなければならないのに自分 半内弟子として、 私は少年時代仏像彫刻家のところに四 ムの追求への方を選んで、 創作の基礎の修業を積みました。仏下内弟子として、いわゆる丁稚奉公し 宗教家か彫刻家か 自分としてはホ その後定時

に入りました。 制高校を終えて、

訪作問家 っしゃいますが……。 最近制作なさっていら  $\Diamond$ ″階段シリーズ↓ を

ぼくの作品はほとんど尻切れと

ġ 作品へ繋がっていくことを意図していまきぬける形になっており、ぼくの全部のんぼになっているのは拡がりが空間をつ

えてしまうので、階配のは別にないですね、 で続くか自分としてもわかりません。 階段シリ ーズに変ったきっかけという 階段シリーズもい 突然、 本能的に変 つま

◇彫刻と併せて版画でもご活躍ですが… ちょうとはんの使いわけだとよく人

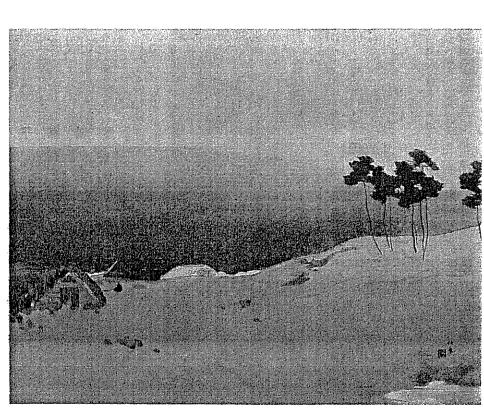
--- 3

京都市等術館

京都市左京区岡崎公園

昭和49年4月20日発行

No. 90



潮沙永日

#### 各部とも左記期間に美術館へ。 限などについては募集要項を参照 京都市美術館 昭和49年5月1日~13日 してください) 一五〇〇円

二点以上の場合は必ず同時に搬入 各自に通知

5月14、15両日

美を愛する心 ゆとりの生活 中信がお手伝いします

関賞等

市長賞、

須田賞、

24 日 両 日

午前10時~午後4時



美術館の冷房工事

氏二五度を目安にした、 り時代遅れである。幸い冷房工事のため予 設当初は 冷房 なしでも 不思議 でな かった いるみたいだという不満がつよくでる。建 毎年夏になると美術館は蒸し風呂の中に 四十年以上を経た今日では時節柄やは 目下着工中で、

版画が独立して第6部となった。 送の場合は二十円切手同封のうえ申込んで (作品募集要項は美術館にあります。 従来、洋画の一部門であった

12 ∤ 16

∤ 10

第26回京展作品募集

# 展覧会予定表

1974制作展 無河合玲デザイン研究所

11 { 16

日独国際合同展

第16回 · 京都市美術館

第 34 回 芸大作品展(京都市立芸術 美術文化展 高大生 日本南回院展 100 200 300 円 円 円 (50円) (180 円 円 円 50 200 300 円 円

> もいえるものである。瀬戸内の気候 風景を六点集めた画帖「冬の譜」とで 竹喬の故郷である岡山県笠岡付近の

存上額装になっているが、 が表現されうるのである。 だがこの絵のように凝三七・五セン ている。作者の心情と写実が一つに は冬でもめったに霜がおりないとき 横四五・五センチのスケッチ風 その温暖な気候が美しい描線に あますところなく表現され 大作以上の効果

い清澄な風景画の世界を築いて、

表紙作品説明

兆しが 画面のそこここに感じられ 冬枯れの山でありながら、

#### シャ彫刻の 衣服について

京子

位で、 するわけでないし、 デザインの点からいえば、 夫が蘇らされているものでもない。むしろ 施されているコレ (アルカイック時代には 色や 柄にも 工夫が 色や柄の美しさを主張したものではなく あろうか。その衣服は日本の着物のように ある。ギリシャ時代の作家たちは女性美を 性像がほとんど裸体像であるのと対象的で 当らないということである。近代彫刻の女 体像なのに、 代の衣服はキトンと呼ばれるものが中心に いつも不思議に思うのは男性はほとんど裸 ギリシャの彫刻を数多く写真などで見て っている。 いわゆる質頭衣に近い。 って、現代のようにデザインに工 その着ている衣服に求めたので 女性に裸体像が後期にしか見 そのキトンも建築、 (少女像) 像が結構ある 縫うのも両脇の二カ所 一枚の布を裁断 ギリシャ時 彫刻の様

って、 いう。 想像できる。 る。いずれにしても単純なものであったと キトンには袖がついたのもしばしばみられ に両層をブローチで留める。 にして両脇を縫うか、ブローチで留め、更 ンで習め、時には片脇は開けられていたと スは一枚の布を輪にし、 スとも呼ばれている。ド される。ド 式と同様にドーリア式とイオニア式に区別 両層で、ブローチやボタンや飾りピ イオニア式のキトンは一枚の布を輪 リア式のキトンは別にペプロ 上半身は二重に折 ーリア式のペプロ イオニア式の

る。 可能性をギリシャ人たちは知っていた。先 やかなカーブを描く。 **づ挙げられる美は襞の織りなす美しさであ** となく表現しながら。 単純であるが故に、 両肩でとめられた布は両肩から、ゆる 様々の美が生れ出る 要はあたかも生き物 胸のふくらみをそれ

> やリンネルを理想化したのであろうか。 現実のどわどわした (と思われる) ゥ あるいはまた彼等お得意の理想論でもって、 上の上質の素材を創り出したのであろうか。 軽やかで、 や壺絵の女性の服にはシルク以上に柔かく、 まだ絹はなかったといわれる。だが、 時のギリシャではウールとリンネルが主で、 とのない柔軟性、軽快さを持っている。当 繊維を知っている我々でさえ、実際みたこ のように自在に体の線、 している。彼女たちが着ている素材は化学 ルクを未だ知らなかった彼等がシルク以 薄く透きとおったものも数多い。 動きにそって変化 彫刻

場

馬

ないか。 なども、ギリシャ十二神のアルテミスやア はあるが、数年前に流行ったミニスカー 現代にまでその美しさを伝えている。 そって、 代の繰返しをしているのにすぎないのでは れるところからも、 マゾンが、着て野山をかけている像がみら に縫い方は複雑になり、デザインも豊富で それほど進歩しているともいえない。確か が日常着ている洋服も、 していたのである。我々はただギリシャ時 したのではないだろうか。 トは微妙なプリ 腰で締められたベルトによって、スカー ツスカートはギリシャの衣服から発想 トの一瞬を把え彫刻や絵画に再現し、 変化し、風にふかれてはゆれるス ーツを創り出す。現代のプ 古代からちゃんと存在 ギリシャ時代から 動くたびに体に 我々

> をみせ、 あって、 服は単なる体の覆いではなく、 にとけあっている。 縛られているのではない、衣服と体が一つ 的な面をみせ、 である。 う一つの美をギリシャ人は創り出した。衣 している。にもかかわらず、 長している。衣服は時には裸体以上に官能 の体を表現した時、裸体像にみられない ものを表現している。 かといって、肉体そのものでない、 と肉体との中間に存在する衣服でもない、 が、女性の柔い体をふんわり包んで、 そのものは体にフィットしたものではない の線をきわだたせていることといえる。服 ギリシャの衣服のもう一つの美しさは体 裸体では想像できない動きをも示 襞も服の柔い素材もその働きを助 体をより美しく見せる媒介物なの 裸体では表わせえない威厳 衣服をとおして女性 彼らは衣服に 体の一部で 第三の ę,

> > **—** 2

体どんなものであろうか。 るようにみえる。 に生きる我々への一つのヒントを与えてい に拍車をかける。本当の美しい衣服とは一 服装などと種々の形容詞が使われているも その美を表現したギリシャ人の姿勢は現代 が最高に美しいものと信じ、彫刻や壺絵に にも思える。めまぐるしく変る流行はそれ ではないだろうか。 中でともすればその奴隷になりつつあるの のの、事実は迷いのなかから生じたあがき 現代のわれわれはファションの多様化の 個性的、 自分たちの衣服 反体制的な

## 風と光を好ん で

# (洋画家)

庭 新太郎。氏

> 風とカーテンを使 ワイエスがやはり ているのですが、 テンを使って試み

办

うね うしようか迷っている状態です。 めることも考えているのですが、 かりするやらで.....。 それを見て、 びっくりするやら、 っているのです また風を閉じて 今

でしたが、伊庭さんはお父様の影響をど

お父様

(故伊庭伝治郎氏)も洋画家

意味しているのでしょうか。 今おっしゃった人間の脱穀とは何を

父が二科に所属していたから、こだわり そうですね、私が二科会に入ったのものようにお受けになりましたか。

で父にそっくりになっているのを感じま すし、ものの見方、色彩、構図、好みま なく自然に入ったのも父の影響といえま



似ているというようなことは思わなかっ

自分の技術が未熟のうちはただ夢中で、

よけい似てくるのだと思いますが、

父が使っていたものを題材に使うの

から最近とみにそれを感じるのでしょう

影響というより血のなせる技だとい

たのですが一人前になって、

余裕がでた

表わそうとしているのですが… 情をもたない不毛のこの時代を象徴的に 現代社会に対する不安とか

らっしゃいましたか。

作風についてはどのように変ってい

絵をやり初めた頃は写実風なものを描

えます

ね。長い影のあるドラマチックな光もま メールとか、 ラツールの光がいいです好きです。把えやすいのですね、フェル光、やわらかい光、とじこめられた光が 派の作家の分析した光でなく、さしこむ が、風と同じように光が好きです。印象 た好きです。 それからさつき風が好きと申しました

私は体質的にロマンチストなんです

に惹かれます。

風をテ

風の詩的なムード

私は戸外を描いたこともあるのです

具体化する積りでカ ているのですが、風を ーマにずっと描き続け

> 光、閉じこめられた風とか光をテーマに に戻ってしまい、吹きこむ風、さしこむまくいきませんでした。結局室内のもの しております。 が、風景がかけないからでしようか、う

れば出来ない何かがおありでしょうか。 なさっておられるわけですが京都でなけ さあ私の場合との家で生れ、 伊庭さんは京都でずっと作家活動を との家でないと描けませんの そだちま

はなく 懐しさにかられました。 済観音のコピーをみて、 月程海外へ旅行した時もギメ美術館で百 るのですね。 **周囲の自然が私と切り離せなくなってい** ありません。この家とこの家をとりまく したから、 別に京都に愛着があるというわけで 京都へ帰りたくなりましたし、 お好きな作家、作品は? むしろ客観的には京都は好きで ですから東京で下宿して たまらない程の 三ケ

情と共感するところがあります。 雄の鯉のぼりのノスタルジャは自分の心 夫氏の影響が大きかったのだと思い きっかけを作ってくれ二科会員の森田信 が好きです。これは私が絵の道にはいる なども好きです。日本の作家では国吉康 す。ブラックの装飾性、 ら父の作品も好きです。 ピカソのゲルニカの一連の作品、アン ルッソ ーの戦争を告発した作品など セザンヌ、 それか モネ 핧

伊庭新太郎氏―昭和十一年京都に生れ ತ್ತ 京都美大卒業 二科会会員

民) 3月22日京都市伏見区の国立京都病院 で急性肺炎のため逝去された。 福田平八郎氏(日本画家、京都市名誉市

本画の最高の位置にあった。日本芸術院会 て斬新な日本画のスタイルを開拓、 て活躍、緻密な自然観察と装飾性を統一し 大分県出身、青年時代から京都に居住し 京都市美術館評議員でもあっ 現代日

大正7年 明治25年 大正11年 大正10年 大正8年 第3回帝展《鯉》特選。 帝展第1回展に《雪》、初入選 帝展推薦となり、 京都市立絵画専門学校卒業。 大分市に生れる。 無鑑査資格を

昭和5年 大正13年 などと共に六潮会を結成。 中村岳陵、 第5回帝展審查員。 絵画専門学校助教授となる。 与えられる。 山口遙春、 牧野虎雄

昭和11年 శ్ 京都市立絵画専門学校教授とな れる。 昭和10年

帝展改組に当り、参与に推挙さ

昭和24年 昭和22年 昭和12年 される。 に対して第1回毎日美術賞受賞 前年度第4回日展出品作《新雪》 日展運営会理事となる。 帝国芸術院会員となる。 同教授を辞任。

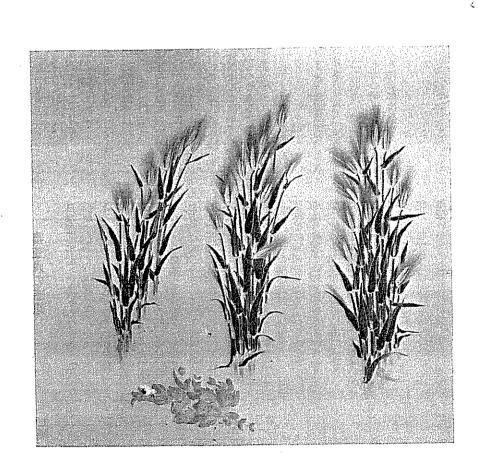
昭和48年 昭和44年 昭和34年 昭和36年 る。 京都市名誉市民として表彰され 文化勲章を受賞。 松屋にて自選展を催す。 日展改組に当り、顧問となる。

— 3

克都市左京区岡崎公園

昭和49年5月25日発行

No. 91



徳岡神泉

## 美を愛する心



5 1 月 { 13 第26回

50 (sá 200 円 円 円

(20名以上の団体)

**及米田寺本堂天井画** 

上の団体料金

.50 150 200 円 円 円

100 300 400 円 円 円 200 300 円 円 250 350 前 円円売

10 20 50 円 円 円

覧 会予 定 麦

第16回 書窗展 東方美術展

関西二科展

展

るものは、 **吋は重々しく描いた作家の息吹きと、肌** かな静寂の中にある時は爽やかに、ある 良い作品に接するとほの

新創美術展 高大生 高大生 八中生 一种 150 250 350 円円円 100 200 250 円 円 円

高大生 25円 (20円) 35円 大 人 35円 (30円) 30円 前売 20円 20円 20円 30円

ラ はどのようなものであったか。絵を描く るならば、 人間として考えさせる毎日である。

その非凡さをつく

るまでの歴史、

技術の総合的頂点る。そとまで到着す

表紙作品解説

潮沙永日

竹内栖風 作

なった記念すべき作品であった。 いた「栖鳳の松」といわれるように 極鳳は 大正七年 第十二回 文展に つけたての下地に荒い線をひ

のどかではあるが、どこか空漠とし された現代では取り戻すことの出来 われた日本の自然であり、公害で汚 いる雑草、点々した網小屋、 らされた松、砂浜からわずかに生え た砂浜に色をそえている。潮風にさ "極鳳の松」が画面の右側に位置し、 **景描写がなされている。** 

が、「河口」と同じ系列に属する作

から四年後に描かれたものである

本館所蔵の「潮沙永日」は「河口」

**本館の作品はゆったりとした春の情** 品といえる。同じ海岸風景であるが

いわゆる

3

第26回京

昨年の丁度百点を上まわる一、四六七点を

の応募数は九三点でさいさきの良い出発で に加わった。版画はこと数年、応募数も増 も妥当な独立であったといえる。版画部門 加し、質も向上しつつある状態からいって ったといえる。 本年からは新たに版画が独立して第六部

古 彫塑二三人、工芸二四人、耆五六人、版画 あるように、まだ充分にこなしきれていな 新しい試みがみられ、 体の作品の作風も従来にはみられなかった かったことで、日本画三四人、洋画四三人、 ていることも否めない。未知の可能性とで ことを感じさせた。反面、審査員の評にも い模索状態がそのまま作品になって現われ 一五人、計一九五人の新人が登場した。全 今回の京展で目立ったのは初入選者が多 将来に期待したい人々であ 京展も転換期にある

をふき消してしまい、二十四日の/切には 場と同時にどっと搬入があり、 月二十三日から搬入の受付けが始まった。 ゆけば、昨年よりも百点以上の減数ではな いかと危ぶまれた。だが翌二十四日には開 恒例の京展は例年より約一週間遅れて四 とのままの調子で 前日の不安

# 審査員の感想

る。 ろにでているかどうかに問題があると云え れた。ただそれが描こうと思っているとこ にさしかかっているということでもある れたようだ。 とは変った方向をめざしている作品が見ら 少なくなって、幼稚ではあるけれど、従来 日本画 平均して睡たくなるような作品は た方向に変ろうとしている苦悩がうかがわ いうものを意識しながら、 若い人の作品の中に、 一般的に日本画がある転換期 いままでと違っ

六三六点で応募数の増加にもかかわらず、

である。昨年の入選数六四三点、今年度は 数、無鑑査以上の出品数等は別表のとおり 数えた。なお各部門でとの応募数、入選

入選数が減っているのはかなりの厳選であ

展では、 性豊かな作品に審査員が強くひかれた。 象、抽象を問わず、入念に打ちこんで、 な作品にも労作が多く見受けられた。 さが評価されてきたが、今回はまた臭象的 なく、多少画面に破綻があってもその新鮮 やはり厳選といわざるを得ない。従来の京 は昨年に比べて少なくなっている。これは 六○○点台を越えたのにひきかえ、 抽象的な傾向の作品の応募も少く 入選数

点でも従来になく多彩で、 質の点においてもよくなった。また材質の ったのは石彫が多かったことと、そして、 んだものが登場している。今回とくに目立 今年は応募点数が多くなり、同時に バラエティに富

せて一万六千五百余人。 である。会期中の入場者数は有料、 受賞者名、審査員の感想は以下のとおり 無料併

え方、表現方法で制作しているのがよく解 概念、固定概念から解放されて、 それらがなかなか優れていた。従来の既成

新鮮さ、

特

進歩のあとがみられる。 応募点数も増え、質も向上して年々

新人の躍進がめざ

ましかった。 どう表現するかという問題であるが、 のうどきがあがきになるおそれがある。若 にあるので今後に期待したい。ただそれら アデザインがぼちぼちみられるが、成長期 充分にとなしきれていない。またインテリ い人でなければ出来ない思いつき、発想に られる。それは現代の風潮であるが、 あったものを立体化しようとする意図がみ た。例えば、染織部門では従来平面芸術で 古典をふまえて、それを現代において 自由な創造性がうかがわれて、 独創性の高いものが随所にみられ

今回はずいぶん応募点数が増えて、 に良いものを落さないよう心掛けた。 が解る。審査は公平かつ厳正に行った、 典と現代との接点に背が苦悩しているの 典の中に没入して、 歩のあとがみられる。申すまでもなく、 めいの発表の仕方が違うにしても大きな進 とらわれることは俗っぽくなる。それ故古 の作品にならないし、古典を離れて現代に

もがくばかりでは現代

古

めい

の質も新鮮なおもしろいものが多々みられ している反映だと思われる。と同時に作品 は京展の版画に皆がなにかを期待して出品 版画 年々応募数が増加しているが、それ 将来の可能性を信じたい。



伴戸紫園 直棘曲 京賞展 歌 風ひかり ノ春 井上康山・吾道 雀部膏葵・小山田 日下部紅綾・難波 松原潮風・劉禹錫詩 しらぎく 川島鳳村・緑賞 伊藤左千夫の 池田桂鳳·市長賞 佐々木宏遠・満幅 真神鋺堂・ 松

京展賞

古里 福井宗之助・須田賞 木か

中尾英武・市長賞 母と子と

④ 第一部

日本画

長賞

黙 酒井嘉信・倒錯

田中貞一・作 藤庭賢一・

歴術師の変貌─**™** 

딦

者

げの二人

弘彦・日本経済新聞社賞 誘い

百々俊雅

④ 第四部

エ

夕刊京都新聞社賞

憶ひ 松村順子・近 北真理子・京都美術

子・待春 曲子明良・夜を吹く

平木孝志・静物のある室内

手長猿

坂田三男・紅賞 十二

白象

大丸辰男·京都新聞社賞 樹 伊豆

朗・青い風 川上徹・律動

鈴鹿雄次郎·

乾漆扁壺 真鍋光男・印華文「方」 芳里七 京展賞 モロッコ風景 皆川泰蔵・市長賞

蔵明彦・中日新聞社賞 木もれ日 落合手

世子・サンケイ新聞社賞

山明・京都美術懇話会賞

春宵 栓拭漆文机 冬の情景

● 第二部

洋

トホー

ム 小柳晟・市長

室内

森本勇・須田賞

夜のプラ

憲邦・或る日

鹿見喜陌・別離の日 中野

岡村倫行・水辺 扇敏之・石原(夜)

術懇話会賞 空圧™ 西尾矩昌

朝日新聞社賞 肖像 平井悦夫・京都美

字治川久司・マントの少女 木代喜司

京展賞 西村厚三・毎日新聞社賞 遊びすぎて ひとみ・京都美術懇話会賞 エンプティ・スペース71 NATURAL HISTORY-1 王の話し 蕨滝

セザンヌ展

			搬	入数	,	
部		別	応募作品	入選作品	無鑑查以上	総陳列数
日	本	画	138	115	43	<b>15</b> 8
洋	.,,	画	608	162	106	268
彫		塑	62	44	19	63
エ		芸	158	103	80	183
	嗇		408	152	51	203
版		圃	93	60	15	75
	찱		1,467	636	314	950

## 市長賞 真鍋光男 乾漆扁壺 (土)

(6月1日から7月17日まで)

11カ国に及ぶ国・公立美術館の協力を得て かかわらず、実現出来なかった。この度、 ンヌの展覧会は長い間熱望されていたにも 出陳の予定。 て、古典的構成の時代、晩年に至る114点を 義的な烈しい作品から印象主義の影響を経 開催されることとなった。初期のロマン主 近代絵画の父として尊敬されているセザ

は四つの時期に分けられる。 第四期リリックな総合の時代。 主義に近づいた時代、第三期、構成の時代、 程しかない故、これだけまとまった展覧会 我が国においてセザンヌの作品はかぞえる つの期間のそれぞれの名作、 羲的、ロマン主義的な時代、 は今後困難であろう。 おおざっぱにいってセザンヌ芸術の展開 第二期、印象 第一期表現主 佳品が並ぶ。 とれらの四

店二·青い風景

(メキシ

野嶋佳浩・舞う打鈴

**藤永覚誠・ふたり** 

ズK氏の部屋「想ー」 中野

橋本房男・紫賞

シリー

都美術懇話会賞 金魚掬い

聞社賞 春の部屋

芝田キ

·NHK京都放送局長賞

寺本つよ子・京

員之・作品74ー5 郷澄·drop out(2)

高木恭

山本 本

宮村長・読売新

• Landscape 74-02

自然美の追求

上田政

京都市美術館

昭和49年7月10日発行

No. 92



豊かさをつくるもの

自然と芸術と

それから貯えと



11

25 ~ 16

「狩野探幽とその周辺」展

350円(300円)

300前 円売

第5回新槐樹社京都展

150 250 円 円 100 200 円 円

第16回日本図案家協会準会員展

高大生

100 200 300 円 円 円 50 150 250 円 円

六月の予定表

高大生

400 500 円 円

高大生

300 400 円 円

200 300前円 円売

よりも一層、構図は洗練され、

は幽玄ともいえる気分が漂って

代は彼にとって、

(250 円)

200円 (100円)

80 130 230 円 円 円

第11回日本国際美術展

第22回国連ポスタ

は20名以上の団体

のったが、一年ほど前風邪の返して常時服用軀の調子も至味丸に変更、更に元の当芍散

 $\Box$ 

三列に行儀よく並んだ麦の穂、

後の十四年第三回新文展に「菖蒲」 の大礼記念京都美術館美術展に出品 がする。との作品は昭和九年、当館 など一連の神泉芸術の礎をみる思い されたものであるが、それから五年 本麦を丹念に写実的に 描いている **画面に盛込む櫹図法は 戦後に打立** 事物を簡略化し、その単純化に 更に大きな拡がりと深みを 一 本 一

アンドリュー・ワイエス展

第11回日本国際美術展



のである。 らだをゆすっているのが眼にとまった ろへ、モンローの看板が電気仕掛でか 与えんわい」などと嘆息しているとこ

同じ程度の覗き趣味をもち合わせたら 人とも蠟人形がかもす雰囲気について ね」以外の何ものでもないのだが、一 うという衝動を抱いたのは、

出すものだ、 何かに似ていることを知って喜びを見 吉田茂やケネディーやモンロー レスである。われわれはチャー といったのはアリストテ の一様 テルや

Private Parking

をもっていて、 ある。友人はいってみれば意識的には作家 なつかしい友人にばったり出合われ ぶら歩くうちにその前を通りかかったので たま双方これといって急ぐ用もなく、 蠟人形館を覗いたことがある。 いつだったか新京極で小屋がけもどきの そして「昨今の美術は何ほどの衝撃も 今日の美術については頑な定見 制作発表をしないでいる。 街の画廊で たま ぶら

てしまったのである。 わざわざ金を払ってまで、 いわば通り魔的酔狂からつい見 「話のた

人はたとえつくりものでも、 それが

度性は、 き起す。

都会の一画や人物がやはり忠実に描かれて を実に克明に描き、 気のポイントはともにその現実感にある。 引きつつとちらはただの見せ物ではなく、 いる ワイエスはアメリカの片田舎の自然や人物 イエス展と国際美術展が開かれている。 一つの芸術だというところが神経を逆撫て とこでもそっくり性が人目を引 粪

する。 だけで屑がとる。そして日ぐらしかかりき 不則な日常を送っている私などは、まずそ 続しみの気が殺がれる。 の高度に習練された写実描写の技術に敬服 りするとどうも私とは無縁な調子に見えて い。こういう神経の立った仕事は見ている

感を与える。そしてそのそっくり性が高け た。似ているというととは見るものに現実 価値 の 程度の 高さに おき換るものではな き出しはしまいかといった気味の悪さをひ いう点では、実に精巧で高度な技術であっ この体験をした。 似せてつくられていると にうす笑いを浮べた頭身大の人形を見て、 そのまま美術的あるいは芸術的な もちろんそういう技術の精巧さ高 いまにも動

いま一定の人気を得てアンドリュー

豊かさをつくるもの

患

それから貯えと

О₹中央信用金庫

自然と芸術と

ている。 いる。別な気味の悪さが気がかりをつく 国際展ではアメリカの

朝といわず晩といわずばたばたと、

写実というととなら写真がある。

敬服 はするけれども 会得 がいかな いかほど作業が進むものかと思った 乱調

しかし

巧みな演出をやってわれわれの感覚にちょ 仲間から離れてバ れと同系である。 もナーヴァスな線の細さをもっている。 すっと撫でるところがある。彼はそういう の視線は片隅に一人ぼっちでいる子供のそ っかいを入れる。というのは彼の絵はどれ ってふと振返るに違いない都会人の情緒を 一瞬水を差すようなところがある。気にな 叱られて悲しかったり ツ悪く孤独でいたりする

術史的に区別しようとしている。 かも知れないが、平常の調子を乱す。 過剰はともかく気をひく点では一つの要件 かしその度の過ぎた、 単純明解に迫真性をもって知らしめる。 いう点では、見るものを惑わせない。実に **これらをニュ** なるほど彼らの絵は何を描いているかと いたって押付けがましい。ものごとの ・リアリズムと総称して美 度の 外れた 説明調 いま

生活の経験がなかったが、これが大いに関 ている。彼には生来の持病があって、集団

係していよう。いつも一人離れていて、

のを小馬鹿にするところがある。

わせるところにこれの気味悪さがある。非 なく、実は具体的批判をも欠いていると思

無批判はワイエスとは別種の見るも

のを見ているようなところがある。さした の絵と同様自身でつくり上げた自然観でも

ただ眼だけ 実はこの

実を写すだけにとどまらず、内面的・主観

ズム絵画というけれども、単に外面的な現

ものを眼で見たように描く絵画をリア

的な観念をも併せて表現するものだという

今日では多面的に捉えられるのが

一般である。しかしことにあげた一派はあ

無感情な視線が現代都会人の虚無感・疎外

感に妙にさわるのである。

一方国際展におけるアメリカ絵画の一団

点はワイエスと一筋である。

しかし真昼の

客観的であるけれども非科学的である 現実感にあふれるけれども無感情であ

> れ以外のものは意識的に表現から排除して たかも形似の客観描法を忠実に実行し、

いるかに見せる特徴がある。

でものを見ているような世界 る情感もなければ思想もない、 ときに、

所在なくみつめるあの世界に通じ

現目的があるのだが、

人情を欠くばかりで

国際展の一団はいまわれわれの周りにある た。それは無思想なるゆえに共感を得だ。 にリアルであった。 られたわれわれは詮方ない現実にしかいな ものをわざわざあるがまま報告した。見せ いことを確認した。それは無批判なるゆえ ワイエスは現代の失楽園を懇切に描き起 見るものに 応分の 情緒を 喚起させ

くのは、 術もしくは芸術表現において、 目的は一応果されたといえる。 る。蠟人形の無気味さは形姿が人間にそっ 落していると思われる点である。も少し正 もかかわらず、実はその思想と批判とが欠 し・描落しもないほど隈なき描写であるに る。これは無気味だと感じたら、 くりで、骨や血が通っていないところにあ ェンスの欠如ゆえに無気味さを感じるとし しくいえば インテリジェンス の 欠如 であ きわめて現実感に富み、 けれども美 インテリジ 何の見落 その制作

杯くわされた話だといわねばならぬ。 に引っかけられたのであり、悪くいえば

応の価値もある。 ない。時代や社会や思想や生活を離れて相 整頓された美しさがある。見る眼に無理が をひくのは「白痴美」である。白痴美は情 な気をそそるのもそのあたりにある。しか 全な美である。身のまわりに置きたいよう に白痴美を好む。 に白痴美にひかれ、 ないという気味の悪さはいつもある。 し味わいに乏しく。 何を考えているか解ら インテリジェンスを欠いたます、 目鼻だちがくっきり整って いわばこの美は安定・安 人はこの無抵抗なるゆえ 現実と無関係なるゆえ なお気

会人が、ここに美の一つの典型を見たとし 定の人気が寄るのは、との新しい写実、そ 悪さに快感を覚えるからに違いない。 て蠟入形とは異質だが、やはり一種の気味 美に無難の美を見出すからであろう。そし いてとでもない。ニュー・リアリズムに一 っくり性の中からにゅうっと現われた白痴 高度で複雑な文化・教養を具えた現代都 かかる時代・社会においてはゆえな

れば「何ほどの衝撃も与えんわい」と言下 悪さの現実感もぐっと明瞭になる。だとす くあることを知らせた。 にも似た覗き趣味が、われわれのうちに強 二つの展覧会はいま白痴美に対する憧景 そう気付ぐと気味

(当館学芸課員)



機的視覚によって、

標本といわんまでも人情を著し

Copyright © by Andrew Wyeth Faraway 彼らの絵を通して私が無気味な感じを抱

だと見せかけるところに気味悪さの第一が

る。ワイエスの描く世界は現代人の視覚に

気味悪さの 第二は 描かれた 世界観 にあ

写実に耽る。

この写真にもましてそっくり

彼らは写真以上に手間をかけ、

写真以上の

京都市美術館

京都市左京区岡崎公園

昭和49年8月30日発行

No. 93



橋本明治 浄心 ヽさくなって

**壺屋はツボヤで** 音であると聞く。 本来の姿を忘れ なくチブヤが古

謂うの もある そうだ。 とんだ 村の 地形から 由来した 地名であ る。チブヤは恥部也だろう。 ぐるりが土堤高く、 フチ のととらし ソソ部落と

と雑器を焼いて居るが、 家形の焼きもの、大がめ、 小さい村が壺屋である。骨入れの大きい 沖縄の那覇市の中心に近い陶器造りの 例によって民芸 ″だちへい\*

くはオナゴのインブ村。 ゴから十五分程のオナゴにあった。正し 方ナゴから運ぶと聞いて行ってみた。 ツボヤで使って居る化粧土は、

傾向を示す作品も併せて展観しました。そ など、京都におけるシュールレアリスムの 民話「浦島太郎」をシュー 洋画では、 を支えた作家たちが陳列されています。 すが、それらを含めて、 た太田喜三郎の滞欧作に焦点をあてていま れとは別に、京都洋画の指導的役割を果し クな表現に作品化した集団制作「浦島物語」 「バビロンの幻想」「落日」の紹介に伴っ 小牧源太郎らの作品、 昭和期の京都洋画 ルレアリスティ そして

なことではありますが、

日本画では幸野楳

点全部が陳列されていることになります。

ひとつの主題で統一するのはなかなか困難

でしょう。

所蔵品の質の充実をうかがわせる 個々の作品にみる完成度、味

所蔵品の四

に関連して所蔵品を展観し、

品が展観されています。それら新収の作品

計十四点の新収作

紹介する 企画を 立てる ことに なっていま

品を陳列する余裕はありませんでした。

それら現代の京都日本画に連なる中間の作 れています。一方昭和期の新収作品が多く、

室も所蔵品を中心に京都におけるそれぞれ

そうした意味では、洋画や、工芸、書の

の一端を紹介しています。脈絡はありませ

しく所蔵された作品を 毎年、年度初めの平

今回の「新収作品と所蔵品」展も、総

京都市美術館では、

新収作品と所蔵品

図のかっちりした細やかな表現の「帝釈試

質の高い所蔵品が陳列さ

秀れた後継者を生んだ楳嶺の新収作品、

る形となりました。菊池芳文、竹内栖鳳ら 嶺を筆頭とする京都日本画の一脈を展観す

平

列

て古い地名までなくしてしまわないかと れて居るのも面白い。 ヤマトの役人が、

心配して居る。

新たに所蔵された今井憲一の 海洋博の為にと称し 化粧土はセリサ 鉱物であっ イトと謂われる オナゴのイ

> たかったのは、 高めている。

雨の情趣を描くこと

だが栖鳳自身が強調し

あった。 極くありふれたものであったろう。 生粋 の 京都人 である 彼にしてみれ というような描き方はしていない。 トをつけ、 加えるととによって、 伝統的な四条派の技法に、 極鳳は京の風物を描くとき、 他国者が感動する光景も日常の 如何にもそれが京都的である むしろ筆法、 新鮮なものにすることで 技法の方で、 絵にアクセン 破墨法を

品されたものであるが、展覧中、 それだけになんの気取りもてらいも いわゆる旧派に属する絵描きであっ 覧者によって墨を塗られた。犯人は 本品は明治四四年第五回文展に出 淡々と描いている。

表紙作品解説

竹内栖鳳

に建ち並ぶ小屋を取材したものだと

梅雨頃の、

しとしとし

川端の柳も炭小屋も濡れ

雪舟に倣ったと思われ

雨の風情を一層

本図は木屋町五条辺りの高瀬川畔

#### 市 厾 美 衕 講 座 カゝ 5

明治・大正の

竹

日本画壇

が、私は何の感銘も受けませんでした。そ に粉本や祖父の描いたものなどが残ってお 祖父も田舎絵描きだったものですから、 私はまだ田舎に居る頃から絵が好きで、 そういうものを見ておりました 小 野

家

ない私に、おまえも出品せいと言われまし れる頃でした。栖鳳先生も、入塾して間も た。ちょうど幸野楳嶺の追悼展覧会が開か 都に参りまして竹内栖鳳の門に入りまし 一双の枯柳の図を「蕭条」と題されまして 明治三六年の冬にかかる頃でしたが、京 弱りました。この時栖鳳先生は、六曲

興味が深かったのを記憶しております。 れよりも物理の数科書にあるさし絵の方が

うように、 るような、 £, れたのは、今にして大きな感謝です。 春草先生から、 自分とが一丸になって表現するような作品 です。当時、 絵とは面白いものだなと思いました。私 がこんなにも清らかに美しいのだと敬えら はなかった。私が栖鳳先生から自然観を、 全く静寂な林の中に自分が凝っと坐ってい して絵の前に立ちましたが、 見てといと言われました。私は学費を工面 師の栖鳳先生がいい絵だから、是非行って **春草が「落葉」という作品を出品されて、** ない、自分が精神に感じたものをい は、それからはいい絵だと言って見せられ きというようなものに深く感動しまして、 出品されました。 はじめて自然というものと絵の結びつ それから、第三回の文展の折に、菱田 自分が肌に感じなければ興味を魅か 非常に清らかな感じを受けたの 成長していったように思いま このような自然を見て自然と 自然と人間のつながり合い との作品を見ましたと との時私は、 いと思

ておりまして、 して、 美術院という研究会を塾生とやっておりま その頃東京では、橋本雅邦先生が、日本 「日本美術」という小さい本を出し 私も読んでおりましたが、

> 精神の豊かさというものを求めておられ 先生は、ひとつの柔軟な人間性の心持ち、 絵の中には、心持ちがなければいけない、 その中で、雅邦先生は、心持ちということ 主として言っていらっしゃる。 みなそとにおられた方なんです。 横山大観先生とか菱田春草先生とか つまり

<sub>和市民美術講座</sub>

品を通じて知りあったわけです。 たちと、私は学校を出てから、お互いの作 れが作品に深くにじみ出ています。この人 いうか、何か思想を持っておりまして、そ が、この人は非常な秀才で、複雑な思念と 達に村上華岳というのがおったのです 他を省りみなかった人です。もう一人の友 の榊原紫峰は、中国の院体画、 自分の血肉にする人でしたが、同じ友だち 頃から視野を広く求め、色々なところから の強い人で勉強家でした。 おりました。麦僊という人は、非常に意志 番親しかった友人に、土田麦僊という人が るような間柄になりました。麦僊は、若い ら私も刺激をうけまして、お互いに勉強す 他方、京都で私が学んでおります頃、 そういったものの影響を一筋に受けて 麦僊君が来てか 宋元の風

**—** 2

ました。 て官展が受けつけなくなる。そこで、 したが、私たちの作品が変っていくに従っ て変っていくに従って落選するようになり りますし、私も絵がだんだん自己流になっ わけですが、入江波光は落選ばかりしてお とういう連中が文展に出品を続けていく **麦僊は割に毎年当選はしておりま** 

> 私だけになってしまいましたが、 ら感じておったように、 の意味というのは、やはり、子供のときか て 先生などのところにも挨拶に行ったわけで 先生に言われて、川合玉堂先生や横山大観 歓んだものでした。 展覧会は予期に 反し 待っておったという返事で、私たちは大層 りましたら、おまえたちが立ちあがるのを に行ったのですが、しかられると思ってお たわけです。この時は、竹内栖鳳先生に話 ちは、国画創作協会というのを開くに至っ との仲間たちは、もうみんな亡くなって 大成功でした。それから私たちは栖鳳 とれにも色んな思い出があります。 人間的なものでな との国展

い作品、 入間を感じない作品というのは、

の点で私は、麦僊や華岳の歩みは実に立派私だちにとって無縁だというひどです。そ だと思います。

験 的 芸 史 八 木 一 夫

な出合いというものがなかった。たしかに に囲まれて育ったから、 屋の息子として生れ、生れたときから粘土 寛次郎、富本憲吉などといった名工は、 ひとはよくあなたと土との出合いはと かかわりはとか聞くけれど、私は焼物 乾山、近くて北大路魯山人、 土や焼物との劇的 河井

な泣き方(感激)ができたのだと思う。あに対する新鮮な出合い、焼物に対する素直 物屋の息子ではない。それがかえって焼物 る日突然具体的な焼物との出合いがあっ まに山道などで土を実感することもある。 一様に喜々とするし、今日の生活の中でた きをもつのだが、子供に粘土をもたせると っと日常のものであったから、しらけた響 ありげにいう人がある。私にとって土はず 入りするうちに名工となっていった人たち 焼物は土と人とのかかわりで……と意味 自らも手を染めようと思い、やがて深

か することがあって、陶器の食器で飯を食っのだと思っていた。そのうちたまたま外食 渡されるのは食器だが、これがアルミのお 肉体と土との関係を殊更感じるのである。 を感じた。それは私と土とが近しいから た。このとき土の茶わんに何か近しいもの 椀である。はじめ軽くてわれない便利なも 二十三のとき兵営に入った。そこで最初 我々の食生活の習慣上焼物から少しく

によって成るものであるか が、ともに土が人の手(指) 感慨で接した覚えがある。 が、このとき焼物と新たな 離れていたのが淋しかった ら、そこに日常の生身の諳 ロクロを使うものとがある 焼物の成形は手ひねりと そとはよく分らない

> 見出すととろにある。 楽しみの一つは作家のそういう日常感情を 電気窯に変りつつある。このエンキ焼といる。いま公害問題や何やらで登窯がべっで う奴はそっけのないものだが、焼物を見る

ない 過程で無理に窯から引出して、 程でも表情が移る。繊部の黒色などはその けれども冷却のことを看過することはでき 上げることを焼成といい、焼く成ると書く などもそういう例である。だから焼物を仕 表情を決めたりする。曜変天目、油滴天目 けて定着するが、実はこれが冷えていく過 またくすりは一定の温度に達したとき溶 水に冷して

見出す喜こびが焼物を見る楽しみのもう一 といった一連の流れ、生成のリズムがあっ 不可知な天のほほえみを作家は待受けるわ つである。 て、この自然のリズムともいうべきものを けである。 しきれない結果にかけるという面がある。 わば神の仕組というか神だのみ、 焼物はこうして絵や彫刻とは違って予測 成形、 つまり

事をしている同業以外の人たちと交った。で感じたいと思って、前衛的な考え方や仕 を覚えない。そとで生きている証しを自分 けれどもいまととに生きているという実感 動が感じられる中国や朝鮮のまねをした。 をつくりたいと思って、生々した人間の鼓 で感じたいと思って、 るものをつくっている。初め人間嗅いもの 私は不良少年のような前衛陶器といわれ できるだけ今日的なにおいのする

> である。 何か今日的なものを得るだろうと思ったの を再編成して語彙にすることができたら、 づくりの一つの節だと思い、いつかこれら る。オブジェはいわばこのアルフアベッ オルメを試み、オブジェ焼をつくった。 ものをガンニングしながら感じとり。デブ 美しさにはいろんなアルファベットがあ

であって、 思ってヤマしさの少ないオブジェ焼によっ どんなに変形してみても、 考えるということはない。 ると思うに至ったのである。 ば、てれはまたこれで完結した語彙でもあ てアルファベットづくりに努めたが、 て類推されるかぎりヤマしさが残る。 だといってみても、客観的に器の変形とし ものが考えられてくるので、仕事を離れて しかし作家、職人はつくっているさ中で いくら主観的な心のうたいあげ それはやはり壺 そしてまた壺は

る。焼物が本来の意味にたち返って、にマッチしたクラフトということがい てたということくらいに考えている。現代 とについて、それは焼物屋の息子が器をす を通して人間性の復活が果されること、 は前衛ではないと思うのだ。 いった民衆に加担していないという点で実上げていった。私の仕事はこのせり上って 生活はいろんな意味で民衆を高みへとせり れが前衛というととかも知れない 最近私は自分の仕事を前衛といわれると いま現代生活 そ

/要旨を当館学芸課でまとめたものです。 から、七月二十日、二十七日両日の講演、本稿は先に催された第一回市民美術講座



八木一夫作 作品-51

--- 3 --

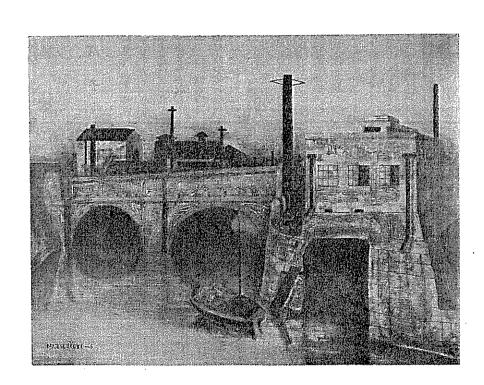
京都市美術館

京都市左京区岡崎公園

昭和49年11月25日発行

No. 94

昭和の洋画 一戦前の動向ー



(昭和の洋画展出陳)

と存じますが。

前は裸婦を描いていたのですが、裸婦を

なるととは難しかった

の場合は家庭と絵を描くことは両立し 弟子さんのところへ書生として入ったり 絵を描くのが好きでしたから、 そうです。 やっと認めてもらったんです。 くれたんですが、 私は小学校に入った時から 栖鳳先生のお 周囲の人

私が色をなんべんやってみても上手くい

かなくて悩んでいた時、先生から白をい

山先生というお方は、

指導が上手でした

通りやってみたら、正にピタッとしたん れよ、そして朱を加えよといわれ、その

先生から自分のもっているものを

もらったように思います。

目を開いたような感じになりました。西

先生の塾に入ったんですり。

へばかりだったので、

大いに刺激をうけ

そとは若い 西山(翠嶂)

したこともあったんですが、

の差がありすぎてまあ丁

裸婦をデッサンからやりなおし、 間の最も美しいのは裸婦だと思いまして せん。好きな絵に精進できたのですから。 よっぽどの覚悟がないと出来ませんので 先生は人物画を主に描いてらしゃるよ 私は女を描いてみたかったんです。人 んね、だから私は弟子はとりません。 私は自分の生き方に悔いがありま

塾ということになってしまい、先生には 公募展という形になって、結局、破門、

申し訳ないことをした

からも初めは賛成して頂いたのですが、

それから創造美術結成に西山塾から五人

私も加わったのですが、先生

が解っていないと思います。若い人は写 としてますねえ。……本当に新しい につける必要がありますね。 現象をみて もうかちゃくちゃだと思います。混沌最近の新しい美術はどうお思いですか 現実をじっくりみるという態度を身 . もの

描いてます。特定のモデルの顔、 さよりも内面の美しさ、 になったんです すことでまあ、 なんていうんですか、

先生の昔の塾の思い出話などをお聞か

杖会に入ってた

他の先生と

平面を撤底的に

追求

7

Ø

£

日本画家

広

氏

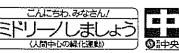
でなく私の心の中で創りあげた理想のイ ージを持った舞妓を描いてるんです。 舞妓とか大原女を題材にするよう けなげな美しい気持の女として 女性の表面的な美し して普段接している 例えば舞妓の場 かたち

おさえ、

豊かさをつくるもの

自然と芸術と

それから貯えと-



です。それだけに時間がたらなくても さや思い切った形を追求してゆきたい っていきたいです。そしてピカソ、

クや浮世絵にみられるような線の美

の

ます。つまりデッサンによって形を創

平面を推しすすめてい

きたいと思って

今後のお仕事の方向をお聞かせ下さい

**麦紙作品解説** 

橋本明治作 浄心

題名にふさわしい画面を構成してい ものとの対照の妙、旧いものと新し 比させた作品である。 ている。単なる風俗画でない、 いものが調和して独特の作品となっ 作者はあえてグレイ系統の無彩色で 当時(昭和十二年)の女性風俗を対 しようと試みた。旧いものと新しい 第一回新文展出品。 宗教的な静寂な世界を表現 法界寺の阿弥陀堂の本尊と 金色の仏像を

# 青年画家の

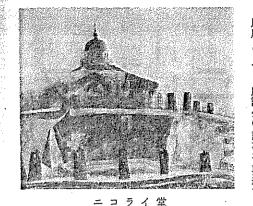
## 抗議

馬

子

三少佐、黒田干吉郎中尉と美術評論家の荒 国家と美術」というテーマのもとに行われ 画家」と題される一文が掲載されている。 個人としての抗議文であった。 城季夫の四名による座談会記事に対する一 た陸軍省情報部員・秋山邦雄少佐、鈴木庫 との一文は同年の「みづゑ」 一月号に国防 に松本俊(後改めて竣)介の「生きている 昭和十六年四月発行の美術雑誌「みづゑ」

順序として、 座談会の 記事を 要約する



いと思う。 彫刻は一つもなかった。」とか秋山少佐「併 理想に輝いて天を睨んで居るような絵画、 国的な絵が非常に多い。絶望的な絵が非常 境なしと言って居る人が、自分の国を離れ 然であるが)、例えば鈴木少佐「…芸術に国 的で(当時の軍人の精神構造からいえは当 術家そのものに対する認識はきわめて偏執 配給を中止し、如何なる弾圧をも容赦しな 家たちに「国策にそった絵を描け、 と、国防国家を建設するために、世の美術 と思ふ。二科展の絵しか見て居ないが、 なっている。それは単に二科ばかりではな い」というような内容であった。彼等の美 フランスに行ってフランスの植民地に もし 力のない絵が多い。苟も民族的な そういう所が思想が狂っている それに抵抗すれば絵の具の のみを

沢だと思う。」「金儲主義の者が多かった 居るこの時代に、美術というものは此は贅 れる。そして終には鈴木「兎に角素人で分 るからである。」等々の発言が処々にみら し今の世の中に僕は贅沢は敵だと言われて 芸術家が資本主義の上に足を立ててい

> 主義や個人主義以外にないかということを 主義は真向から悪だときめつけられてしま 個性を主張し、 最初であった。 彫刻は止めて貰うのだが。」この座談会は かないのか。それ以外にないのなら絵画 りませぬが、創造の世界というものは自由 解していると述べ、ヨーロッパ的な自由主 出される自由主義、個人主義を、彼らは、誤 た。彼は先づ、座談にしばしば引きあいに 正しいのではないと信じ」て、 ったなかで俊介は「今、沈黙することは腎 るかに遠のいてしまった。自由王義、個人 段がなかったのであろう。 家たちは一様に沈黙する以外にとるべき手 されども今ただ沈黙することが凡てに もっと外に創造の世界があるの この座談記事を読んだ美術 軍部が公然と嘴をはさんだ 人間性を讃美した時代はは 自由を謳歌し、 築を執っ

> > 美術家たちは目先の

れ故にとそ、 それらは美術史的にみて意義のあるも

先

似た意向が伺われる。例えば、すでに軍部 からすでに批判の目を向けられている、 が、婉曲的な表現の行間に俊介の叫びにも 者自身の主観的な推定にすぎないのである そこに書ける筈の社会状勢でもないし、筆 ったのであろう。もちろん、そんなことは 在すべきであるとの言葉を付け加えたか べている。文章はそとで切れているが、そ その言言には「在り得えなかった」とも述 「類型的抽象論」としてしかなかったし、 ールリアリズムや 抽象的な 作品を 弁護 個人主義などというものは我が国には 真の自由主義、 個人主義が存

**—** 2

が、 軍部から圧力があったとは聞かない。 ればならない」と説く。 目は「人間として本源的な問題に向けなけ 国策以上に「国家百年の計」をもって、 とも受けとれる。 いる。この言葉は表現する自由を主張した 際あったかもしれないが)一読してみて、 作に励んでいるのであるから、自分たちの していることを挙げ、 いる人々と同じ位の情熱をもって日夜制作 しないように遠まわしに主張している。 に生涯をかけることは有用」だとも説いて この一文によって俊介が逮捕されたり 同時に彼は「画家の立場」を軍部を刺激 絵かきも人間であること(当然である 彼らだって国家国策に生命を捧げて かつ「少数の作家がこのような仕事

すぎる時代にあって、 好む軍部(と想像される)には真意まで読 だ芸術家の良心が、 いる。真に自由を願い、 が放った一矢は、自由という言葉が使われ 的な文章の中にひしひしと我々までに伝わ を強要した当時の暗い世相が、 みとれなかったのかもしれない。非人間性 いようにみられるし、凡て直接法的表現を 表面的にはさ程、軍部を刺激する個所もな 多くの作家の代弁者として、 軍部の抑圧にも屈せず 貴重な光彩を放って 個性の尊重を叫ん 俊介の婉曲 彼

(二十七日まで 当館で開催 / 「昭和の洋画」展は十一月三日~

に存在したことに感動させられる。

カソの 絵などは この 街でよく 見かけまし 画はあんなになってなかったのじゃないか もしモローがいなければフランスの近代絵 マチ とがあります。 ろってなかったんです。須田さんがスペイ あんがい評判がよかったんです。私のい 派な着物をきて、チョンマゲとそ結ってな まだ日本人はみんな浮世絵にあるような立 パというやつをきて走っている。そのころ たちが恥しい思いをしたのは、男は肌着と 画館で上映された。ところがこれをみて私 へ関東大震災があって、このニュースが映 ように思われて歓待されたわけです。そと たのです。われわれまで浮世絵師の子孫の て、日本人は美術の分る人間だと思ってい だったので日本人といえば浮世絵を通じ からないということがあった。そんな時分 ンに行ったのもパリで十分立派な絵がみつ で、絵は疎開していてルーブルに十分出そ たときは第一次大戦がすんで五年目くらい かれてしまって裸になってるんだと思った ステテコで走り回っている。女はアッパッ しょうか。非常な同情を引いたんです。 いが紋付でも着てるんだと思っていたんで 話はとびますが、当時日本人というのは

端

市民美術講座から一

#### パリ画壇と日本の洋画家

弥之助

るところでした。 も似てすっとした、 いたよりも地味な古い町で、 船旅でした。パリという町は私が想像して 活をしましたが、 私は大正十一年から十四年までパリで生 当時パリまでは一月半の さわやかな気持を感じ それは京都に

月、土田麦僊、 がった記憶があります。 往く船と竹喬さんの帰り船が途中で行きち がおりました。たしか小野竹喬さんは私の そのころパリには京都の人が私の数えた 洋画の黒田重太郎、霜取之彦、里見勝 橋本節哉、 人おり、その半数が絵描きでし 入江波光、 間部時雄、 吹田草牧さんら 日本画で菊池契

私はパリに着いてすぐ黒田重太郎さんを ちょうどそとヘスペインから出てき

> 校で一つのクラスをもっていたのです。 た。彼はアカデミー・コラロツシという学 ていた須田国太郎さんにも久しぶりにあっ 絵を学ぶのがよかろうとすずめてくれまし ーニラロツシのシャルル・ゲランについて いろいろ話すうちに、二人がアカデミ

りました。そのうちの一人が霜取さんで、 はなかなか盛んで、日本人が五人ばかりお てとでとの名がついてたんです。この数室 なくて物差しのような目をしているという で、その意味かと思っていたら、そうでは 前がついていました。大家のことをグラン ゲランという人は一名メー 山敬三なんかも一緒にいました。 トル、先生のことをメートルというの トルという名

ました。 が ま一つかんばしくないといわれていました また安井曽太郎さんはそのころ先生がい はモリス・ドニの教室に通っていました。 哉とか私と同じ下宿にいた高畠達四郎など いて新しい絵画をやっていまして、橋本節 黒田さんはアカデミー・モデルンでアン アカデミー・ジュリアンで勉強してい ロジャー・ビシェー ルにつ

というくらいの人でした。

という画商の並ぶ街を絵を見てすごしまし からは大低博物館を見物したり、 もっているんだと誇りにしていました。 もっているんだと誇りにしていました。ピあるじなどは、公募展でみる以上のものを た。ここは一流の画商がたくさんあって、 私たちは朝のあいだ研究所へ通い、午後 ボエシー

本へ送ったという親目的なことがあったん

の旗をたてその入場料にまだ何かそえて日

分が大きな個展を開いて、

会場には日の丸

人がいて、

とれが非常な日本びいきで、

自

たり、また絵描仲間でアマンジャンという

一日開かれまして、その収入を日本へ送っ

……そのうちに日本救済のためにオペラが

んでしょうね。日本は可哀そうだといって

永くやったり、 ですが、エコール・デ・ボザールの校長を があります。彼は立派な人格者であったの どモローの門下生といっていいくらいで、 う立体派はともかく、その他の人はほとん ンク、ドランも世話になったことがあると ローの 薫陶を 受けた 人たちでした。 らのいたころのパリ画壇は半数以上このモ との名人といっていいような人でした。私 多い人でして、それぞれの才能を引出すこ いってました。ピカソとかブラックとかい ュフイも見てもらったことがあり、ヴラマ ス、マルケ、ボナール、ビュイヤ またギュスタブ・モロー美術館というの それ以外にお弟子の非常に

彩がきていたことを思うと、 です。その下にずっと棚があって引出しが 壁にまるで壁画のように一面飾ってあるん で、その絵が全部集められて、 たのですが、 す。日本なんかではほとんど知られずにい っているんです。二階も三階もそうなんで と、デッサンがどの引出しにもいっぱい入 ついているんですが、これを開けてみる 郎さんが買って帰ったものだと感心したこ 彼はほとんど生涯絵を売らなかったん 大原美術館にすでに小さい水 ァ トリエの

**— 3 —** 

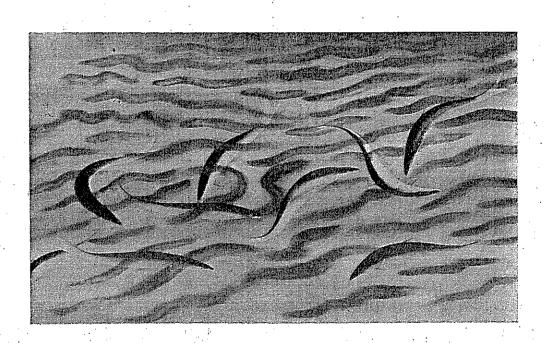
京都市美術館

京都市左京区岡崎公園

昭和50年2月25日発行

No. 95

福田平八郎遺作展特集



昭和10年

変なんです。それでちょっとあきますと、 れも立ったポーズばかり描かされるんで大 て先生のくる日は休んでいる奴もいるんで そういうなかでいつもヌー 私はずっと ゲランの 教室 にいたのです 先生は一週に二度やってきて、 ルという学校があ ドばかり、そ とっぴ たんですから向うの人は驚いたらしい。 つくってあって、ネクタイなしでやってき いて、それ以外はちゃ

川端弥之助「エッフェル塔」

して歩くということは、ちょ

園風景を盛んに描いていたんです。ヴラマ ッフェル塔」という絵は佐伯のいた下宿の ところにいたんです。 ンクにお前は人の描いているようなものを そして街の中を描きだしたんです。 お前の絵を描けといわれ サロンに出した「エ

ばさばさの男がきて床にあぐらをかきよる

ないというんで んです。 伯祐三やという う男や…聞いて としめるのが苦 クタイをきちっ みたらそれが佐 しいてしょうが

気持とか、全ての細かいものがよく働いて はわれわれでもできるんじゃないかなあ、 いるモナ・リザというものはそれだけの値 んです。ただそとから発散してくる本当の という気がしたんです。事実できるはずな う習慣にとらわれていたんですね。モナ へだったらもっと器用にやるようなとこ うものはそんなに器用なものじゃない 私はルーブルでモナ・リザを何度も クというか技法でも り。私なんかもそう いんです。 とんなこと کے

画でももちろんですが、日本画の場合でも 技法が先に立つという

をみつけたな、 彼はあれを描くとき日本のメンソウ筆を送 はそこにある広告の描きかたが面白かっ わしもとういうとこを描く

技法が先に立つと

んです。みんな

用だからとかいいますけれども、 日本人は絵を描くといえば絵だけ描いて あの子は絵が上手だとか、 あれは器 向うの絵 っぱりテクニックは何かを生そうというた 日本人のような器用さじゃないですね。 スは非常に達者だと聞いておったんで、 ことは決して芸術じゃないです。 技術と芸 人だという話だったので見たけれども、

辻晋堂氏の講演「ピリー」 信を当館学芸課でまとめたものです。なお旨を当館学芸課でまとめたものです。 講演要 めの 裏に いつもあるべき ものだと 思いま

再録できなかったことを辻

豊かさをつくるもの 自然と芸術と それから貯えと

#### 原 田 坙 作



始一貫して求めたはっきりした輪郭線、冨心の作品が多かったが、これらは作者が終 ではない。昭和二四、五年頃には、《白木が明るく明快であると言わんとしているの に色彩についてとう言いたいが、色彩だけ 図的に現われ始めた、とみられうる。そし にしようとした意志は、昭和三年の▲菊▶ の日本画の伝統を越えて一層明るく鮮やか が、前面に現われ出た例である。色彩を従来 てそれは、昭和9年の≪花菖蒲≫(第15回帝 ★柿若葉 い換えればはっきりした 形態 把握 の追求 (第9回帝展出品)の前後から、画面に意 それはあくまでも明快であろうとしてい 鮮明であろうとしている。これは第一 (第15回清光会展出品)など、線描中 (第2回清流会展出品)や▲牡丹猫≫ (第3回清流会展出品)、≪花菖 などを経

> 福田平八郎のあの華やかでしかも引締った 鮮やかさにまで高められ、 て 制作していった、とみられるのである。 日展出品)を残しながら、最後の日展作と に近いものとして≪水≫ (三三年第1回新 齊財✓ 両様が追求され、 見られるような簡潔にして静かな世界と、 後は、《新雪》(二三年第4回日展出品) に 直線的に進められたわけではない。特に戦 独自のイメ れわれがいだく所謂コロリスト(色彩画家) 文展出品)において、目映いように澄んだ そしてこれ以降はこの作の延長と考えられ なった≪花の習作》(三六年)に至った。 れるような豊潤にして華麗な世界との、 しかし、その追求は、後にも先にも必ず る、両極の中間といえるような作品を多く ≪紅葉≫ (二六年第7回日展出品) に見ら ひるがえってその世界はまた、構成的な やがて同一三年の《青柿》 (二八年第9回日展出品)を、後者 ージの展開が始まるのである。 前者に 近い ものとして この後、 (第2回新 今日わ ĺ

三々五々と泳ぐ鯉の動きと深浅と交叉を 大正一〇年の《鯉》(第3回帝展出品) は、 文展落選) 配慮がゆきとどいていてリズミカルでもあ 中心に鯉の旋律を奏でようとしているとさ る。それは早く▲緬羊≫ の羊の配置に認められるが

展出品)、 描写された対象の、存在感なり、実在感、 面をリズミカルにしようとしていることで 界における存在との連想によってリズムを て興味あることは、戦後は、描写対象の外 うに徴風を連想させるにとどまる。 秋₩ 葉然り。多くのものは出来る限り省略され などが執拗に追求される。鴛鴦然り。松の りむっくりとした胴、きれいに並んだ鱗、 うために徹底した写実をおこない、しかも 感じさせるというよりは、 ぐらいで、 同一〇年の《鮎》 の《南蛮黍》 てゆく。即ち、リズムのもたらす軽みと写 てとらえようとする。<br />
鯉の鯉たる所以のも その物の特徴となる点を出来るだけ要約し なりがちである。福田平八郎はこの点を補 ひいては重みといえるようなものは稀薄に ある。一般に画面にリズム感が生すると、 のは何か。孤をえがく頭、丸い目、ずんぐ えいえよう。もっともそのリズムは物静か 形の変化と抑揚そのものによって、 (同一八年第8回京都市展出品)のよ 動きを押えようとしているわけで ≪花菖蒲≫(同九年、既出) ≪彩 多くは<連>

(大正7年第12回

実に根ざした重み、この両者を調和させん をもっていたのであろう。私は以前、福田 て軽い展開を表わそうとした▲閑庭待春▶ ものとして独自の世界を構築したのであ (大正14年第6回帝展出品)のような作品 だから初期には、 量感を特色とする<牡丹> 最も激しい場合でも昭和四年 (第10回帝展出品) もしくは (第十回京都市展出品) 樹葉の拡がりによっ (同七年第13回帝 色の変化と抑 (大正13年 そうし 画

余白は神

神

**- 2 -**

秘ではなかったにせよ、写実による人事を 部分と見ていたのも、この間の相違を物語 また余白を、雰囲気とか、拡がりとか、 事と構成による仕事の両方が必要で、正し 世界に赴こうとしたのに対し、平八郎の場 尽して天命を待つ程の意味があったと考え るものである。栖鳳にとっては、 秘とかいう風にもってゆかず\*、白い色の する』、と平八郎は、はっきり語っている。 観の方に流れすぎることになる。写生の仕 けでは余りにも自然につきすぎることにな が置かれたとすることができる。『写生だ 葉は作者は用いてはいないが)という観念 合は、初めから構成・抑揚(リズムという言 画趣・機智・しゃれという感覚に導かれな られるのである。 い道はちょうどとの中間にあるような気が るし、構成だけで仕事をすると余りにも主 があり、それを写実と調和させるのに重点 極鳳の世界に似ているが、極鳳の場合は、 の点、福田平八郎は、云うなれば師の竹内 第5回帝展出品)のような作品がある。 あくまで写実を徹底させて写意の

≦≫や▲雨≫などを見ていると、これと言 界でもある。との言葉はかつて昭和三〇年 にもかかわらず、しいっとひたすらに見つ が特に使った言葉であるが、 九月のみづゑ六〇二号誌上で、 って具体的に何かを象徴するわけではない 象徴の世界4 と言うにふさわしいような世 話をもとに戻そう。その世界はまた更 \*西洋流の象徴主義とは異った東洋 確かに∧新 **今泉寫男氏** 竹

書いたことがあったが、それもこれと同じ 先生の世界は新幹線の列車を連想させると 忘れなかったのである。 ゴーガンは常に生きることへの問いかけを とは、ゴーガンに対してと同じであろう。

直接連続した方が良い作品が生まれるの るが、はたしてこれからの絵画は、 のは、今後の絵画と福田芸術との関連であ いのか、改めてつくづくと考えさせら か、それとも不連続の方向をとった方が良 なお最後に、とれにつけても考えられる

|月二||〇日まで当館で開催されます。 | |福田平八郎遺作展は三月二||日より四|

めている作者の目が感じられて、 噪を忘れさせようとし、 自己完結的に自己 が深まる。だから見る者をしてこの世の喧 のは遮断され、 執着心は、執着が進めば進むほど周囲のも れない)のようなものを、 よって展開される心置きない自由な世界、 みれば人間の身近な事物への愛情、それに ばジグザグに進まれることになったのは、 て二度三度といわず、度々扱われ、いわ るようになり、しかも同じ題材が歳を隔て に、完成されるにつれて花鳥静物に限られ 福田さんの画紫がどく初期には人物画もパ て必要な世界となる。小さくて消極的かも の危機をはらんでいるだけに、現代にとっ れはこの現代があまりにも混沌とし、多く の世界に引きづりこんでいこうとする。そ いるといってみたい気になる。この作者の しれないが、いやが上にも目を楽しませる。 (とれは逆に執着心といってもよいかもし ノラミックな風景画もないではなかったの ナルシシズムが始まり自由 総じて象徴して 言って

義ということにしぼって考察を進めてき 以上私は明快で、構成、東洋的な象徴主

が特に想起されてくる。

の鰭と甘鯛》(第4回百二会展出品)

京菓子を描いた作品や昭和二七年のへ給ソ

(第5回春光会展出品)、同二九年の▲鱶

ることは、

云う迄もなかろう。一个ととに

かというと乾いた現代詩に通ずるものであ だペーソスをもったものではなく、どちら とれと無関係ではない。ただし福田さんの

同じ執着心と言っても、うらぶれ

われる。 代もしくは現代ということではないかと思 まり、三面を貫くものであるが、それは近 それでは、立場をかえて一つのもの、 た。 ものの内容は何というべきであろうか。 これらは一つのものの三面であろう。 その っ

> の調和は、やはり現代のものであろう。 発想によるものであり、その機能性と軽み

出品) う。 表われている。こうしてみると福田平八郎 方が適切のようである)に、より近いものの世界というより工芸意匠の世界といった るといってもよいのではなかろうか。私はびは、形をかえて巷のそとととに生きてい 通じていはしないだろうか、と思われてく の模様や包装紙の意匠などに、はっきりと のほかリズムを好むといってもよいであろ ることの一端であろう。また近代は、こと 田先生の世界は工芸意匠の世界(デザイン ておられた福田先生のお姿を思い出す。 先生の《彩類・瑞兆節皿》をつくづく眺め 五〇年展が当館で開催された時、あの楠部 はど生前、昭和四三年四月、楠部弥弌作陶 は今こう言いたいのである。これにつけて った世界であることに気付かせられる、私 福田さんの世界が極めて今日的な内容をも の世界に占めるデザインの比重を思うと、 は別々のものであろう。けれども今日の美 じだと言おうとしているのではない。両者 今、福田さんの世界がデザインの世界と同 る。《日盛》(昭和四一年第7回好日会展 の美の世界は、このような意匠の世界に 明快であるということは、近代が要求す 抑揚と軽みを好む。それは我々の衣服 のアップしてとらえられた木蓮の綻 福

成とか色彩と形体の調和とかいう点でセザ 現である」と云い、「私は生活感情とその点に触れて、・マチスは「絵画は生活の表 は、彼が人物を中心に扱ったのに対し、こち はらんでいるようである。三輪鄰氏はとの の相違が感ぜられるけれど、面白い比較を らは花鳥静物の世界であって、 チスなどが想起されてくるが、特にマチス ンヌが、色彩画家という点でボナー を文字通りの装飾的に解してはならないこ のも同じ理由であろう。勿論今との装飾的 今村紫紅が好きだった(<大正の頃>より) をひかれるんです。と答え、理由を訊ねら か、という問に、一私はゴ 国の画家のなかでは誰が特にお好きです もっとも作者自身は、矢内原伊作氏の・外 の提出であったであろう。と述べている。 マチスの云うところの平八郎の新しい記号 切っている。平八郎の「漣」はまさしく 所の記号を創造することが出来る」と云い と観賞者とのあいだに、等しい価値を持つ 真正名のサンチマンを持っておれば、画家 対して「要は記号をつくることである。正 ない」と語り、またその独自の表現形式に 表現手段との間に差別をつけることは出来 ョーロッパの近代作家と比較すると、構 、装飾的だから、と答えたという。 –ガンに一番心 そとに両洋 Jν ₹



≪青 柿≫

昭和13年

京都市美術館

えば小林滑親やその他の諸家による文明開化の社会を描写

した錦絵などが多くみられる。

明治初期の洋画は「事物の

くの風俗画を生みだした。原田直次郎の「騎竜観音」のよう

後年余力を生じてからはこれまた多

その典型的な例であり、

京都市左京区岡崎公園

れるととはあっても、ちるタイプンジョー・「鬼画、動物画、宗教画、歴史画、人物画、美人画などと呼ば鳥画、動物画、宗教画、歴史画、人物画、美人画などと呼ばれるととはあって、 も、それは伝統的な区分を継承して、風景画、山水画、花がないわけでない。なぜなら近代日本画を例にとってみて

歴史的にみれば室町時代末から江戸時代初期にかけて流行

もっとも

たいわゆる近世初期風俗画やそれに続く浮世絵の盛行は

かない。明治期になってからも、例それ以降の時代においても風俗画

昭和50年6月10日発行

No. 96

#### 風俗画について

-美術館平常陳列-

猛



太田聴雨

の作家たちが顔をそろえています。そこで など平常陳列では良く見られる作品も陳列 阪」、上村松篁「池」、宇田荻邨「清水寺」 現と浪漫的な姿勢を見ることができます。 作(現在の創画会)、パンリアルといった現 されています。これらは皆当館の所蔵品で 泉(昭和四七年没)の「流れ」も陳列され 第一室には、先年没した金島桂華や徳岡神 第2室の日本画には、東丘社や新制 池田遙邨の「雨の大

託品の中から、日本画、洋画、工芸、彫塑

今年度第三回の平常陳列は、所蔵品と寄

陳

という枠内で追求していった生活現実の衰

とも現在活躍している作家の昭和期の作品

自然と芸術と それから貯えと

いずれても

須田国太郎の芸術を覗い知ることができま る黒っぽい沈潜した作風など、 や「杉」、「るりみつどり」などの作品に見 に見る生命力に満ちた色感の表現、「脱衣」 表作と目されている「鵜」や「犬」などの 作品はありませんが、「雑草」や「夏の花」 る陳列となっています。とこには、彼の代 小規模ながら須田国太郎の芸術を回顧しう んと西瓜」の作品に至るまでの一八点は、 ょう。スペインでの模写から晩年の「めろ の作品群にもまた見るべきものは多いでし

品ながら元実した出来栄えでしっかりして また横江嘉純の「想い」は、あま

の客」などの作品と対照して観るとかなり

に昭和の初期にそうした作家たちが日本画

系の作品は、同室に陳列されている「関裡

「暮れゆく停留所」などの昭和初期の国展

和な安らぎへと誘うでしょう。「節子」「母」

豊かさをつくるもの

妙に移しとった五雲の作品は、

観る者を平

庭隅で無心にたわむれる兎を当意即

の玉城末一などは、

すでに没した作家たち

すが、「薗裡即興」の西村五雲や「節子」

日本画は現在活躍している作家が中心で

回の総陳列数は、六二点となります。 本敬輔らの洋画を配して陳列しました。 川月華らの工芸など一二点に芝田米三、 正和らの前衛的な彫刻作品と八木一夫、 陳列しています。 第四室は、辻晋堂、 でに評価の高い須田国太郎の作品一八点を 室に日本画二七点を配し、第三室には、す によって構成されています。 第一室と第1

> 間見える作品もあります。<br />
> これらは、戦後 室では、表現の追求が日本画という枠外に の京都日本画の一端を示していると言えま 越えてでもという或る意味での現代性が垣 勿論、そういう意味では、第一室にみる作 はそれぞれの美術思潮を敏感に摂取発現し

今回の平常陳列は、第三室の須田国太郎 蝕」「作品53」や浅見隆三「催花瓶」、 です。第四室には洋画、工芸も同時に陳列 上田弘明「狗」が、今回の彫塑の陳列作品 と人」、堀内正和「片側曲面直角八辺形」、 月華「印度の太陽」などです。 されています。八木一夫の前衛陶芸「金環 すように思います。その他に、辻晋堂「馬 見てみると、その古典的な美が一層光を増 の陳列のように前衛風な作品群に配されて

2月3月の美術館の

主だった展覧会

月26日-3月9日 一九七五京都アン

成安女子短期大学意匠科展

第17回友の会児童美術教室展

第35回美術文化展 福田平八郎遺作展 4月20日

種痘

な描写に終始するものとみられがちな「風俗画」についてる主義主張の時代であったから、社会生活の事象の表面的しかし近代は総体的にいえば個我の発揚と創作上におけ そのような考察が積極的に行われることは少なかったよ、リアリズムの崩壊を指摘したが、美術の世界においては、 村光夫は文学の世界において「風俗小説論」を展開して ととに遠慮がちであったということができよう。 それが現に描かれ、 それらを「風俗画」として認知する 今後も描きつづけられるであろう

あった。それらは今日テレビなどでみるド 展をいやがうえにもはなやかにした要因の一半は風俗画にかなりし帝展」という言葉をいまにのとしているが、との帝 大正から昭和の十年代にかけては帝展の時代で「はなや ラマ大半がそう

勝

の物が同じように自己に成り立つ。その隣り

い彼の基本的な造形法であった。述べているが、これは生涯変わることのによって、強調されている」、とホドラー

これは生涯変わることのなされている」、 とホドラーは

絵画における

「イデ

すべてある理念の表現で

それらを包み込む自然

人間の

との人間

更に肖像画も歴史画も、

も、「疲れ」

ホドラーはパラレリスム 「無限への眼差し」等で 「フレー 深く頭をうな垂れ ルの森」、 全 第二の故郷としたジュネーヴ市の公募展一八九一年38才の時、ベルン生まれの彼がった印象主義絵画とは正面から対立した。したブルジョワ社会の外面だけを撫でていしたブルジョワ社会の外面だけを撫でてい が抱き合って寝る情景は良俗を紊乱するとった作品「夜」の撤去事件は、半裸の男女 強さと弱さであり 「愛」も「死」も、 いう市評議会の意見によるものであった の在り方について考えることを止め、爛熟 の雄大さであった。だから彼は、 ればならない生と死の葛藤であり、 ある。それは、宿命的に人間が背負わなけ そして風景画も、 復権を計った。この「失望」 審査権の不可侵性まで侵して問題とな

いるのである。画題は「失望せる人々」とって次第に深まって行く過程が現わされて希望を失う人間の心理が、中央の人物へ向 中側の二人は肘杖をついて頭部を支え、 腰をおろしている。外側の二人は手を組み、部で五名の人物が小高い丘を背にベンチに る人々』(写真)は、パラレリスムの最初ある。なかでも、一八九二年作の「失望せ 間化することができる。またポーズを反復 差支えないだろう。連続撮影の写真を横になっているが、むろん一人の人間と解して た人物を中央にして、両脇に二人ずつ、 音程を踏み外さないように機能している。 ての画面にリズムと統一感とを付与すると であり、重々しく簡潔な線でもって現わさ「ととに描かれている人々の身振りは単純 はパラレリ そのリズムが 絵画とし 時間を空 生への そ

あるのが、セガンティーニとホドラーのけているのではないかと錯覚するととの が消え去るまでには、煙草の一服や二服の十字架像や聖者の殉教図の暗鬱な余韻 どうなるだろうか、と何時も思う。 な気分からの解放感を味わわしてくれるるさと色調の鮮かさが、それまでの厳粛 ェールを被せないこのアルプスの澄んだ形体の分解を許さなかったのは、物にヴ 時期に生きながら、この二人が最後まで 作品である。とのアルプス出身の二人の が必要であろう。明るい印象派以降の部 からである。もしての巡路を逆にしたら 以降の部屋に這入る時である。画面の明 験をするのが、十九世紀後半の印象主義 いると、作品の生まれた地方や時代の性 いるのが普通である。との順序に従っいに分類され、次いで時代順に並べられどこでも美術館の作品隙列は国や地方 かつ雄大である。印象主義万能の国面は、スイスの自然そのままに透 ロッパ各地の美術館を巡回して 時折まるで直射日光でも受 一種の驚きに似た経 なかなか興 中世 であり、 することで、その時間を強調し、 並べたように描くことによって、 れぞれに左右相称のポーズをとる。 の成果のひとつである。 な画面の響きを、 れている。 とができる。長いベンチは、 「エモーション」、 この絵のイデー

屋の中でも、

とした。輪郭線は、 ムによる自然と人間の存在の表現を目的 との輪郭線の追求を基本とし、 **、空ではなかっただろうか。** ールを被せないとのアルプスの澄んだ (1853-1918)輪郭線によって檔成され ある対象物が自己の の絵画は、 線のリズ

(失望せる人々, 1892)

る

大空では

の絶談をかい(一八九七年)、

ウィ

の賞讃を得るこ

・シャヴァンヌに称揚さ

パリにおい

とムンクが切り拓らい

(同志社大学助教授)

物の形体は、

描く画面は、

池面に小石を投げた際のように一つのリズ の組合せを増高してもよれる。とと対象との間に緊張や調和が生まれる。とと対象との間に緊張や調和が生まれる。と の組合せを増幅してゆけば、画面全体が、 版や調目ない、対象輪郭が響き合い、対象

ているのが普诵 別に分類され、

味深い

その都度、

格と特徴がよく理解できて、

イシゲンから 見たトウーン湖」、「諧調」、理の端的な応用が、「フレールの森」、「こ ムの輪で統一されることになる。このよう (反復法) という言葉で表現した。この原 リンガーの が のホドラー 世紀後半の外面の美の追求から脱して、 進しはじめるのである。 ととなる(一九〇四年)。 やがて怒濤のごと れ(一八九一年)、ミュンヘンにわたってク てピュヴイス・ド 世紀初頭の動向を予言的に示す一例であっ うやく内面のイデーの表出に向い出す二十 ク事件とともに、 く登場して来る表現主義の画家たちが、 た。その後直ちにこの作品は、 ンに展示されてク

翌一八九二年のベルリンにおけるムン

**- 2 -**

ヨーロッパの絵画が十九

お を同じくして、伝えられたが、 \*ーヴィズムとキュービズムが、大体時したものであった。我が国の画壇ではフとではなく、我が国の洋画人全体に共通 的な作品はほとんど定着することがなか 会場でみられるのに比較して、 フォーヴ的な作品があちこちの展覧

それは日本人が

いて、

作者の意図とは別に、その体質や資質にお

あるいは結果として風俗画である作

品は少くないのである。

今回陳列された作品のうち入江波光の

キュー

あり、

ときには宗教画であることもある。

現代もな

な作品は案外多い。それらは一名、 俗画」として分類することがもっとも適切

いわゆ

今日、制作される日本画においても「風

る人物画であり、美人画であり、歴史画で

黒田重太郎 作 渚に坐せる女 いであろう。また一面はそういわざるをえな に西洋では、自然と人ている。それと対照的 理想境のようにいわれ間が一体になることが 玄 土、美意識たとえば(幽にみせない我が国の風 われているが、 する合理性に欠けてい かたちを理知的に構成 古来東洋で では物のかたちを鮮明 る民族である故だとい いるのではなかろうか などにも一因して は自然と人 一面で

度が伝統であり、 存在としてみつめる態 間はあくまでも別個の 冷然 物体 ある。 定かにほうふつさせる点で、 を描きながら、それと平行し照応する作者 ども理想境を擬している点ではかわりがな わにしており、そういう意味では非世俗的 想境にたいするロマンチックな憧憬をあら られる。入江波光の「彼岸」は宗教的な理 俗画とよぶにはそれ以外の積極的意図がみ の距離は思うほど遠い の現実生活についての感覚と思考をかなり い。しかしこれらの作品は非世俗的な世界 の場合は宗教的な情感とは無縁であるけれ な系譜のものである。西山翠嶂の「広寒宮」 「彼岸」や西山翠嶂の「広寒宮」などは風 日常の実際生活のさまざまな様態がわれ ものではないようで 他の風俗画と

題である。 することが、風俗画のすべてであるかどう あるといえる。ただ風俗の描写だけに終始 むしろそれは積極的で健康な精神の表現で ぎり、風俗画がたえることはないだろう。 われにとって打消しがたい関心事であるか かは作例に照して個別に検討されるべき課

(当館学芸課長)

京都洋画壇を代表する洋画家、 黒田重

最初の遊学は大正五年の末、ロンドンへ歴を語るうえで、重要な転換点であった。 協会のメンバ 大正七年八に帰国。 向け出発し、 太郎は大正時代に二回、 いる。その二回の渡欧は黒田重太郎の画 に帰国している。第一回目の欧州行脚の 土田麦樱、 折には、 ーと共に出掛け、 小野竹番らの国画創作 二回目の旅行は大正 南フランスを旅し、 印象派の影響を受 欧州へ遊学して 同十二年

け、ピサロを思わす作品を

においては、ピカソなどのでは、(丁度その頃のパリに推された。二回目の遊学 をへて、ア思弁的キュ で学び、 キュービズムの運動が、盛などが提唱する写実主義的 二科賞を受け、二科会会に た) アンドレ・ロートの下んに行われていた頃であっ 数多く描き、 丰 アンドレ・ロート ービズムの時代 帰国後 二科会会友 ビズムの洗 第六

当館所蔵品

科書をみる思いがする。女性の体を重量生かされている。正にキュービズムの教 二科展に滞欧作を発表して、注目を集め ートの写実主義的キュービズムが忠実にの頃の滞欧作品と考えられるもので、ロ 像に従来にない迫力をあたえている。 感のあるマッスとして作者は把え、 礼をじかに受けたのであった。 との作品を含めて、 本館所蔵のとの「渚に坐せる女」はそ 彼は帰国後、 女性 これは黒田重太郎一人について云えるとたような結果になってしまった。だが、まれる。結局、キュービズムから逃避しまれる。結局、キュービズムから逃避しなった画風を展開したであろうにと惜しズムをもっと深く追求したならば、また

れて、

如何にも日本的な感じのする温和

な作風へと移行している。

彼がキュービ

であった。キュービズムを取り入れたの前衛的なものを積極的に取り入れた一人当時、黒田重太郎は二科会にあって、 当時、黒田重太郎は二科へ二科会会員に推されている。 ると彼はキュービズムから、 ģ U彼はキュービズムから、すっかり離牛い組であった。しかし、昭和に入東郷青児などとともに我が国では最



育成されるものなのであろう。そして、キュービズムは西洋の合理性の中でこそ を顕著に示しているといえる。(馬場)る、晩年の南画へ傾倒は、日本人的特質 作家といわれた万鉄五郎などに共通す 黒田重太郎を含め、 育成されるものなのであろう。 とみつめる目が培われているのである。 (自然)を厳しく、 キュービズムの代表

京都市左京区岡崎公園

昭和50年9月15日発行

No. 97

# 思 出

協会、美術文化協会などについて多少述べてみよう。 た画壇における昭和一〇年代の新日本洋画協会、創紀美術 ク等々と激動の時代であったが、その内若い頃私の関係し 昭和も早や五〇年、その間満州事変、日華事変、第二次 太平洋戦争、敗戦、高度成長、オイル・ショッ

研究所に所属している若い人達で 第一回展を開いているが、私が参 は一九三五(昭和一〇)年。 アリズムの「妙屍体」などからそ 点からではなく、むしろシェル 制作と言う場合の社会性と言う観 とは何とも言えないが、 することが出来ないので正確なこ 昇の意図を現在私が充分明らかに 「浦島物語」が発表されているが、 あった。 三回展 には 集団制作 の 加したのは翌年の二回展からであ 新日本洋画協会が組織されたの カーであった先輩北脇 ーは独立美術京都 普通共同 同年

はそれほどの意識を持っていなかったように思う。中には綜)したようなシュルな絵を描いた者もいるが、ほとんど乙姫を巨母、浦島を胎児、巨母空想とをコムプレクス(錯 当時そのように受取っていた。それから松崎政雄のように の発想が来ていたのではないかと思われる。少くとも私は

> 事変が起っているが ず結果的にはシュル的な妙味が多少とも出ていたように思 絵画理念として全くシュルに反対な連中もいた。 われる。との三回展が開かれた年、三七(一二)年、 私は第七回・独立展に「夜」を初出 同年引き続き「民族系譜学」「民族病 にも拘ら

「美わしき光背」(この作品は多分 どを やや シュル風に 描き 初めて 理学(祈り)」等を制作した。 である)その他を描いている。 が、どうも所在がはっきりしな いたが、同年「独活」「章表」「空港」 昇もその前年ぐらいから木の根な 。サディスチックな優れた作品 メリカに渡っていると思われる

タージュ、オブジェなどである。示した。デカルコマニー、フロッ 私は洋書の医学の本から心臓など 測室」を設けシュル的な資料を展 は市美術館の一室に「超現実性観 次で三八(一三)年、四回展に

祇園祭の華・屏風祭 平安警道展 無 は20名以上の団体料金

6 ∤ 10

第 55 回

第10回新陶人展 大光美会展 高大生30円(30円) 高大生30円(30円) 小中生20円(10円) 小中生無料 高大生200円 京都府立総合資料館

7 月

鳳雛書道展

第33回国連ポスタ 国連創立30周年記念

府立文化芸術会館 7 23 27

第六回フォルメ展真魚のグループ展 主体美術関西作家展 第九回京都洋画版画新人展 京都二紀展 あすなろ展

青塔社グループ炎展 グループのんのん展堂本印象画塾

(入場無料)

京都国立近代美術館

朝日画廊

6 1 1

(月曜休館) ル・デルボー

大 人20円(10円)前売10円 高大生10円(10円) 10円 小中生10円(60円) 60円 10名以上

館

展 覧

会案

内

浅野竹二展 番浦有爾展

(入場無料)

上村松簻展 三浦景生展 森田子龍展

水明讆道会公募展(膏少年展)

大 高大生四〇〇 大生四〇〇

(三〇〇)

40 (五O) 40 (五O)

(月曜休室) 22 22

平常陳列

20 ~ 22

現創会警展

16 ∤ 22

グループ「生」展

(風俗画を中心として)

大人30円(20円) 大人30円(20円)

小中生200円(100円) 150円 大 人50円(100円)前売150円 30円 30円 150円 150円

17 (月曜を 異色の水墨画家 大 人

京都国立博物館 特別陳列中国鏡 (月曜休館)

友の会は5月25日(日)春の見学会を行

河内長野市の 新緑の美し

友の会見学会

小中生100円 高大生300円

大 高大生三〇 小中生二〇

)は20名以上の団体料金

○○至 ○三 ○三 ○三

ていましたので、 い観心寺では年に一回の楠公祭でにぎわっ 観心寺に予定通り着きました。 いました。心配していたお天気も快晴にな バスは外環状線をへて、 その行列も見学しまし

21 ? 26

第6回

第一展

ループ

道

小中生200円 (100E 高大生400円 前売(40E 高大生400円 前売(40E

前売(40円) (100円) (100円)

24 7 30

大 人納円(納円) 高大生物円(納円) 高大生物円(納円)

26 / 31

日本画作家展

26 } 31

世音菩薩像の気品にみちた姿を心ゆくまで 寺に向いました。道明寺でも国宝十一面観 新緑に囲まれた庭で、昼食をすまし、 なかったのはちょっと残念でした。 見学しました。秘仏如意輪観音が拝観でき 館の宝物について説明していただきながら お願いして、国宝如意輪観音菩薩、や霊宝 当日は京都市立芸大の田村先生に説明を その後

しみ、枚方バイパスをへて午後6時には京 帰路交野市の植物園では自由に散策を楽

レアリズム運動につい 源太郎

素朴なものであったが、 ントを 得ていたので 調わばネタを 並べたと 言うわけであ 私はとれらの動植物の解剖図や写真などからその発想のヒ を図式的に描い る。今から考えてみると、 たものを切り取って陳列した。丁度その頃 逆に考え直してみると返ってこの ここで展示されたものは幼稚で

の作品も所在が不明である)。 制作「庭園」と言う作品を作っている(と 持つものであろう。それからもう一つ集団 ての観測室は京都において<br />
画期的な<br />
意義を との方が尚一層重要である。何れにしても として用いられている。勿論これはこれで いものに迄拡大解釈されて使用され一般語 現在では本来のダダ、シュル的な持味のな う気がする。例えばオブジェと言う言葉は 辺に本来の原点があったのではないかと言 一向にかまわないが、本質を見失わないこ

るが、

四月 創紀美術協会を 結成した。 のシュル的傾向の作家達から呼びかけられ 同年北脇と私は関東在住の独立展出品者 早速六月の 京都で 小品乍ら 創紀美術 同人一九

達に呼びかけて五月美術、

文化協会が結成

中心として創紀美術のメンバーが母胎とな 福沢一郎が同会を退会したのを契機に彼を さと脆弱性があったと言えよう。

り二科九室会、その他の諸グループの精鋭

Ħ . 10 昇 周易解理図 (昭16 第2回美術文化展) された。京都からは北脇と私が参加したが、 同人は四〇名。糸園和三郎、小川原脩、

北脑 杉全直、 で北脇、 寺田政明、浅原清隆、阿部芳文(展也) た。しかしここでも創紀美術の場合に しく美術文化はその第一回展を開催し 大戦が勃発しているが、兎に角翌三九 った。ところでこの年九月第二次世界 とれも北脇の先取り精神の現われであ 哨展とは敢えて銘を打たなかったが、 靉光、麻生三郎、佐田勝、斎藤義重、 一、土屋幸夫、 吉井忠、米倉寿仁、髙橋迪章、鷹山宇 (一四) 年四月には上野の森で花ばな 小牧が二人展をやったが、前 その他であった。一〇月京都 横地康行、 古沢岩美,

うわけではない。矢張りことに一抹の曖昧 ない旨明言しているのでシュル一辺倒と言 術の場合も前衛美術であることは歌ってあ たものであった。そして本展は少し遅れて 術を先取りしようと言う北脇の案を実行し 一○月東京で開かれた。しかしこの創紀美 「前哨展」を開いた。これは京都で創紀美 翌三九(一四)年独立美術の内紛により 単一なるイズムに偏向するものでは 回展には弾圧を避ける為会員 指摘 したような 脆弱性がす されるという事態が起り、 でに内包されていたのである の出品作を会員相互で審査 者滝口修造と福沢一郎が検挙 ュルレアリズムの理論的指導 が、翌四一(一六)年三月シ

局的なものに傾斜して行った。 記序説」と言う共同制作を出品したが、と 二(一七)年五月の三回展には同人課題制 れたらと言うわけでもあるまいが、 分担して描いたもので特に時局便乗的なも テーマで軍需産業的ポスター的作品を陳べ 芽を 吹き 出した。 一二月太平洋戦争に 突 る。 警察の目で作品を判定しようと言うのであ のではなかった。その後美術文化は一度鑑 れは京都の歴史を時代別に区分して各自が るようになった。京都の私達は「鴨川風土 る。美術文化の持つ危機はこのあたりから 作として「美術における文化建設」と言う いよいよ戦時体制が完備され出した四 絵かきが 検閲官 に 早変りするのであ 増々時

話は分るが、 的価値で判断するのならまだ った。審査の基準をその芸術 よって決めると言うことにな 陳列するか否かを挙手に ここでは陸軍や

その頃京都では同志が五、六名になって 小牧源太郎 民族系譜学

**- 2 --**

参戦。地球はまわる、四五(二〇)年八月 らなかった。終戦間近にはB29の飛来が激 され空襲警報が鳴るたびに制服に鉄兜、 召も徴用もなかったので独り黙然と絵を描 **脇も大阪住友金属に就職した。幸い私は応** 前からそれぞれの世界に消えて行った。北 一五日正午がとうとうやって来た。 た。そして遂に広島原爆、長崎原爆、 てものことにゆっくり絵など描けなくなっ しかったので自宅を出たり、入ったり、 いていたが、学区の防空監視の資任を持た いたが、応召や徴用の激化などで私の目の ルと言う出立で監視所に駈出せねばな (洋画家) ソ連 と

#### 当館所蔵品

獅子は、 強そうで、 であった。それらは如何にも実には存在しない仮空の獅子 **あうか、荒唐無稽でおよそ現獅子は、唐獅子というのであ** 獅子の鼻からは鼻

が伝わっ 息の荒さ てきそう

物独特の陰検さとどう猛さが顕著にみら

目付の鋭さには

り誇張されているとはいえその根底を流

当館所蔵の榊原紫峰作「獅子」はかな

が極鳳の中には常に内在していたといえ

వ్య

であって、 が)を知らぬ、 された獅子からヒン が近代以前に題材に う猛さを未塵も感じ が)を知らぬ、ある は見たことのない が)を知らぬ、ある が、割り上げた しさが伺われる。 を得たものである いう確定はない (とれもライオン 猛獣の持つど 我々はそれを それらは仮空 現実の獅 えられて

写生を重んずる円山・四条派の伝統精神 か登場したのは、竹日本画にライオン プの動物園で写生を行ったという。

我々が古い日本画で接する 獲物を前にした番の獅子の顔は描科動れているのはやはり写実的精神である。

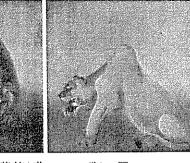
子 獅 にあたって、 観るものを射すく に対象に向っていた 者はとの獅子を描く るものすらある。

徹底的

作

として把

な愛嬌者



紫峰 作 洋画風であり、豪快来り、おり、あくまでも朝かなまでも見い。 とれを絵画化る。 画面はセピヤ調の色彩でおおわれている。 画面はセピヤ調の色彩でおおおわれている。 は、それを絵画化表し、それを絵画化表し、それを表面化表し、それを表面と たところもみられか古画の唐獅子に似か古画の唐獅子に似る。獅子の姿もどころ。 る。 なところは狩野派の

年の第六回国展に出ての作品は昭和二 国展のメンバ 品したものである。 一の中

画(ほとんど中国の絵画であるが)を徹 洋画の影響を受けた人も多くいた。その には日本画革新運動という旗の下で、 みたてていった。 底的に学び、 中で紫峰は西洋画には目もくれず、 そとから新し 日本画を組 東洋 西

### 美術館秋 の特別展余話

森寛斎の吾妻登り日記

原 田 平 作

蔥、中島来章、塩川文麟、田能村直入、森 頼に廻っていると、資料的にも興味をそそ 保田米僊などが主で、竹内栖鳳、山元春挙 百年、望月玉泉、富岡鉄斎、 ~一八四五)に始まり、 るものを見せてもらえる時がある。 画人たち↓となる。 であり、名称・京都画壇、 野楳嶺、今尾景年、鈴木松年、原在泉、久 る。年代からすると、岡本豊彦(一七七三 (一八七一~一九三三) の世代で終る予定 ただ今 秋の 特別展 の 準備たけなわであ 谷口露山 岡田為恭、 西に東に出品作品の依 松村景文、浮田一 江戸末・明治の 岸竹堂、 川端玉章、 鈴木 #

かがわせる。 画的な精神をとり入れて、 の日記と同じ用紙による冊子であったと思 今は巻子になっているが、元は寛斎の一連 春学の遺邸)で見せていただいたもので、 せるばかりでなく、 ある。これは、円山派を継承しながらも南 り日記、即ち東京行きの日記もその一つで 森寛斎(一八一四~一八九四)の吾妻登 た寛斎の、 大津の山元邸(寛斎の弟子、 才気豊かな性格をうかがわ 当時の時代風俗をもう 自由な作風を含

> おぎたい、 から、 治5年、 あるが、 た、老らくの思い出に今一度不二の峯をあ 名所などもまぼろしのようになってしまっ う六十年近くも昔の若い時であったから、 であった。東京で開かれた農商務省主催の われる。 は雄山(?)と二人の門下生。四月十七日 狩野探美、田崎草雲の両名が受賞した。 印は受賞者がなく、 た 第1回絵画共進会に≪葡萄栗園図≫を出品 に着いた。まる二日かかっていないようで の夕べに蒸汽船に乗り、十九日の朝に横浜 は、楳嶺、在泉、米僊が参加し、 し、二等賞の銀印を受賞しての東上であっ 日記はまず、自分が吾妻に行ったのはも 因に この時 京都からの 審査員として との船が一番楽で早かったのであろ 東海道線が全通したのが同22年だ 東京横浜間の鉄道が出来たのが明 時は明治15年のこと、 という記事から始まる、道ずれ 二等は寛斎翁の他に、 寛斎は69才 一等の金

ぶりにあふくあけぼの おふしさんえくほにのこる雪化粧久しう

(四頁へ続く)

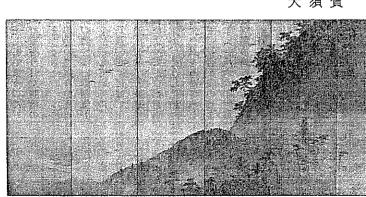
**—** 3

昭和50年11月15日発行

と川柳にもあってよく人の知ると

No. 98

をまって形式的な完成に至るわけ二二年(一八八八年)の帝国憲法 廃蕃置県とかテレビドラマにもな 御誓文で明治ということに改まる は慶応四年三月十四日の五カ条の ったように錯覚しがちであるけれ ら新しい近代社会に移行してしま からなんとなく慶応の二、三年を の始まりとしているようである。 歴史の上では、ここから明治維新 の末期も眼に見えた具合になり、 による門戸開放の呼び声で、幕府ころである。浦賀にきたこの黒鉛 るような色々な事件をへて、 私たちは、明治維新という言葉 勿論実際は違っている。年号 明治維新そのものは、 徳川幕府の封建社会か



江戸末・明治の画人たち 展覧会では、江戸時代も後期にさしかかる安永年間(一七七二 六年から明治二二年に至る明治維新の時期を中心にしている。 一七八〇年)に 生まれた作家の 岡本豊彦、 ᇈ

今度の展覧会の「京都画壇

例年の京都市美術館が主催して行う催しからすれば、

よく知られ まっている。れている作品は、 浦上春琴らを始まりとしている。従って陳列さ

一八〇〇年以降の文化文政年間のものから始

竹堂の「祇園夜桜図」がこの年の の煎茶を四杯も飲んで夜も眠られ 作品である。これらの絵から見れ 斎、岸竹堂など多くの諸派画人た では塩川文麟、田能村直入、森寛 景を考え合せれば興味探い。 が並んでいるのも、 期、即ち明治維新前後の京都画壇 史上の研究も他の時代領域に比較 ちが活躍しているが、 然の内容と言えるだろう。会場の に焦点をあてる意図からすれば当 とした嘉永六年頃というと、 ような活発な賑わしいものではな が補賀に来航して世の中が騒然 上品でおだやかな趣味の画面 文麟の「百老仙図」、 明治維新から連想される いぶんと遅れ て 江戸末・明治という 実際の時代背 る **べ**リ

望月玉川 花鳥山水図(右半双) に時代をさかのほった展覧会にな

江戸末・明治の画人たちと京都

大 須 賀

時代から言えば、この嘉永 かった浮田一恵はベリ ることもできない。 ぬといったペリ 創立10周年記念

18 18 ≀ 23

₹ 19

不思談の国子供ア

に驚きながらこう歌い、あこがれの富士山

翁は数千の船が港に満ちていた横浜の姿

展 覧

案

内

26 10 1 京都大・大阪市大・神戸大 各美術部三大学展 11回自主休講展 無

25 ≀ 11

高大生50円(50円)前売60円

9 月

安田 謙·田中勇次郎 京都市美術館平常陳列

大 人 4 (H) (30 H) 前壳 50 H 高大生 50 H(50 H) 50 H 高大生 50 H(50 H) 50 H 50 H

"5染技連展

小中生20円(10円)

いう所に着き、東京に滞在すること三十日

横浜から汽車と人力で日本橋区の大槌と

설

展

は20名以上の団体料金

幼児・児童・生徒作品展 小中生100円(100円) 150円 高大生100円(100円) 150円 150円 渡辺華山展

京都国立近代美術館

香月泰男遺作展

は前段で、

との下りが言わば本文である。 知人の宅に寄ったりする。上り

一々の興味深い話は別の機会に譲るとし

の旅が始まるわけであるが、

途中名所を見

うしてこれから七月十三日までの、東海道 再び汽車及び人力で金沢八景に向った。そ ばかり。五月二十日の朝早く東京を立ちい

ひまわり会子供ア 第26回京都勤労者文化祭 料

フランス工芸の美

(月曜休館)

の島(との辺で遊行寺、

青蓮寺などを 見

る)、藤沢へ。そして平塚、大磯、

から鎌倉、長谷へ。それから七里ケ浜、 て、下りのコースだけを記すと、金沢八景

学

生(10) 生三〇

人八〇 (宝〇)

第18回新象展

小中生15円(10円) 高大生35円(20円)

第2回堯美術展

シェル美術賞展

小中生150円(160円) 160円 小中生150円(160円) 160円

(15日をのぞく月曜休室)

大 人150円(80円) 高大生120円(60円) 小中生80円(40円)

10 月

ランド現代作家展

美術表装競技展覧会(第6回) 第30回新匠会京都公募展

は二〇名以上の団体料金

浜松へ。浜松では米僊に会った。以下は、

名古屋、

沼田、

生100

(OF)

松与左衛門氏宅に泊った)へ。そして富士を 箱根、原(ここでは円山応挙ゆかりの宅、植

人 ( ) ( ) 五( )

人 吾

見ながら吉原、

三保松原、中山、掛川、袋井、

京都国立博物館

(月曜休室)

関ケ原、長浜、

人力に乗ったり、汽車や船に乗ったり

同志社大学15年展

無

14 ∤ 16

第30回行動美術協会展

日本美術院復興第6回院展

小中生200円 高大生350円

前売(級円) (M円)

16 ≀ 28

女流陶芸展 全市とども美術展

经彩美展17回

小中生20円 高大生40円

前売(級円) (30円)

桃山時代の工芸

(二五()

たかもしれないが、それはまだ見ていない。 であった。この文と併行して絵日記もあっ

(特別展は11月2日(日)より同月25日(火)

十七日

五〇

は二〇名以上の団体料金  $\equiv$ (30)

一方で江戸時代

ているようでいてなかなかひとつには把えにくい時期のように 徳川幕府も二五〇年続いた嘉永六

思われる。この江戸の末期、

ーの来航

の印象があり、他方で明治時代の感じが重なって、

江戸末・明治の移り変りの時代というのは、

の来航による興奮した世相の雰囲気は垣間見 ただもともと攘夷派でこの問題に関心の深 ー来航の図も描いているし

吉野山春雨図

に明治維新による社会の動

以後から、 和宮の降嫁などがあったあ 感がある。 乱にまきこまれ、じっくり なまぐさい町となり、 に急死してしまったような 絵筆をとる余裕もないまま 京都は一挙に血 この安政の大獄

を深く残している。 言われているものだが、 は一般に「京焼け」或いは「鉄砲焼け」と 見舞われるのである。町のほぼ全部が焼土 と化してしまったと言われているこの大火 わゆる蛤御門の変がおこり京の町は大火に 展覧会の会場の第一室後半から第二室、 元治元年 (一八六四年) 七月には、 後々までその影響

くの歴史に残るような事件が起こるのも周 中心舞台となってくるが、それに伴って多 外国との条約問題にからんで次第に政治の

翌嘉永七年は安政と改

この事件以後、平穏だった京都の町は、

図」などの作品によって陳 の岡田為恭も佐幕派の手に 列されている復古大和絵派 六歌仙図」「更衣図・鷹狩 撰組が組織される。 **暴れまわり、鎮圧のため新** 誅の名を借りて京の町々を 殺していた浪人たちが、 なっていたのである。武士や役人たちを暗 裕な商人たちは、とても絵どころではなく の絵を愛好し支援してくれていた京都の富 あたりに経験している。 ればならない時期に、こうした政変を眼の 第三室、第四室の前半に陳列されている画 人たちは、 彼らの人生の最も仕事をしなけ = 天 本来であれば彼ら

約動許問題とがからんで複雑化した政争に

らの開国の声のなかで、将軍継嗣問題と条

破れた吉田松陰、橋本左内らが 投 獄 され まきこまれていくのだが、大老井伊直弼に ノ耕作ノ図」の襖絵はこの安政の造営の際る岸岱の「四季花鳥ノ図」と原在照の「倭

の作品である。

この間京都は、

高まるばかりの諸外国か

御用を仰せつけられている。

出陳されてい

が開始されるわけだが、狩野派、土佐派の

御所は再び灰燈に帰する。

早速造営

年)の京都大火での御所炎上六十七年目に **元される年であるが、天明八年(一七八八** 

画人たちを始めとし、多くの京都の画人が

った。 力商人も東上してしまうので、 代は明治へと移っていく。それと共に京都 てかなりの打撃をうけた明治の始まりとな 去ってしまいその後華族をはじめ士族、 市民にとっては突然の如く、天皇が江戸に 八年)などどいわゆる戊辰戦争を経て、 うして鳥羽・伏見の戦(明治元年、 一八六 京都にとっ 有

あるが、当時の京都の状況を考えると、散互に批判し合うという諸派の寄り合いでは り散りにならずにこれからの絵を考えてい 雲社」をつくっている。月に一度集って相 島来草らは京都の画人たちを結集して 中の慶応二年(一八六六年)塩川文麟、 ぞれの進言によって、京都府画学校を開校 都の町全体の熱っぽい雰囲気が、経済にも れに先立って、社会不安の高まってい にも凛とした気風をみなぎらしている。 させるに至るが、そうした熱っぽさは作品 幸野楳嶺、望月玉泉、 文化にも深く浸透していくのである。明治 十三年(一八八〇年)には、田能村直入。 しかしその勢いを盛りかえそうという京 久保田米僊らのそれ 加加 く最 そ ria Tip



松間瀑布図

西 名 画 展

泰

六年以前の力作でペリーの来航以後はまさ

よって暗殺されている。

「白衣観音像」や「賀茂競馬図」は、嘉永

の中には浮田一蕙もいた。出陳されている 九年)公卿たちにも弾圧の手がのびる。そ(安政の大獄、安政五~六年、一八五八~

平 野 重 ·光

儲けることに興味を持っている」といわれ努力を続けながら……いっそう多くの金を に似つかわしい人物らしい。 る経済界の大物である。いかにも一代で富 夜自家用のジェット機を世界各 国 に 駆っ 近いアメリカの主要な会社の代表者で、 が収集した美術品、「ハマー・コレクショ ン」から、 これらの「利益を挙げるために不撓の 七十三才になるハマー氏は、いま四十 ま展観されている「泰西名画展」は、 アメリカの資本主義を支える一員 その大半をもち来ったものであ ハマ ーというアメリカの富豪 日

行なわれ、 いた はどの美術館のものとも比肩しうるほどの はおよそ五十年前、 すぐれた作品が、幾棟かの倉庫に充満して や穢物などの工芸品で、 になされたもので、十八世紀の家具や陶器 の巨匠たちの作品によって形成されたが、 出されたという。二度目は一九五〇年代に これは一九六五年カリフオルニア大学にそ 彼の美術収集は三度に及んでいる。最初 やがて彼がアメリカへ戻ったとき売り (ジョン・ウオーカー) ほどだった 主としてヨーロッパの古い時代 祖父の故国ソ連滞在中 「装飾美術として

> である。 来したコレクションで、印象派を中心とし たフランス近代絵画に主力が注がれたもの っくり寄贈された。そして第三次が今回招

れている。 院」など、 象派の巨匠といわれるセザンヌの「休息す ある。 家 る。彼らに先だつ十九世紀半ばの 風景 画の得意とした主題によって収集 されて い に こんにちわ」、ゴッホの「サン・レミの病 る少年」、ゴーギャンの「ゴーギャンさん、 たコローには、その特徴をよく示す大作が ם ニュアンスをロマン的な詩惰で描きつづけ モネなら海景、ルノワールなら少女、ピサ なら街並、 たとえば、マネ、モネ、ピサロ、 コローもあり、とくに自然光の徴妙な いわゆるバルビゾン派で知られるミレ よく知られた印象派の画家たちが彼ら ルノワール、そしてドガなどがあり、 **素描:デッサン類多数とともに陳列** あとにつづくものどしては、 彼らの画業を知る上に重要な作 ドガなら踊り子とい うふう 後期印 シスレ

としてベルナー ルらが色彩の交響を、 後期印象派から野獣派へと橋渡した連中 ボナー 彼らの好みの題材に ヴュイヤ

くしたギュスタブ・モローの大作「ダビデ近代絵画の発展にとって、陰に陽に力をつ ころといってよい。 王」「サロメ」の二点は本展の主要な見ど ちがさまざまに彩りをそえている。とくに 獣派のドラン、ヴラマンクら多くの画家た ストであるロー よって奏でており、 ・パリで知られるシャガール、モディリ ニ、ローランサン、さらにルオーや野 トレック、またエコー 同時代の特異なレアリ ル・

ている点である。 ンス以来の流れにもすすんで手が染められ 接に準備することにあずかった、ルネッサ した二十世紀美術の華々しい幕あけに登場 してくる新しい諸流派、諸作家を直接、間 加えてこのコレクションの特徴は、こう

彼のすぐれたデッサン力と研鑽の一端を知 ドイツの巨匠デュー る上で見どころのあるものだし、 りかえった婦人や右眼をか オナルドの小品 スケッチながら、 老人の横顔をはじめ、 ÷ ルネッサンスの巨匠レ いた習作など、 同時代の ઢ

たとえば今日保存状態が 習作と見られるもので があるが、これは壁画の というペンによる狹彩画 ルロの「ホセアとヨナ」 れも小品ながらラファエ がたいものであろう。こ 小品とはいえなかなか得 シュの「草花」なども、 の丹念に描かれたグワツ

> 楳演につながり、竹内栖鳳、 みだしていくのかとも思う。 こうとする京都の画人たちの意気が、幸野 山元春挙を生

ものである。 多くは明治二十二年の帝国憲法以後のほん とうに明治という近代社会が始まった頃の これら第五室に陳列された作家の作品の

が 判じ難いひとつの新しい世代へと流れてい えた多くの葛藤の末円山派とも四条派とも の如く諸派の作風が入り乱れ、伝統を踏ま く様が見てとれるようにも思う。 作品を通してでは、 江戸末期の動揺する社会世相そのまま 明らかに把え難

る作品に注目したい。 木百年、そして岸竹堂の「月下猫児図」や 「円山吐月之図」のような独特の創意のあ 後代に多くの影響を残した塩川文麟、

(特別展は11月25日まで開催)

(当館学芸課員)

#### 第七 П B

恒例の日展は本年も十二月十五日から翌年一月十五日(年末年始十二月二十七日~一月四日休館)まで美術館で開催されます。 出品は例年通り日本画・洋画・彫出品は例年通り日本画・洋画・彫出品は例年通り日本画・洋画・彫画・工芸・書で基本作品約二五○点、合意都・滋賀の地元作品約二五○点、合意のは、合意を開催されます。

揚 料

 $\sim$ 0 ( ) は二〇名以上の団体、前売料金)(二〇〇)、小中生二〇〇(八〇)大人四〇〇円(三〇〇)、高大生三〇

森 寛斎

パーチェ いる。 よくない 壁画などを見る上で資重なものといわれて р ] 聖堂内のキ マのサンタ・マリア・デラ・ ージ礼拝堂に描かれた

で寄せられた印象はぬぐえないが、時代や がてきる。 慮についてもよくなされた収集ということ されたことと考え合わせると、歴史的な配 このコレクションが最近の十年間ほどでな 流派や作家の特徴がよく出たものも多く、 き一、二点というところだから、名前だけ そろえている。 ンといった美術史上著名な作家たちが顔を ル、ゴヤ、 その他名前を掲げるだけでも コレ ティエポロ、ブーシェ、フラゴナ ーベンス、レンプラン ト、 アングル、ジェリコー、 もっとも作品は一作家につ ヴ ァ ブーダ ッ ئزد

ることである。ロンドンのベンジャミン染みの薄いアメリカ美術が数点含まれて そしていま一つ特記すべきは、比較的馴 (四頁下段へ続く)



<ゴーギャンさん、 こんにちわ>1889年

**—** 3

昭和51年6月10日発行

No. 99

### 田 氏 0 芸

地を示すものと受けとられている。たしかに伝統の手 一様ではないが、宇田荻邨氏の芸術は、ずっと以前か 日本画という言葉から想い起されるイメージは今日 醇化されたさわやかさは群を抜

内面に宿しつづけることの得がたさであろう。 てとではない。 技術的にも錬磨を要することである れをそのまま画面に生かし切ることは並みたいていの

める作品の一つに「桂離宮笑意軒」がある。 宇田荻邨氏についてのとのような感想をいよいよ強

に醇度の高い、しかも優雅なひろがりをそなえた作品 意軒は美しい夢のような姿を現わしている。 このよう 開をきわめた晩秋の落葉した樹々の枝ぶりを適して笑 観は農家のたたずまいを模した純朴風雅なものである 笑意軒は離宮の南端に建てられた茶屋の一つで、外 宇田荻邨氏の筆はこの実景をさらに洗練、 一方単に眼を皿のようにした写生だけからは生れ まことに優美典雅な景観を出現させている。静

宇田荻邨氏は伊勢松阪魚町の生れで、 と読んだ国学者本居

芳文を師として選んだのはおそらく特別の理由からで

紹介者の縁故によるものだろう。

荻邸氏の画業のその後への発展からみれば、

文につく。当時の京都にはこの芳文のほかに竹内栖 宣長の旧跡鈴の屋は家のすぐ近くであった。 そして十六才のとき郷里の人の紹介で京都の菊池芳



桂離宮笑意軒

都路華香、 山元春挙といった大家が並びいたが、



大挙招来したワイエスの新しい水彩が一点アメリカ絵画の一端をみせてくれる。昨年 じてこの部門も一つの見どころとなってい るといってよかろう。 これらに加えて陳列されており、 家たちが、十九世紀末から二十世紀に至る な様式を示したプレンダガストといった作 としてはめずらしく後期印象派や野獣派的 といわれる女流作家キャサット、 の「ワシントンの肖像」をはじめ十九世紀 こうして本展は一三〇点を越す油絵、繁 キンズ、ドガと親交があった 油絵にない作家の特徴が 他にもっと秀れた作品を (当館学芸課員) (三)頁の続き) 本展を通 パリのア

2~25 (14日休室)

京都画壇江戸末・明治の画

11·26~1·11 (月曜·2 京都国立近代美術館

离大生30円(20円)

人40円(30円)前売30円

小中生20円(80円)

染色四人展

人の作品展

(月曜・12·27~1·5休館)

京都芸大專攻科日本画五人展

)は20名以上の団体料金

シュルレアリスム展

高大生20円(10円)

Ø

会見

学

般30円(20円)

小中生30円(60円)

第29回二紀展

高大生38円(28円)

小中生55円(55円)

· 24~ 2 · 22(月曜休館)

ルデーヴィス展

野の名刹善蜂寺を訪ねた後、

丹波地方の栗

友の会の秋季見学会は、十一月二日大原

高大生30円(20円)

人58円(48円)

小中生85円(85円)

無

11·18~12·14(月 京都国立博物館

覧

会

案

内

描、スケッチ類によって構成されている。 る作家について、 ちろん無理というものだし、 出品されてい これだけで西洋美術史の流れを追うのはも

15 { 1

15

15日は午後1時より

11 18 23

第24回光風会京都作家展

京都府立文化芸術会館

12 月

30 12 11

泰西名画展

・コレクションー

人50円(40円)

12 16 }

1 } 18

(月曜 特別陳列

1.3休

近世の動物画

要するところだ。境内には、

は距離がかなりあって、

徒歩でなら一日を

元禄年間に全

阪急東向日町の駅から山の中腹のお寺まで

態

立命館大学美術研究部

秋期アトリエ展

無

12 } 12 • 21

出土品

川原寺裏山遺跡

てよく知られて

いる天台宗の寺であるが、

奥にたどって大福光寺を見学した。 圏で栗拾いを楽しみ、午後丹波路をさらに

西国三十三ヵ所第二十番目の札所とし

. 11

第60回二科展

人80円

京都府立総合資料館

高大生55円

26 } 12

伝統工芸技術者コン

なくある村のお寺という静かなたたずまい

秋の陽のおだやかな田園の道筋に何気

高大生30円

人40円(30円)前売35円

高大生級円(38円)

小中生20円(10円)

料金はいづれも

大

人88円(58円)

が極めていい。大福光寺は船井郡高原村に

な松があったり、また位置が高いので景観 母)の裁植に依るという天然記念物の美喜 山の伽藍を改建した桂昌院(徳川 綱 吉の

ある。足利尊氏に縁の深いお寺で、嘉歴二

高大生30円(20円)

小中生20円(10円)

年(一三三〇年)に現在重要文化財になっ

ている昆沙門堂、

多宝塔が建てられたとい

特別陳列

鉄斎

座

大正12年

当然のことで がこの師契月 に達するので

をかいた。それが荻邨氏自身の語るととろ間の営みと人生についての関心から人物画 画を主とする画家であったが 調と品位、 学び受継いだものは非常に多い に進むようになったのだという。しかし主 とする師に敬意を表して自然と風景画の方 によると、 芸術にたいする冷徹な理解 探求などは正に共運のものである。 異なっても宇田荻邨氏が師契月から 手法の錬磨にたいするきびしい いつのころからか、 制作の高い格 荻邨氏も 人物画を主 。なかでも

吉野」も「春の夕・霜の朝」などからもそて大をなした人である。代表作「小雨ふるたりとした正攻法にもとずく花鳥画家とし

正面から鑑照し、みずからの作品のなかに

美しさを、主観を先走りさせずに、誠実に のてとがうかがえるが、このように自然の

くみとっていくという態度は宇田荻邨氏の

なかに深く長く温存され、

歳月をへだてて

ととにその後半期に濃い影響を及ぼしてい

るようにみえる。

派の正流をくむ画家であったが、

四条派の

画風の一つの特徴的要素である軽妙な洒脱

味を本領とするというより、

もう少しゆっ

家で、幸野楳嶺の弟子としていわゆる四条菊池芳文は当時の京都画壇の最高級の大

で理智的であり、京都の他の画家よりもむ は師のそれよりも優雅であって、 かったのは面白いことだが、 にもなかった氏独特の世界である。 しろ日本美術院の小林古径や安田靱彦に近 もっとも師の菊池契月の画風が澄明冷徹 ふくよかなものを秘めている点は、 宇田荻邨氏の **荻郁氏の場合** やわらか

芸術を育てあげて来た環境と伝統 とういう風にみてくると、

月がそのあとを継ぐことになる。契月は北

大正七年には他界し、芳文の養子の菊池契

しかし芳文は荻邨氏が師事して間もなく

信州出身の人であるが、これまた四条派系

の画風を実作によって批判

しながら、

**いていった人** 明な世界を築 かで勁く、 主義といわれ 期には新古典 で、その後半 る典雅の画風 瀅

歴史画 を受けるのは から深い影響 字田荻邨氏 契月は 圏、鴨川の山や高雄、

では、こうような、「ほど」のなかにしばしば人物が登場する。 のなかにしばしば人物が登場する。 のなかにしばしば人物が登場する。 のなかにしばしば人物が登場する。 主義的な気質、人間の香りや匂いかえってそこに宇田荻邨氏の人文ゆる名所絵となじむものではない。 の地が多いといってもそれはいわ氏の風景画に名所、旧跡、景勝 の風情ある女性の姿は、舞台の上の雨」のような作品になると画中の雨」のような作品になると画中 にたいする執着とそこからの節度

を配したものだが、蕭々馥郁の趣て通りすがる、その界わいの女性の祇園町の屋並みに傘をかたむけおさまる。「祇園の雨」は白川畔

人ということができるし、今日の京都画壇らずれば、やはりすぐれて伝統的な画系の画風を大事に発展させつづけてきたことか画風を大事に発展させつづけてきたととかけれるが、まじり気のない端麗な日本画の骨格についても一応の見当がつくように思 でもこの種の活動は他に例をみることがで

とをもって風景画家と呼ぶのは適切なこと宇田荻邨氏はよく風景を描くが、このこ

じられた自然である。
によって耕やされ、人々の眼に見事だと感になって耕やされ、人々の眼に見事だと感勝の地であり、名所、旧跡である。景観は勝の地であり、名所、旧跡である。景観は り定かな特徴がある。描かれるところは嵐それに荻邨氏の風景画そのものにはかな のみならず外来客の多くがめざしてくる景 鴨川の景観といった具合で、京都の高雄、清水、あるいは洛北の社寺、 京都の人

ップされて、背景の中にびったりの役者のように適度にクローズアの風情ある女性の姿は、舞台の上

せるのである。せるのである。おそらく宇田荻邨氏のひそかにきがある。おそらく宇田荻邨氏のひそかに

らの関心は年とともに昇華され、後年「祇る関心の原型のようなものであろう。それとの作品などは荻邨氏の人間世界にたいする。鏑木濱方の支持で入選したというが、 ろう、かなりデカダンな姿で描かれて、い創作協会派の画家の影響もあってのことだり、イート り、第二作は第二回展の一第一回帝展の「夜の一力」 なるのである。(当館員)で、宇田荻越氏の芸術を特徴づけるものとて、宇田荻越氏の芸術を特徴づけるものと 作協会派の画家のどで、、当時の国画で、後者は二人立ちの芸者が、当時の国画で、後者は二人立ちの芸者が、当時の国画で、後者は二人立ちの芸者が、当時の国画で、それであ 氏が画壇にデビュー したのは大正八年の 輝いとなっ後年「祇のう。それ

(宇田荻邨回顧展は 6・20まで 5 29 ただし月曜休室

**— 2** 

昭和16年

画 年 牧 源 太 郎

・ガール、キート、ピカソ、

シ

キリ

アンド

作

い初めたのは一九三五(昭和一〇)年六月 根源的には幼年期、 たかの要因については多くの原因があり、 のことであるが、何故私が絵を描きはじめ 私が独立美術京都研究所に絵を学びに通 少年期に迄遡らなけれ

リング、

雑になるのでとれは又別の機会に譲 ついて一ち一ち解明するのは大変煩 ばならないので、今ここでこれらに 里新興美術展覧会」について多少触 れてみよう。 った私に衝撃的な印象を与えた「巴 直接的な動機の一つにな

これは三二 (昭和七) 年東京で開 翌三三(昭和八)年一月末京 が、アンドレ・サルモン、 都岡崎勧業館で開かれた

アンド 松尾邦之助等によって企画され 路柳虹、森口多里、田辺孝次、枝、峰岸義一、柳亮、その他川 リスム、 型派、キュビスム、 自然派、写実派などと分類され たもので、 ものであった。 たパリ最新の諸傾向を網罹した レ・ブルトン、 新野獣派、音楽派、新 ピューリスム、新造 シュルレア **斎藤五百** ザッキ

る。

謎

タンギー、 スブルグ、外に素朴派のボオシャン、 ンファン、純粋抽象のテオ・ヴァン・ドエ マッソン、ジャン・リユルサ、オー デュフィなどであった。 マン・レイ、 プ、 エル・ロワ、 コ、ピカピア、ピ 11 P エルンスト、 セリグマ アル キス

不幸な勇気を伴う栄誉

合は別である。写実的、即物的に描いていてなかった。しかしピエル・ロワなどの場 麦現があっても、それらには殆ど興味が持 写実的傾向の絵、そこに多少の歪曲された スブルグなどの一連の純粋抽象にはその冷 ても合理からは常に逸脱して さに驚いたが、 私はどうしたことか合理主義に根ざした 詩情が横たわっているのである。ドエ 彼の場合逸脱の間隙にこの絵の持つ 感情移入などをいささかも いるのであ

だ。プラトン哲学の美しさだ。それは理念 存の絵画として受け取ってしまった。とと か 派のことを興を惹くように解説していた 事などでは図案やデザインとの関連でこの 許さないようなその画面の厳しさに私は返 その他音楽派と云われるブラン・ガッチの に私の絵画理解への鍵があったのである。 の形而上学美だ。その当時の新聞の紹介記 って観念的興奮をおぼえた。数学の美しさ 「世界の危機」(とれも抽象である)、 私はそのものずばりでそれらの絵を既 才

興味を感じたが、 ンストの「森と太陽」、タンギ もシュル派の人達、中でもエル 的なものとなったことは事実で 絵画への関心は今迄と異り積極 れらの作品を観ることによって ても既成の概念を打ち破ったと らない魅力を感じた。何れにし ある。しかしそうかと云って私 ザンファンの浮彫様の絵など の「育い背景」などにはたま なんと云って

ピエール・

各方面に大きな衝撃を与えた展覧会であっ 田国太郎が大規模な個展を開いた。これも 三四 (昭和九) 年一一月京都市美術館で須 はすぐに動いているわけではない。その翌 方へ傾斜して行ったようである。その約半 たが、これを契機に私の心はますます絵の 年後三五(昭和一〇)年六月遂に須田先生 出向いたのである。 が指導していられる独立美術京都研究所に

その頃研究所は室町通り丸太町下ル元写

さか驚いたがとの人が三水公平である。 真家のアトリエであった。簡素な建物であ 氏は現在健在、矍鑠としておられる。 と二階からジャンバーのようなものを着込 ったが比較的便利に出来ており、二階がア 景には目を見張った。六月だと云うのにス リエには生れて初めてでありその異様な光 れて二階にあがったが、私はこの種のアト んだ熊壟のような大男が降りて来た。 る。二十数名の研究生が各自思い思いにイ ファーの上には全裸の女性が横たわってい 思うと椅子に腰掛けて石膏をデッサンして ている。中には油彩の者もいる。そうかと ーゼルを立掛けてこのモデルをデッサンし 思い出せないが、唯一人北脇昇がいたのは だと思った。その時どんな人達がいたのか はひどく濁っている。トンダ処に来たもの いる連中もいた。閉め切っているので空気 その時は紹介されずに終った。約二十分ほ アリアリと思い出すことが出来る。彼はイ いた。ストーブのせいか顔がいやにベニ色 づ帰宅した。 に紅潮していたのが印象的だった。しかし リエに使用されていた。中に入って呼ぶ ーブの火はアカアカと燃えており、 ゼルの前には立たずスケッチ帳を携えて トリエにいて私は明日を約して一とま 招か ζì 同 2

所を退く頃迄に在籍していたメンバー 思い出すままに列挙してみると、三水公平 入所してから私が三九(昭和一四)年同 北脇昇(故人)、池田治夫(故 (4ページ下段へ続く) を

京都市美術館

winters to the control of the cont

昭和51年8月30日発行

No. 100

# 5

拾ってみると――
に進行している。美術館で開催予定の主だったものを美術の秋をめざして色とりどりの展覧会の準備が静かなおきびしい残暑が続いているが、そのただなかで

村、てきると 村、てきると 村、てきると 村、てきると 村、てきると 村、で、東京と彼の絵の国家質上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家質上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家質上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の絵の国家質上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家質上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家質上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家首上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家首上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家首上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家首上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家首上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家首上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家首上げがこれまた大きらいでで、勲章と彼の絵の国家首上げがこれまた大きらいで、独章とはの絵の国家首上げがこれまた大きらいで、大きのに、大きのという。の巻一般に有名。ドガは大と花がきらいでで、東章と彼の絵の国家首上でがいるまた大きらいでで、東章と彼の絵の国家首上でがいるまた大きらいでで、東章と彼の絵の国家首上でがいるまた大きらいで、東章と彼の絵の国家首上でがいる。

₹ ₹ ₹ 22 20 窠鸿会展 第 27 回 創元展 第一展 第10回現美関西展 三上誠回顧展 水明警道会青少年部警展 大学美術連盟展 第56回平安書道会公募展 全関西学生美術連盟展 リエ児童画展 大 高大生 高大生 小 中 生 生 小 中 生 200 250 300 円 円 円 150 300 300 円 円 円 全国き 100 150 200 100 250 250 円 円 円 無 100 200 250 前 円円円売 200 350 500 円 円 10 30 京都国立近代美術館 5 25 6 27 中華人民共和国 イツの現代陶芸

高大生

150 300 400円円円

100 200 300 円 円 円

小中生

第12回現代日本美術

(無円) (SE) 円

150 350 550 前 円 円 円 売

(月曜休館)

前田青邨展

高大生

200 300 円 円 500 円

小中生

(20円) (200 円)

76第2回公募 昭和美術会展

展

高大生 小中生

500 円

200 300 円 円 (100 円)

新興美術院展覧会

高大生 小中生

月曜日休室

以外の

内は20名以上の団体料金

50 IM 円 円 30 70 円

小中生

高大生

(月曜休館)

古代育銅器层

高大生

40 60 円 円 250 500 円 円 30 40 100 円 円 円 (150 300 円 円 (500円) 九年の一一月に開館になった比較的新しい富本憲吉記念館を訪ねる。記念館は昭和四できたように思う。午後は、奈良安堵村の 和文華館の村田氏のさわやかで歯切れのよた。しかし今回講師をお願いした奈良の大 小径を訪ね歩くにも足許が悪く残念だっったので、道路舗装の行き渡っていない 訪ね、いかるが三塔のうちのひとつ、国宝のように見うけられた。その後、法起寺を ものなので、初めて訪れる会員がほとんど 解説で見学会の充実を一層高めることが

24 24 ~8 /8 第11回関西国展 小中生 生 200 **300** 円 円 (30 250 600 円 円 円

展

覧

숲

案

内

第24回国連ポスタ 京都写真サロン展

栗美二(故人)、吉加江清(京司、東京小石原勉、杉山昌文(故人)、服部勲、

小林勇 (東

東京、

高木四郎、田村一二(滋賀)、松崎政

高大生

小中生

団体料金あり

400 500 円 円

友の会の春の見学会は、五月三〇日の日 その他の人達であった。(この稿続く)州)、奥田仁(岡山)、川元進(願山、奈州野七五三男、山本昌平、 坂本正直

曜日奈良の古寺と富本憲吉の記念館が企画

として名高い。天侯に恵まれず終始雨となある天平年間の古寺で、五重の小塔は国宝海竜王寺も法華寺に同じく光明皇后に縁の 隣接する

の指定をうけているものが多く、

観音立像のほか本堂、

されました。法華寺、

法起寺を

法華寺には、

タと朝風になびく政治的三色旋が見えるの描いた娼婦や踊り子の背景にはハタハ

いうことからすればドカ展が日本の観衆ら讃美される秘密を解明している。こう作品が人びとの心を痛めることなく、専 うである。 たであろうか。答えは、否、なのであっろうか。肝心の彼女達自ら悲惨を意識し 労働下の少女たちは果して悲惨なのであ ところがドガの場合は「此等低質金重 その証拠ならばドガの絵の中 いに迎えられることもまた確実のよ 醜い容貌をし栄養失調に堕入ったの証拠ならばドガの絵の中に一杯

ての展観で、大雅と蕪村の主要作品が紹村に生れた池大雅の没後二百年を記念し と蕪村」展もみものの一つ。洛北深泥池ものでは京都新聞社の企画による「大雅 与謝蕪村は摂津毛馬村の生れ、大雅と蕪村の主要作品が紹 ドガ両展のほかに日本の

> あるが、二人の合作として名高い国宝 ち京都に定住したが、俳諧の道でも大成で、江戸に出て蓍画、漢詩をおさめ、の 知られることになろう。 れを機会に大雅、蕪村はあらためて広く した。ともに江戸時代の文人画の高峰で 「十便十宣帖」も出品される予定で、 ح

ので、 夷など、 つの話題となりそうである が二回みられるというごとで、 あるが、12月には第8回日展が開かれる である。11月3日から28日までの会期で の名作」「帝展の名作」につづく姉妹縹 山口華楊、 裔、福田平八郎、宇田**荻**邨、徳岡神泉 鏑木清方、川合玉堂、伊東深水、 うというもの。予定されている作家は、みを日本画に焦点をしぼって系統ずけよ 主催してきた美術館が、日展三十年の歩 本画の名作」で、 .i画の名作」で、戦前の帝展、文展に続京都市美術館の秋の特別展は「日展日 この名作展と合わせて 今年は 日展 昭和二十一年以降もずっと日展を 三六名。近年開催された「文展物、堂本印象、橋本明治、東山魁 とれも一 小野竹

### 三十回を迎える市民美術展

住、もしくは京都市内に通勤、通学先を持 展覧会である。 つ高校生以上のアマチュア美術家のための 回展以降の ととである。 同展は 京都に 在 るようになったのは、昭和三十一年の第十 展を開催した。美術館が積極的にお膳立す 初、市民有志が自然発生的に集って、美術 いる同展は、ほぼ終戦と同じ時期に歩み始 夏休みが終る頃、恒例になって開催されて 市民美術展は今年で三十回目を迎える。 三十回に 至ったのである。 本展は 最

作品発表のまたとない機会だけに喜ばれて のぞいては、応募作品全部が陳列されると のが個々の作品にみられる。 八十代までにわたり、職業も学生、 いるようである。応募者も年令は十代から いうので、アマテュア美術家にとっては、 入落選を決める鑑査がなく、特別な場合を ナイーブで美術を心から楽しんでいる様子 る 市民の 展覧会 といえよう。 それだけに であるのに対して、 ロあるいは半プロの美術家のための展覧会 美術館で毎年五月に開催される京展がプ 主婦、 本展は 美術を 愛好す 医者など多岐にわ しかも作品は

たっている。

ある。 願いしている。本年度の審査員は日本画は 田道夫、竹中三郎、松永品子、水野一、 桑野博利、橋田二朗、正井和行、 料がないので不明)ほとんど連年続けてお 庄三氏は第十回展以降(それ以前は館に資 画の桑野博利、洋画の竹中三郎、彫塑の岡本 数が減る傾向にある。審査員のうち、日本 同時期に重なったためであろうか、応募点 なことにはここ二、三年、同類の展覧会が いるアマチュア美術家も多いと聞く。残念 も多く、毎年、この展覧会の開催を待って チュア美術展らしい。応募者の中には常連 親しみやすいものに築中しているのもアマ 前後と、技術的に難しいものは敬遠され、 え、日本画が五十~七十点、 で、洋画が圧倒的に多く、二百点以上を数 とと十年間の応募出品数は二七〇点前後 上田弘明、岡本庄三、以上の各氏で 彫塑は二十点 洋画 彫

2



#### 四 $\bigcirc$ 年 牧 (2)源 太

作

画

日夜必ず来られた。そしてひとりひとりの 制作をやっていた。須田先生は毎週の木曜 時迄実技に当てていた。日曜日は昼間自由 その頃は主として週日は午後六時から九

然畏敬的なものとなり、 種種談論が交されることもあった 時に九時を過ぎると先生を囲んで に傾聴すると云う風であった。 るが多くの場合唯黙ってひたすら かも博識なので研究生の態度は自 ッサンを丁寧に見て廻られた。 しかし先生の風格が重厚でし 質問はす

は年一回の独立展に参加出品する れらの連中によって結成された新 研究所の所属メンバー達の仕事 一九三五 (昭和一〇) 年と 日本洋画協会展にこれ

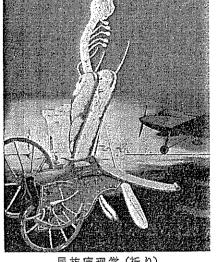
を開催したり、 ととであったが、機関誌「トワ 展を開いたりの自由活動をする は勝手にグループを組んだり個 も年一度出品すること、 太郎その他の方達を招いて話を として例えば土居次義、 ール」の発行や、時たま講演会 一、成瀬無極、園頼三、谷口善 アトリエに講師 その外

文

の傾

ネサンスの講義を 初期イタリア・ル リシヤ美術史や 生にお願いしてギ 聞いたり、須田先

同氏が北脇と同じ町内に住んでいた関係か刊「ニッポン新聞」(中田憲太郎編集発行) ら大変密接になり同紙にメンバー達が次ぎ であった。又、三六 (昭和一一)年頃から旬 聞い たりすること



民族病理学(祈り)

研究所と較べて基本的にはあまり異っては を張ったものである。研究所の空気は他の 論議を発表したが、特に北脇は大いに論陣 次言に随筆や絵、意見を書いた。私も多少 いなかったように思う。絵画理念は写実を 談会が持たれたが私は祖母(京都府中郡大

三笠書房から「近代芸術」滝口修造著が発 年にはアトリエ社から「シュールレアリズ 独立でも福沢一郎を中心にしてとの種の美れ、色々な名称のグループが誕生していた。 行されている。 ズム・エクスプレッ ト」長谷川三郎著、その他「フューチェリ 術運動が現われていた。三七(昭和一二) ム」神原泰著その外が刊行され、翌年には ム」 福沢一郎著、「アブストラクト・ア これらの本は何れもかな ショニズム・ダダイズ

催されたのも昭和一二年のことで り經った信憑性の高いものであっ 滝口修造が来洛、同氏を囲んで座 その殆どは印刷物であったが、資廊で開催。原画はほんのわずかで た。「海外超現実主義作品展」が う。京都開催中北脇などの尽力で との影響も大きかったように思 阪、名古屋で巡回展示されたが、 も適切であった。 引き続いて大 料的にはみるべきものがあり解説 引き続いて京都・朝日会館四階画 ある。銀座・日本サロンで六月、

争の面から把え、 起っており私はその影響下にとれを民族戦 り)」等を制作した。 同年引き続き「民族系譜学」「民族病理学(祈 残念乍らこの会合には出席出来なかった。 宮町口大野在住。私の出生地)の葬式の為 ・独立展に「夜」を初出品、 丁度その頃三七(昭和一二)年私は第七回 それに精神分析学的意味 この年に日華事変が 入選している。

> 譜学」である。続いて描いた「民族病理学」 での胎内空想を纏綿させ、海底らしきもの 大動乱、第二次世界大戦への序曲はすでに 始、第一回「海ゆかば」戦争への、やがて世界 北一輝、西田税の死刑執行。南京大虐殺。 のない妙な気持で私は毎日「系譜学」を描 **啜泣いていたのを間近に聞き乍ら例えよう** された若妻が終日糸を引くような低い声で いた。露路裏の隣の主人が出征し、 められ出した時期である。応召も始まって や防空演習などが町内によってポツポツ始 が、「人心を惑わす」との理由で警官によっ の作品は翌年第八回・独立展に入選した もので明らかに反戦的な作品であった。 破壊された建物、 砲の玩具を譲り受けてこれを観て描いた。 れは北脇の子息の毀れて錆のついている大 を絡ませた作品を描いた。これが「民族系 をバックに擬人化された臓物に糸状のもの 「赤城の 子守唄」(昭和九年) [二人は 若い」 渡り鳥」(昭和七年)「東京音頭」(昭和八年) お客の酔態が夜更けまで続いて 辺から四条あたりにかけてカフェー店が乱 だ自由で恣意な世界があった。河原町三条 初まっていた。しかし反面国内では未だ未 ナチス「頽廃芸術展」「国民唱歌」 放送開 き続けていた。ドイツ空軍の ゲ て撤回されてしまった。焼夷弾の防火訓練 ピカソの「ゲルニカ」「二・二六事件」 骸骨状のものを中心に毀れた大砲 白い エプロン姿の 女給達の 嬌声と 軍用機などを描き込んだ いた「涙の ルニカ爆 後に残

> > --- 3

(四頁へ続く)

作品が若い世代によって次ぎ次ぎに発表さ

〇年頃日本でもすでにシュルレアリスムの

空気が胎動し始めた。私が入所した昭和一 基礎にしたそれであった。しかし新らしい

#### 展 覧 솦 案 内

22 / 10

### 京都市美術館ニュース

水明醬道会展

(一般部展)

京都市左京区岡崎公園

昭和51年10月25日発行

No. 101

#### 戦後の日本画の展開

特別展「日展日本画の名作」 11月3日~28日 (月曜休室)

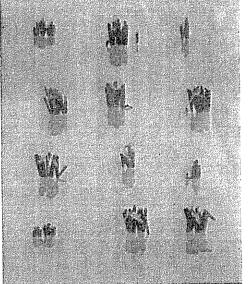
営々と回を重ね、 展」と名を改め、昭和12年には再び

が多く陳列されることになります。

大人 五〇〇円

学生 三〇〇円、

中学生



本画の名作」を開催いたします。 団体が今日ほど多くなかった時代に 設けました。以来他に自主的な美術 国家的な美術振興策として「文展」 で30年の歴史をもつ著名な展覧会の して、いわゆる官制による展覧会を 一つです。明治40年、 今年度秋の特別展として「日展日 「日展」は「日本美術展覧会」の 広く一般から作品を公募 ときの政府が 今年

3回日展 徳岡神泉 作 川田

て広く国民のあいだに浸透しました。 がこれに関心と期待を寄せる恒例の美術展覧会とし ました。そして作家のみならず、 美術愛好者の多く

たのが、今日いう「日展」のはじまりです。 いたりましたが、翌昭和21年名称を変えて再出発し 東山魁夷、福田平八郎、 によって、 らをうけて一定の高い水準を示した「日展」の作品 道筋を示す特別展を企画してきました。本展はとれ といった、明治、大正、昭和に至る日本画の大きな れまで当館は「文展の名作」「帝展日本画の名作」 れてきたことはよく知られているところであり、 要な部分がこのような伝統的な流れによって形成さ れています。とりわけ近代日本画の発展と展開の主 はり官展以来の永い伝統とによって一般によく親ま た最大の綜合美術展であり、その大きな組織と、 画壇を代表する35人で、記憶にのこる名作、 辰雄、堂本印象、 ものです。出品作家は伊東深水、 昭和20年折から戦局悪化のため休止のやむなきに 戦後日本画の展開の一端を見ようとする 洋画、彫塑、工芸、書の五部門を擁し が主催する一在野の展覧会です 山口華楊ら戦前戦後の日本 今日で

同志社大学16年展 第61回院展 小中生 高大生 200 円 500 円 350 円 (畿円) (250 円) 150 円 300 円 450 円

全市子ども会自由画美術展 ひまわり会子供ア

第14回具現展

小中生

24 } 26 16 ≀ 17 20 ≀ 23

100 200 300 円 円 円

26~10/21(26日は午後から) 常設展コーナー (月曜休室) ル展 50 円 700 円 100 円 (ME) 30円 円 70 円

シャガー

第2回京都デザインアンデ

北京秋光

中澤茂中国油

シェル美術賞展

第24回光陽会関西展

昭和51年度幼児、児童 生徒作品展

のである。

昨年度は本館南第一室と第二室に、

第10回新京都美術展 第23回日曜画家展 第3回堯美術展

200 **3**00 円 円

京都国立近代美術館

高大生

12 ∤ 17

第18回墨彩美展

女流陶芸第10回公募展

8:14~9:19 (月曜休館)

異色の水墨画家展

第19回新象展

無

前売 料

高大生

150 300 500 円 円 円 100 200 400 円 円

100 200 100円

今日の造形

60 円 (44円)

40 円

20 H)

(月曜休館)

新ケースは壁高3.5円、

場以外でもラジオや蓄音機で流され広く大 (昭和一〇年)などの流行歌がそれらの盛 ピプペポ。うちの女房にや髭がある」歌手 衆の間に浸透し歌われていた「……いや、そ (昭和一〇年)「うちの女房にや髭がある」 パピプペ、

(との稿続く)

連合)したら一体どうなるのであろうか。 されていた 歌なのだ。 杉狂児と美ち奴によるこの歌は私にとって 歌と、この二つのものがコムプレクス(観念 女の 啜泣きと との

### 新しい展示ケー スできる

見よい、陳列映えのする明るいものに 使用されてきた陳列ケースを、 ことになり、これを機に、すでに永く ら「常設展コーナー」を新たに設ける しようということから、新設されたも 「平常隙列」を名称変更して昨年度か ケースがお目見えした。 これ までの 当館の常設展コー もっと

が開かれたが 延べ51mのケースが設けられ、 よって第一回目の「常設展コーナー」 ースが増設されて、コ このたび第二室に、 (2月20日から3月37 残る21mの とれに

また前面は腰張60回の上に厚さ

目にやさしい明るさで、 の会場照明も、 るよう考えられている。またケース外 クルーバーによって光が一様に発散す は、新しい試みである。照明はエロワッ 部にも一箇所作品の出入口を設け、 少限にとどめられた。側部に加えて前 さらに、自然光を全て遮断し、 きなかった点は、 の温・湿度調整を、 できるよう工夫された。 ったものを、間接照明にかえて、 トの螢光灯を三灯並列し、 ース内に可動の床パネルを敷込んだの これまで直接照明であ 難しい条件が重なっ ゆっくり鑑賞

**— 4 —** 

潔

期を経て円熟期に移っていこうとするシ 界大戦の前後というのは、彼の芸術の完成 のことである。この時に出陳された作品と 38年に日本で初めて催され成功した回顧展 世界大戦後の制作によるものばかりである 作によるものばかりだった。この第二次世 いうのが、実は第二次世界大戦前までの制 のであったという意味でもある。シャガー のもうひとつの展覧会と極めて対照的なも 出陳された作品の全てが、 ルのもうひとつの展覧会というのは、昭和 という事実と、 ともいうべき内容のものだった。それは ふりかえってみれば、「シャガー 今回のマルク・ 内容的にみて、シャガー 例外なく第二次 ルの展覧会は、 ルの戦後」

然としたひとつのシャガールの世界の印象 は 主題に若干の異相はあれ、 殊に今回の展覧会のような場合、会場は、 うなことはない。その意味では、シャガー との時期から大きく転換していくというよ もなっていく。勿論、 九四八年であり、 ルとい なからぬ事件のあった時期でもあった。 ルは変貌の異差の少ない画家でもあった。 ともなった愛妻ベラを失っている。 リカからフランスに戻ってオルジュヴェ 一九四四年に彼は、 60才代という人生の老境への始まりに ルにとっては、 う地に定住するようになるのが、 人間シャガー を与えるに充分な作品群 彼自身の人生上影響少 シャガー 常に彼の芸術の根源 全体としては渾 -ルにとって ルの芸術が またア

創生記 タピストリー 支えている人間的な深み 描き得る自由さに満ちた 作品群なのだが、ややも 老域に立ち至って初めて 革命とロシヤ系ユダヤ人 で埋めつくされていた。 ってシャガールの芸術を すると、 てきた芸術家が、 という宿命とを生き抜い それらは、二つの大戦と 作品の背後にあ 人生の

> 38 年 終ってしまうのなら残念な気がする。昭和 本に寄せたメッセージに見てとれるような 38年の回顧展の折に、シャガー かし、 のが、 回の展覧会である。逆説的に言えば、 ういう皮相なシャガール体験でよしとして 幸せだけをみて羨やむのにも似ている。 は未経験な人が、若い時代に多くの苦労を 若い女性のための詩の雑誌を想起させる。 ある内容を見過してしまいそうなのが、 しまうのもあながち否めないのだが、昭和 してやっと老年の幸せを得た人の、 ら見てとったらそれでいいとさえ言い得る ラバラなイメ という言葉によって換起されたそれぞれバ の詩情」(これだけをとりだせば、今流行の の展覧会に冠せられていた「愛と夢、 セージを送ってきた。 76才のシャガールはほぼ次のような 今回の展覧会に関する限りでは、そ 今回の展覧会であっただろう。それ ルその人の深い思想に気づかずに ージを、 シャガールの作品か ル自身が日 老年の 色彩

の夢として語っているのはやや抽象的で解 たいと思うのです。」(シャガール展のメッ についての私の夢を、みなさんに打ち明け セージから)。ここで、 人生、存在したものと存在しなかったもの ての私の夢、この世の人生とこの世ならぬ しい時代です。だからこそ私は、ことさら ただ個性のない後笑が、我々の目の前にカ ーテンのようにたれ下っている、 「現代は、感動がすなおに涙にならず、 自分の作品を日本に送り、芸術につい シャガー そんな悲

れるかもしれない。 しい運命を見てきた魂の告発として表現さ ない苦脳の表現として現われるかもしれな るものではないだろう。それは、未だに生 こうなんだと具体的なイメージで指摘でき できない類のものであるだろうし、 情」というふうに並べてしまえるような甘 言われているような「愛と夢、 りにくいが、 もの」とは、 ことができるだろう。 シャガールにとって ったるいものではないことだけは窺い 「この世ならぬ人生」と「存在しなかった ロシャ系ユダヤ人として同胞の痛ま 恐らく、 生まれ故郷の人間として帰れ 実に痛切な意味を持っている 少なくとも、 それは私たち誰も共体験 今回の展覧会に 色彩の

それは

知る

用したシャガールのメッセージとそは、 者こそ今回にはるかに及ばなかったが、 約四〇〇点に近い、前回の回顧展は、 品から、油絵、グワッシュ、パステルなどでは、シャガールの一九○七年の初期の作 あるものだということも附記しておこう。 さにこの今回の展覧会の出陳作品の背後に の戦前の作品に触れるように希いたい。 接していない人は、機会あればシャガ 品から、油絵、グワッ りしてしまうのを恐れるわけだ。その意味 のシャガール展によってしか、彼の作品に る内容のものであった。不幸にして、 みる豊かな詩情性を、単にそれだけと素通 ともあれ、 ルの芸術の本筋を系統的に理解させ 今回の展覧会のシャガー パステルなど 入場 ルに 효 シ



画 四 0 年 (3)

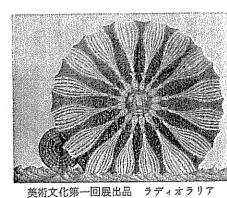
牧 源 太

大きなカーブを描いて日本は雪崩をうって 廻り、時代は激動する。戦争へ、戦争へと 義的侵略の路線はすでに敷かれた。車輪は 術協会が結成され、 品者のシュル的傾向の作家を集めて創紀美 墓子の二人が樺太国境を越えてソ連に亡命 傾斜していったのである。杉本良吉、岡田 所からは北脇と私のみが参加した。私達は 術文化協会が結成された。この場合も研究 張りシュル的傾向の作家達を基幹とした美 を退会したのを契機に同氏を中心にして矢 した年、三八(昭和一三)年四月独立展出 動と静 (昭和一四)年五月福沢一郎が独立 戦争と平和の犇めく中で帝国主 北脇と私が参加した。

生の自宅を訪問した。幸い先生 退くに当って私達二人は須田先 からも雕脱したのである。身を そして毎年出品していた独立展 ここで長年馴んだ研究所から、 勘丁重な態度とがよく調和し<br/> の理解力ある寛容さと北脇の際 て、挨拶は至極あっさり済んで しまった。 あとは雑談である。

> 都研究所とは永遠に袂を分ってしまったの である。そして私達の美術文化協会の歴史 が初まる。美術文化の第一回展は四〇 â

時点で独立美術京 何れにしてもこの えている。しかし 頂いたことなど憶 音籍などを見せて 近着のスペインの



創立され、 回展では大きな混乱が起った。 体制と云うことが喧しく喧伝されるように 月近衛文麿首相を総裁にして大政翼賛会が 術館)で華ばなしく開かれたが、同年一〇 和一五)年四月東京府美術館(現在の都美 ったが、翌四一(昭和一六)年四月の第二 なった。しかし第一回展の場合は未だよか 文化部長に岸田国士が就任、新 と云うのは

> 時に検挙されると云う事態が起り、下手を 初めた。にも拘らず二回展には前記研究所 衛精神はこの時を転機として下降線を辿り たが、会員どうしの相互審査は会員間の不 た。展覧会はそれで一とまづ無事に開かれ だと思われる作品のみを陳列することにし 員どうしが会員の出品作品を審査し、 無難 云う不安が会員の中に起った。その結果会 すると美術文化も渡されるかもしれないと 修造、作家的中心人物福沢一郎の両氏が同 三月シュルレアリスムの理論的指導者満口 生した。 踼 元の二人に帰ってしまった。同年一二月ハ 束の間、徴用、 都も少し賑やかになったが、これもほんの 京に移転していた)等が参加しており、少 石原勉、三水公平(その時はすでに彼は東 のメンバーの内、吉加江濱、田村一二、小 信を深めて行った。今迄高揚されていた前 のこと米英を主敵とする第二次世界大戦、 ワイ真珠湾攻撃が敢行され中国はもとより し遅れて原田潤も加盟して来た。これで京 臨地指導をおこなう研究会などが数多く誕 など県や府の主催で催されることが多くな た。日本文化の顕揚として史蹟の臨地講座 太平洋戦争の幕が切って落された。国威宣 った。民間人の郷土史家などが講師として 八紘一宇、大東亜共栄圏が叫ばれ出し 応召でアッと云う間に又、

私は絵を描き初める以前に哲学や唯物弁

証法、仏教教学や老荘、絵を描き初めた頃 彩色したものを沢山描いていられたが、そ 会」源豊宗指導の会にも入会して、 臨地見学や、愛好者同志でつくった「天平 云う月刊学術誌刊行)に入会、同氏指導の 会 (主幹・ 出席するようになったが、 その当時催されるこの種の会合には勉めて 美術史の方へその関心が深まって行った。 たがってこのような状勢のもとに自然日本 か全くと云ってよいほど無知であった。 が、日本の古美術についてはどう云うわけ には精神分析学などを多少嚙ってはい 術的な立場から方眼紙に正確に写し採られ も持っているが、およそ二〇冊ぐらいにな 会を足場にして特に仏教美術を一と通り学 りの名称で充分正しいとは云えないように 七月頃迄続いており、 空菩薩図」などを出品している。このよう 三回展にはそのせいか私は「如来図」「漂 のことである。四二(昭和一七)年五月 の一部を拝借して写したりしたのもその頃 る。天沼俊一博士は古社寺の紋様をその学 ぶことが出来た。その時のノー メモを取ったものである。この二つの研究 思う。ある程度迄儀軌は守っているものの な仏画的時代は戦後の四六(昭和二一)年 「仏画的時代」と云っているが、これは仮 川勝政太郎、 との時期を自分の 「史迹・美術」 史迹・美術同攷 トを現在で 熱心に た

(四頁へ続く)

美術文化協会結成

A CONTRACTOR OF THE STATE OF TH

京都市左京区岡崎公園

昭和51年12月1日発行

は、肯定形否定形、

毎年話題には事

は今年も話題となることでしょう。

日展そのものにまつわることで

そういう期待に応えて、

恒例の日展

No. 102

今回の総搬入数は、七、〇六八点だそ 大きいことでまず人を驚かせます。欠きませんが、何と言っても規模の 第五科の書が作品の規格を変えたこ 六点の減になっています。 うすが、これでも前年よりは一、一五 とで減少したことが影響しています 山里 岩倉 寿



は、今回もいくつかの受賞展覧会の実際からいえば、

八人でありがすが、そのうち岩倉寿、坂根克介、河村源三、川島睦郎の四今回もいくつかの受賞作品があって、気を吐いています。日本画の特選覧会の実際からいえば、京都の方が見易くもあり実もあります。京都から

人が占めています。他に京都、

滋賀からの特選受賞者は、

#### 第8回

12月15日~1月16日

に全体で一九〇点ほど撥入は増えています。それぞが、他の日本画、洋画、彫塑、工芸でみれば、反対

端があるのでしょう。 三六、賽、三、一五一―四二六です。これらに委嘱出―三一六、彫刻、二九九―一七五、工芸、八五七―四日本画、 撥入六八六―入選二三二、洋画、二、〇七五 があるとはいえ、そのへんに日展に対する論談の発 長く占有する勢いが、まずととにあるのでしょう。い東京都美術館の全体を、他の団体よりははるかに 品や会員、評議員の出品がかなりあります。あの広 れの撥入数と入運数の数字は次のようになります。 加えて鑑賞に訪れる人もまた多く、 官展以来の伝統

帽子の女

えてから、

社団法人となってから数えれば 六日まで(十二月二八日から一月四日までは休館)、当館で開会は、今回で第八回を迎え京都展は十二月十五日から一月十 こないという人も少なくありません。なければ、年末・正月の気分が湧いてになっています。京都でも、日展を見 かれます。かつての共同主催者であった日本芸術院と分離し、 万展に巡回していくのが、日本の美術昇のひとつの年中行專 「日展」という通称で一般に親しまれている日本美術展覧 秋の最後の公募展として、 基本作品三三〇点前後と地元作品とによって、地を最後の公募展として、東京の会場をにぎやかに終 十九回目の日展になります。

坂根克介

、京都の方が見易くもあり実もあります。京都から分の1ですが、主要作品はすべてふくまれており、東京での総陳列数二、二三三点に比較すれば、約4 東京での総陳列数二、二三三点に比較すれば、約4の双方を合わせて、五八二点ほどが陳列されます。 それはさておき、 京都展は、基本作品、 地元作品

山田良定、工芸、潮隆雄、奢、 大人 五〇〇円 (四〇〇)、なお入場料は次のとおりです。 中島皓象・池田桂鳳らがおります。 ( )は団体料金。大人前売は四〇〇、高校・大学生 四〇〇円(三〇〇)、 大人前売は四〇〇円です。

会案内

展

覧

10 /24 / 新制作展

絵画・彫刻 高大生 大 600 円 15円 (18円) (配円)

100 円 前壳

創画展

小中生 20円 (10円) 300 円

・ ドガ展 12 10

パステル画、素描のほかに彫刻も多 く出品されます。 ガの回顧展で、

16 / 21

染織X展

第 11 回

現代児童美術研究会展

無

料

踊り子の絵などの名作で知られる

ガ

会期

11月7日~12月10日

(無休)

18 7 28

76 自由美術展

高大 大生人

小中生

200 300 円 円 400円

100 200 300 H H H

入場料 高大生 大 五〇〇円 (団体、前売五五〇円) 100H 三五〇円

小中生 二五〇円 一五〇円

大谷大学美術部8~11

(自主休講展)

無

料

11.23~12.19 (月曜休館)

京都国立近代美術館

開館は午前9時から午後5時ま ただし入場は4時30分まで

12 *\*14 不思議の国

無

料

キュビズム展 高 大 生

三〇〇円 五〇円 五〇〇円(三五〇円) (一五〇円)

特別展 **~28(月曜休室)** 日展日本画の名作 高大生 200 300 500 円 円 円 (麗田)

18 } 28

第30回 二紀展

高大 大 生 小中生

150 300 500 円 円 円

云えばそれは最早仏画とは云えないことに

な発想が隠徹の内に混在しているのであ 抑圧された形で至って微分ではあるが自由

(三頁のつづき)

る。礼拝の対象としての仏画の正統性から

小中生 100 **200** 円 円

高大生 小中生 200 円 400 500 円 円 

30 12 / 11 独立美術展

も知れません。 ( ) 内は20名以上の団体料金

高大 大 上 人 小中生 250 500 700 円 円 前売団体 (50 300 500 円 円 円

30 12 /3

会期・点数については多少変更があるか 京大・京女合同展

小中生

第61回 二科展 学 小中生 生 人 250 400 500 円 円 円 150 300 400 円 円 円

学 大 生 人 250 400 500 円 円 円 (100 円 円 300 400 円 円

300 400 円 円

聞に発表する次第となった。ここに於て画 の年は中止となった。他の公募団体の場合 展で終幕、翌四五(昭和二〇)年戦争最後 にこの世に生れて来たのである」などと新 強化されていった。翌四三(一八)年京都 では」の標語が掲げられ戦時体制は極度に た。藤田嗣治などは「私は戦争画を描く為 っと国家目的にそう仕事を直接手掛けるべ 別に区別し、配給量を制限するのである。 配給統制などが行われ出した。画家を等級 でも京都洋画連盟が結成され、 きである。」 などと云う 言論が 現われ出し 「戦争画を描かない画家は、絵筆を捨ても との三回展の年「欲しがりません勝つま 美術文化は四四(昭和一九)年第五回 洋画資材の



京

すなわち、踊り子たちであり、洗濯女たちであ術においては女性が重要な要素を持っている。 説には女嫌いだったともいわれている。ドガは非常に気難しく、一生独身を選 単なる脇役にすぎなかったが、 会の底辺を形作っている人間群像が、それまで な古典主義的な画風に属していたといえる。 につけて、どちらかと言えば、 ルという古典を師匠として学び、 八七〇年以降のことだといわれている。それま る。彼女たちが彼の芸術に登場してくるのは一 社交嫌いなわけでもなかった。それにドガの芸 が彼の生涯を彩った女性も結構いたし、 一八七〇年代といえば、 彼の興味も大都会の民衆へと惹きつけられ ドガもゾラたちと接触することによ くるようになってきていた。時を同じ 庶民、大衆、つまりパリという大都 そして彼はことのほかバ ルランダイヨ、アング フランスでは文学に 一生独身を通し、 主役として度々 オーソド その技法を身 決して -ックス

育い踊り子 ∳% 女性とは正反対で、 とも見逃がさず 稽古に汗を流し、 たのは、舞台で脚光を浴びて るのであろう ドガがもっとも興味を持ってい好し、オペラ座へ通いつめたと 動き、 舞台の裏で激し

いる踊り

えない。画家はことごとく踊り子たちの個性を

彼女たちを動く道具としてみる。彼女たちは悲

しそうにも辛そうにも、

まして幸せそうにもみ

子

を展開する。ドガは彼女たちのそのよ もそれは刻一刻とめまぐるしく変って をつく彼女たちの姿であった。彼女た ようとする。ドガの踊り子たちはルノ うな動きを長上の美として、 ちの華奢な姿態のどとから創り出され ルの絵に登場する豊満で官能的な 人間の肉体の可能な限りの動き 冷酷なまでに追求し ホッと安堵のため息 舞い、 しべ 一瞬たり

ャンバスの上に、紙の上に、再現させる。ものなのだ。画家はそれを十分知り尽して

分知り尽して、

コスチュームがライトに照らされて、

微妙な

美· し・

へ出て来てはいけない。それだけに踊り子その

没個性であって、

あくまでも人間が表

その他大勢である。 群舞の 舞姫た ちはあくま

彼女たちはソロの踊り手ではなく、群舞の

スンの厳しさ、激しさ故なのか。それとも気難声や笑い声を画面の中ではたてていない、レッ

一人であっても群像であっても、彼女たちの嬌の明暗を美しく際だたせている。踊り子たちは

陰影を帯びる。

パステル独特の色の鮮かさが光

動き の代り画家の目は彼女たちのちょっとした体のていえば踊り子らしい顔とでも言えようか。そはほとんどといって良い程、特徴がない、強い の何物でもないのだ。踊り子は正にドログでもなければ、人形でもない、踊り子以外 肉体は、 顔と手足、 ッドと同様なのである。白粉で白く塗られた **律動する姿態、 贅肉をつける余裕などない** 踊り子以外の何物でもない。彼女たちの顔 筋肉の緊張、弛緩にも細心の注意を払 ドガが愛好した競走馬であるサラブ 薄いコステューム、やはり彼女たち

トを得たものといえよう。

とれ

左

右に片寄

**— 2 —** 

う。

な<u>り</u>下 <u>ئ</u> فر ない。かりに同情を示そうとすれば、うともしなければ、理解しようともし の頃の踊り子たちはそうであったろ 示す美しい動物 ドガはかえって感傷的な三文絵かきに ガは彼女たちの貧し ガにとって、 ったかもしれない。 女らしい恋の悩みも、 馬と同じなのだ。

との上なく美しい動きを い生活 (多分と ただ画家は 知ろ 踊り狂っているのである。 (当館館員)ずる以上に生き生きとりズミカルに画面の中でその漸新な構図によって踊り子たちは舞台で演 らは浮世絵からヒン をもたせる方法、俯瞰的に描かれた群像、 せて置く構図方法や、斜めの線によって奥行き う。人物を中央に配置しないで、左、右に片寄ドガは浮世絵の熱心な愛好家であったとい まっているのか。 がが彼女たちのお喋べりまでも封じてし

ガ展は十二月十日まで

バランスをとる踊り子

年には毎日新聞社

性」小牧。「無意識世界」北脇。

「シュル

した。講師は「シュルレアリスムの必然

作

画

四

源 太

団体協議会後援で市民文化祭が催された 研究発表したり、その頃発足した京都文化 研究会をつくり、 った。私達は四六(昭和二一)年美術文化 が指導原理として高く掲げられるようにな 義者や共産主義者達が解放され、民主主義 それと同時に戦時中弾圧されていた自由主 手に直接英語を話す日本人達)が生れた。 脱と闇屋とペラペラ人種(アメリカさん相 次世界大戦は日本の徹底的な惨敗で終結 **象派への展望」北脇、「ダダイズムよりシ** 一九四五(昭和二〇)年八月一五日第二 ことに平和は甦えったが、 その時昭和二一年には「立体派より抽 毎月一回テーマをきめて そこには虚

性」下郷羊雄、「人間性の美術」 牧。二二年には「美術の可能 外自由美術協会と組んで地元作 大丸でモダンアー 家の作品を集めて二回ほど藤井 家以外に両会の目ぼしい前衛作 小牧などが講演している。その ュルレアリズムへの展望」小 いたりした。四七 ト展などを開 (昭和二二)

は私達が今迄描いていた作品をセレクトし

会展を二月末開いた。(出陳者五名)。これ

て巻き起ったマルキシズムとシュ

ストの間で人民戦線を契機とし

て自己を検討し、今後の姿勢を再認識しよ て展示したもので、その時期の時点におい 活

Ø

美術会がつくられている。私達は京都大丸 都支局による京都 元では毎日新聞京 かれているが、 術団体連合展が開 主催の第一回・美 地

についてではなくいきなりエクジステンシ

の三人であった。北脇はベルングソンの笑

レアリスムについて」三高教授、伊吹武彦

についてしゃべったが、伊吹武彦がシュル

六階催場で相当規模の大きい美術文化研究 たのには聊か驚いた。参会者の殆どすべて ニアリスム (実存主義) について弁じられ

私はと

边楼罹災(A) 昭和22年第7回美術文化展 吐」の訳が出版されているので驚 その前年一二月にサルトルの「嘔 てとを知ったのである。もっとも の時初めて実存主義、サルトルの がそうであったと思うが、 響を与えたようだ。 に参加)などには多少の思想的影 の後の北脇や下郷(戦後美術文化 動としては発展しなかったが、 れない。とも角実存主義は美術運 く方がむしろ馬鹿であったかも知 ところで戦前四欧のシュルレア

長三郎 丸木位具 (日本画)、 術会なるものを五月結成した。赤松俊子、 危機が爆発、共産系作家が脱退して前衛美 に起った。かねて美術文化に内包していた ルの問題が遅まき乍ら我が国でもとの年遂 (彫刻) などである。又、麻生三郎、井上 佐田勝、 **糸園和三郎**、 山下菊二、井出則雄 吉井忠など,

> 究会からは離れてしまった。私にとってマ 会をつくったので自然とのマルキシズム研 分室主任と言う形式で京都精神分析学研究 神分析学研究所(所長・大槻愙二)の京都

ルキシズムとは、嘗つて過去に接触したこ

とがあり、

この機会にもう一度再確認、

肝入りで京都支局の毎日会館で講演会を催 性質のものであった。その時京都美術会の うと言う謂わば回顧と展望と言ったような

辰也、 後からこの頃にかけてマルキシズムの研究 第七回展には大幅な内部組織の変更が行わ 年長者であった。一年間ほど欠かさず出席 会に入っていた。毎週一回夜百万遍あたり でその為か奈良本指導のマルキシズム研究 会 はかかる背景から生れたと言うことが出来 年の「クオ・ヴァディス」「抛物線」など 極的に働いた。直線コースでマルキシズム 飾るようになり、 太郎の「戦闘的唯物論」などが彼の書棚を 聞に漏れず研究会に参加していた。大森義 の研究会は数多く生れていた。北脇も御多 熱は勃然として起りきわめて盛んでこの種 れた。北脇や私は動かなかったが、終戦直 が自由美術に走った。この年の美術文化 ほどいたがその殆どは大学生、私が一番の の本屋の二階で読書会を催していた。十人 よう。私もその頃北脇と共に「日本史研究 へ入るほど簡単ではなかったが、昭和二四 したが、翌四八 (学術誌「日本史研究」発刊。 奈良本 林屋辰三郎その他)に入っていたの (昭和二三) 年私は東京精 職場美術の指導などに積

京都市左京区岡崎公園

昭和52年3月1日発行

No. 103

昭和3年 <菓 菓>

また印象の日本画の作品の場合も、

3月29日

4月20日

共同主催で「美の巡礼」堂本印象展」が開かれることになった。昭和四十八年二月に京都市主催の堂本印象展が当 館で開かれているが、 日本画家堂本印象氏は昭和五十年九月逝去されたが、今回近畿放送、日本文化財団、 連続しての回顧展、遺作展は非常にめずらしいことである。

京都新聞社および京都市の

民、さらには文化勲章受章という画家としての 作品をのこした堂本印象自身の業績によるもの これは芸術院会員、日展顧問、京都市名誉市 すぐれた

品されるところにある。洛北衣笠の堂本美術館 だけその全貌を明らかにすることに主眼が置か されていることに一驚するが、本展でもできる をみた人は、美術館自体が印象が設計装飾した スリー(織物)陶芸、ガラス絵、木彫なども出 調度などの多面的な「印象芸術」によって満た 今回の遺作展の特徴は絵画だけでなく、 陶磁器、金工品、 日本画、油絵、 さらには家具

(いずれも月曜休館)

展

覧

숲 案

小高大 中生生人 250 500 700 円 円 前売団体 150 円)

様であったが、人間存在における実存性に

てみる為であった。精神分析学の場合も同

欠かすことの出来ないものであった。その ついてシュル的志向性の強い私にとっては

結果が上記の精神分析学研究会となったの

11 /30 11 第 61 回

250 400 500円円円

300 400 円 円

第九回

第八回 日展 第八回 日展 15 **1 1 1 28 1** 

(150 円 300 [7] (銀円)

400 500 円 円

(300 円)

300 円

19 ∤ 23

京都市立日吉ケ丘高等学校美術コー

月

京大・京女合同展31/30~3

25 第 2 列 2 回 2 第二三回 警察美術展25~30 第三文明展

200 £00 500 円円円

(100 300 400 円 円 円

28 常 え 変 30 ア

ュビズム展 小中 生 生

(前売団体割引あり) 小中生 二五〇円 小中生 二五〇円

京都学生謇道連盟展

年から四八年にかけて稲荷さんの絵を描い

った。「稲荷信仰の精神分析」。私は四七

である。八月、第一回研究発表を公開でや

( )は二〇名以上の団体料金。会期・点数については多少変更があるか

楽寺(西寺)の本堂、三重塔はいずれも国宝に指定されており、

数々の重要文化財を拝観する中 心おきなく古寺を後にしまし

静かなたたずま

名で近江路の古社寺と関ケ原の鏡乳洞を訪ねました。長寿寺(東寺)の本堂、常

さる一〇月一七日友の会は秋の見学会を行いました。

今回は参加者は約一〇〇

見学

ビエンナーレ展東京国際版画

拝をすませ、その後バスは東海の奇勝といわれる関ケ原の鐘乳洞を訪れ、 の予定を無事終えました。すばらしい晴天にめぐまれた見学会で、

へ参れ……」で名高い多賀神社へ到着しました。参集殿で昼食をし、それぞれ参

ふたたびバスは名神ハイウェイを走り、彦根へと向い、

参加者は井上先生の説明に熱心に聞き入り、

22 タッペン展 立命館大学美術研究部ア25~30

京都薬科大学・京都工芸繊維大学25~30

再興しこれを継承発展させようと言うもの 年九月二五日のととであるが、これは戦前 AAN) が結成されたのは四七 (昭和二二) ていた。私の所謂「民俗学的時代」の初め ととが出来るが、 から前衛運動をやっていた作家達を総動員 したもので戦前の夢をもう一度と言うわけ 日本アヴァンギャルド美術家クラブ とれらを打って一丸とし シュル系に二大別する



大正13年

多彩な画風が花を開いているのであるが、 していった結果でもある。

でもいうか気持が非常に純粋である。 和三十九年には大阪聖マリア大聖堂の壁画 は仏画だけにとどまるものではなくて、 めだろう」と述懐している。印象の宗教画 が何か大きいものの中に入り込んでいるた 仏画制作の場合は最初から自分というもの くが仏画を描いているときは行に入ったと 山水画、人物画、仏画といろいろのものを描 「栄光の聖母マリア」を完成している。 私は画家として花鳥画、

や無常感と無関係ではないだろう。 象の華麗な作品の中に、やさしく憂いをふ のとのような心情は生き続いているはずの だけに限らず、すべての制作を通じて印象 くんだ悲愁が流れているのは印象の信仰心 ものである。美しく構成され満ちたりた印 に受取ることができるが、 敬虔な信仰心から出た言葉としてごく自然 気持が純粋であると告白するのは、印象の とういう<br />
基本的な<br />
調子の<br />
うえに、<br />
印象の

彫刻家でもあったし、

シャガー

ルは油絵と

ルノアールやドガは画家であるとともに

ともにリトグラフやステンドグラス、タピ

印象の画風の展開をすとぶる活発なものに 洞察は及んでいて、その該博な見聞知識が 中近東、ヨーロッパの美術についてもその

しているのである。

<del>-</del> 2 -

鞠図」には近京風ともみえる宮延の趣好が ものからより多くのものを学び、摂取蓄積 とともに、古今東西の美術や文化の与えた この多彩さは、印象がじかの自然から学ぶ 二、三の例をあげると初期の出世作「調

現われており、 続く帝国美術院賞受賞作の

て「ともかく宇宙の大真理と合致している

信仰には信念の持ちえない安心がある

印象は「信念と信仰」という文章におい

昭 母」はいわゆる鬼子母神をテーマにしたも の聖像をおもわせるものとが二重映しに現 な曼荼羅形式がとられる。さらに「訶利帝 たっており、土佐、 われるといった具合である。 ものだが、 ので、西洋ではインドのマリアといわれる 「華厳」には密教美術研究にもとずく壮重 印象の研究は古今東西の美術と文化にわ

ここでは仏画と西洋ルネサンス

ところで印象が、仏画をかくときに最も 仏画制作の場合

渉猟して摂取している。また中国、インド

**琳派、浮世絵、円山四条の古画を実見** 

狩野、仏画、

<坂>

信仰をもった人のやわらかくやさしい悲愁

に似たものを多くの人々の胸に刻みつける

の巡礼者であった印象のあまねく足跡と、

あって、自己の回りに創造のコスモスをつ

い。堂本印象もそういうタイプの芸術家で

くり上げた。今回の堂本印象展は優麗な美

画にも手をのばし、創造の領域は大変ひろ

スリーを制作し、

ピカソも彫刻、

デ タジリ等)、アンフォルメル(サム・フラン れまで復興派の持っていた戦前体質の冷い なくアンフォルメル(非定形)であった。 覧会の焦点となった最大のものは云う迄も 「碌けになった馬神」を出品したが、この展 され、国内からも五八名が参加した。私は の現代を代表する各派の作品七六点が展示 チュー等)他に漫画家スタインベルグなど シス、フォ に於いてアンフォルメルの一大旋風が巻起 抽象に対して戦後派の熱い抽象が叫ばれ出 ァザル等)、 ったのである。そして誠に奇妙なことに何 って前衛の主流を占めつつあったが、こと セリグマン、ラム、カルダー、 これがアクションペインティングとな ザオ・ウォ・キー等)、 ートリエ、デュビュッフェ、マ シュ ルレアリスム (マン・ 抽象主義(ヴ アルプ ۲

で開催。この展覧会では非具象(シュナイ

ことになるだろう。

で実現しない。ともかくこれらの襖絵は印 れたが、残念ながら陳列室の広さとの関係 まったままの形式で陳列することも考えら などが予定されている。

これらの複絵をちょうど寺院の部屋には

する特色ともなったようである。

智積院の「婦女喫茶」法然院の「香雲満堂」 翻寺の「桜花と杉樹」 平安神宮「水村帰魚」

仰心が寺院の襖絵と自然に結びついたので

宗教的情感は印象の作品を一貫

く植付けられたという。印象のこういう信

今回はそのうち東寺の「日輪山嶽図」醍

現代画家として随一である。

信仰心の篙い家庭に育ち、

堂本印象に関する伝記によると、

印象は

られて神社や寺に行き、

礼拝合掌の念を強

祖母や母に連れ

前提になるが、

印象が彩管をふるった複絵

ととを示しているが、 今日、

絵巻や襖絵を

制作する画家は珍らしい。ことに襖絵の場

社寺仏閣などから依頼があることが

の伝統的な形式を生かしながら制作された どすとぶる多彩で、印象の作品が、日本画 装以外に絵巻、

軕

杉戸絵、

、屏風、

複絵な

### 源 太

模を持った前衛美術展であった。ことに復 で第一回展開催、戦後初めての全国的な規 和二三)年二月から三月にかけて都美術館 鈴木治らによって前衛的陶芸 評論家四名。翌四八(昭

れたが、

出したのである。同年京都では八木 た。朝鮮戦争が勃発しレッド・パー る。読売アンデパンダン展開催、日 年)には日本画出身者達の前衛集団 集団「走泥社」、四九年(昭和二四 興と共に新らしい美術の胎動が鑑き ジが初まったとの年、五〇(昭和二 本美術家連盟の設立もこの年であっ 「パンリアル」などが結成されてい 五)年八月イサム・ノグ

ej,

6

ははなはだ複雑な心情でいたよ の芸術とでも言うのか、 うであるが、軽妙酒脱な、軽み ていたので、彼に対して実際に もみじめな生活を余儀なくされ のように迎えられたノグチに対 チ作品展が開かれた。凱戦将軍 して日本の前衛作家達は余りに 私は彼

活

 $\emptyset$ 

動(承前)

日本で展示されたのはこれが初めてではな かと思う。爾後サロン・ド・メエ流の作 63

二(昭和二七) 氏を偲ぶ会」が催された。美術文化でも五 る。二一日葬儀。翌年の一月五日「北脇昇 からその姿を永劫に消してしまったのであ することが出来なかった。そして私達の前 彼は二回病に倒れ、二度目には最早や再起 日永遠の探求者北脇昇が逐に死んだ。戦後 品が暫くの間流行した。この年一二月一八 乓 第一二回展で遣作二二

って五一(昭和二六)年東京、京都で開か 海外の作品が組織的に集められて えている。 魅了されたのを憶 の個展をみて深く ス美術展」と銘う エが「現代フラン サロン・ド・メ 文化の私達で構成)の手で油絵七八点、 美術文化京都展では北脇昇遺作展開催準備 点を特陳。五三(昭和二八)年第一三回・ の意を表した。 れに索描その他一六点を加えて展示し哀悼 会(彼の旧友である独立のメンバーと美術

嫌気がさして長年住み馴れた同会を退会し 四回・美術文化展を最後に協会内の紛争に 私は五四(昭和二九)年六月二五日第一 そして同年一一月新たに「アルファ芸 術陣」を結成したが、 翌年一〇月事

志しと異ったので、又してもあっさ 体としての会の内容はMAANとは を広く網罹したものであったので全 れは戦後登場した新鋭の前衛作家達 メンバーも殆ど同じであったが、こ を継承発展させたようなもので構成 ギャルド美術家クラブ(MAAN) に参加したが、同会は日本アヴァン 会した年の五月「国際アー り退会してしまった。美術文化を退 トクラブ」

国際アー た。翌五七(昭和三二)年一月京都高島屋 界・今日の美術展」と題して東京で実現し だけではあるが五六(昭和三一)年一一月 は結果的には実現しなかったが、 流を持つことも綱領としていた。との綱領 のみならず各国に支部を設け全世界的に交 大分異ったものとなっていた。そして日本 トグラブ、朝日新聞社主催で「世 ただ一回

それは激浪に洗われた岩浜に白骨をさらす リスト達はものの見事に圏外に投げ跳ばさ 展覧会を契機として私達日本のシュルレア る。それは私達自身によって実現したとの とも云えない皮肉な現象が発生したのであ

れてしまったのである。気付いてみると、

早や前衛ではない。内部矛盾のそれではな になった。かくて我が国のシュルレアリス く今や敵対的矛盾のそれであると云うこと 貝殻の膏ざめた形骸であった。シュルは最 (四ページへ続く)

-- 3

昭和52年6月5日発行

No. 104

### 花 画 の 列 に

品とか、学外では展観される機会も少ない芸大の所蔵品など一般には、 で陳列しています。花鳥画という設定上、 今回は京都市立芸術大学の所蔵品からも数点を選ん 普段は余り陳列されない所蔵

と訪れてきた小鳥ののびやかなさまとを危げない没骨の技法で空間をよ 静かさと群雀の脹やかさという対比の妙のうえに美事に表現されていま その点では、 惰感の表現としてひとつの花鳥表現の様をみることができるでしょう。 鷺図」だけが、墨画で色彩上の派手さはありませんが、墨の濃淡による されているので今回はこれに代えました。出陳作品中では、 の絵の世界をよく伝えている佳品と言えます。これらの作品は昨年度の の京都の日本画 の塩川文麟も同時期に名を成した作家です。 す。連山は江戸末に活躍した作家ですが、 く生かした構図のなかに、 「春の夕、蠶の朝」という八曲一双の優品がありますが、 今回の総陳列数二十三点のうち、 林司馬作「花鳥図」の五点です。 岸連山の「群雀図」も淡彩が施されてはいますが墨画に近 雪深い竹薮に群れ遊ぶ雀という自然の情景が、雪の竹薮の この場合円山四条派とも塩川派とも言えますが 玉城末一作「幽遠」、 芸大の所蔵品は 菊池芳文作 『柳に 菊池芳文の 作品では 当館にも 「菜園小食図」(野蔬小食図) 「花鳥画」の在り この 「柳に

草木に鳥や獣を配した図柄の絵を言うわけですが

 $\Box$ 

河合玲デザイン研究所制作展

東海デザインアカデミ

友

会

員

16~22 (月曜休室)

第 16 回

日本現代工芸美術展

(未定)

イン語、支那語、日本語。

乗客。船はこれらのものを満載して予定よ

り可成り遅れて午后十二時近く逐に埠頭を

離れた。遙か闇の中に南へ、

英語、ポルトガル語(ブラジル語)、

スペ

~15(月曜休室)

第11回 現美関西展

春季京都創画展

小 高 大 中 大 生 人

50 100 200 円 円 円

(写真は、

小牧源太郎作

ハヂチ・プリシャムリ

一九五五年)

昭和五十二年度の京都市美術館友の会の会員募集を三月十五日から開始し

会員には美術館の主要な展覧会の無料ない

美術館ニュースの無料配布などを行います。

し割引入場の便をはかるほか、

二五〇〇円で、

また友の会の児童美術教室の受付け

は三月十五日から三十一日まで同係で行い

( ) は20名以上の団体料金会期については多少変更があるかもしれ

京都造形芸術学院展(卒業制作展)

京都産業デザイン研究所第14回作

無

Ra-Ku 展

18 ? 22

京都府教職員美術展

第22回京都上京児童美術研究所展

第 13 回

月

インタ

ナショナル美術専門学校

のがそれである。

六月一四日午后五時神戸港出航予定の

日本南画院展

関西二科展 ~10 (月曜休室)

太平洋、パナマ経由で行けば一ケ月でブラ

上級船員はオランダ人、下級船員は支那人、 ランダ貨客船テゲルベルグ号に乗込んだ。

200 300 500 円円円

由なので二ケ月かかる。日本からの移民も ジルに着くが、この船はアフリカ、南阿経

**築団的に多数乗込んでいる。オランダ語、** 

小中生 高大生 人

200 200 400 円 円 円

18 } 23

18 ≀ 23

京都アンデパンダン

全日本美術協会選抜展

4/20(月曜休室)

堂本印象展

小高大 中生生 人

200 400 600 円 円 円

(50 300 500 円 円 円

理し集大成して、

自己の本質をたしかめて

になった。行く前に自分の今迄の仕事を整 招待の誘いがあったのでつい行ってみる気 彼は伯国で相当な地盤を築いていた)から

五七(昭和三二)年四月一七日から二一日 おく為相当纒った個展を開くことにした。

市美術館で油彩画一一七点を展示した

第~ 17 11 回

京都工芸繊維大学意匠科卒業展

第 19 回

書窗展

東方美術展

大

人

200 円

期にブラジルの友人(中学時代の同窓生。

走資派ではあるまいが私はこのような時

ト達の多くは海底深く沈んでいった。

集団5展

覧 会

案

京都市美術館友の会児童美術教室

大

須 賀

-- 1

それらはそれぞれが、作家自身の持ってい

の雰囲気の全体を把えようとしています。

家の個性として違ったものを見せている反

単に対象として花鳥を描くだけではな

一様に対象を取り囲んでいる自然界

す。それらは、麦現の技法も形式も全く作 薮寂光」などの数点をあげることができま 「麦」、浜田観の「午の花」、塩見仁朗の「林

の「菊」、池田遥邨の「寂」、徳岡神泉の

金島桂華の「叢」、福田平八郎

現代作家の正統的な試みの足跡を示すもの をした近代の花鳥画を陳列していますが 今回の常設展示はとにかく様々な描かれ方 陳列は初めてということでもあります。)、

(またこの作品は、最初の出品以来公け

的理念が、 絵の伝統とかに変様を受けながら徐々に日れた花鳥画は、時流の文化的な状況や大和 す。これらを範として日本で描きはじめら 象そのものの本質に迫っていこうとする美 多様にあるにしても、 それに加えて家畜や家食の類を邸毛(れい にあるような院体画の作風がよく知られて ようです。中国の花鳥画は、細かにみれば を花卉(かき)、草や虫の類を草虫と称し、 います。それは、写実的で精緻な描写と対 もう)として合わせて花鳥画と呼んでいる 作画態度の 根底に あるもので 徽宗という人の作例

の伝統のなかで、どのような花鳥表現を試 体ですから、近代になって作家が日本美術 ません。陳列では寧ろ明治以後の作品が主 のことは、今回の常設展示の狙いではあり面白い内容もでてくるでしょう。しかしそ 推移に合わせて考えていけば、それなりに 変遷を、日本の固有な自然感情の類型との 式を持っています。美術史的な花鳥表現の の作品もあって、それぞれに完成された様 鳥表現に至るまでには狩野派の作品や琳派 なります。京都の円山四条派と言われる花 本に独特な美的世界を形成していくように

文化の、 図」のように、視点が自ずと画面の中心に カメラアイ的な試みの作品もみられます。 集中する ような 焦点を 作為的に 作りだす な形象を 持って きたり、 景に何か非現実的な世界を暗示させるよう 単に対象として孔雀を描くだけでなく、背 芸大所蔵の玉城末一作「幽遠」のように、 種の近代的な武装を要求されていきます。 **表現における個性とか美的な理念とか、一** に押し寄せた世界の波をかぶって、作家は みたのか、ということになります。日本の 精神の、美的感性のあらゆる領域 林司馬作 「花鳥

は珍らしくエネルギッシュで、非常にス 描いて描きまくったこの絵節は日本人に 正に"画狂人"の名にふさわしく描いて は、至当ではない。その九十年の生涯を 葛飾北斎をただ単に浮世絵節と呼ぶの ルの大きな画家であった。

の浮世絵節にみられない精力的なものが 写生画は中国画からの影響が大きかった といわれる。その賃欲な吸収ぶりには他 画からも影響を受け、 円山派を学び、司馬江漢の銅版画、 **風にあきたらず、狩野融川について狩野** 九才の時勝川春草に絵を学び、その後師 北斉の円熟期は五十半ばから七十五・ 彼は宝歴十年(一七六〇)に生れ、十 さらに土佐派、 また独特の概密な 琳派、 四条 洋風

> その端麗な容姿で画面を圧している。 ることもある。が、それらは大きければ大 れば、遠景に小さくボッンと位置してい 士は大きく画面一杯に登場することもあ 完成させている。北斎は冨士を様々な角 トリーをここに完成させたのである。冨 度からとらえ、冨士の山を主役にしたス べき「冨嶽三十六景」四六枚シリーズを さらに北斎の版画芸術の集大成ともいう を完成させ、肉筆画にも健筆をふるい ているが、円熟期に入ると、「北斎漫画」 れまでも肉筆美人画に数々の名作を描い 六才頃と普通いわれている。 なりに、小さいものは小さいなりに、 もちろんそ

野に風景画というジャンルを確立させた は少なかった。 き、客観的な自然描写を行い、浮世絵の分 の背景に描かれる位で、独立した風景画 **浮世絵では、それまで自然風物は人物** 北斎は写生精神にもとづ

> である。 なまの北斎に接しられるまたとない機会 多くの肉筆画が出陳されているだけに、 いていたようである。今回の北斎展では い。北斎は版画よりも肉筆画に重きを置 のである。 彼の 晩年は 版画が 非常に少

試みようとした悲願と意欲のあらわれだ しい展開をみせているのである。 ったのである。それにより彼の芸術は新 改名によって、より以上の飛躍と進展を それは彼の移り気や気まぐれではなく、 彼は生涯に号を三十数回変えている。

です。

や芸術観の主張を盛りこむことを意図して

ん。個々の表現の技法として、作家の個性 しとした円山四条派の花鳥画でもありませ

いる点において、まさに現代の花鳥画なの

常設展示室一室だけのことで、

の風物のおだやかな抒情性を盛ることで良

でもなければ、

技巧を凝らした画面に自然

中国の院体花鳥画の精神主義のような理念

ながっている全体でもあります。それは、 る美的理念や世界観の世界へとそのままつ

てこの世を去ったのはさぞ心残りであっ **執念深かった。百才になれば「画技神妙** たろう。 (本展は六月十五日まで)(塩川) 「画技神妙ならん」こと十年に満たない ならん」と自身でも語ったのである。 ったこの画狂人は、また生きることにも 年老いてもなお衰えることを知らなが

れば充分のように思います。が、いくつかのそうした在り

(過館員)

いくつかのそうした在り様を見て戴け

入場料は大人一〇〇円、

小人五〇円 月3日まで

常設展コーナ

りは

体の系統的な陳列は望むべくもありませ

#### 繊 細 で 優美 な 現 代

13回目を迎えた「現代日本美術展」

平

野

重

# 「現代日本美術展」は昭和二十九年毎日 ものである。以後「国際展」と「現代展」

和二十七年に「日本国際美術展」を同社が 新聞社の主催によって発足した。これは昭 求する人達に大きな刺激と示唆を与え、そ の手応えの大きさに国内展の企てができた ったが、これが当時自由で新しい芸術を希 わゆるモダン・アー ヨーロッパを中心とするい トの紹介、展観を行な

> ら毎年主催に加って今年十三回目を迎えた とは一年交代で催され、当館でも四十年か わけである。

の動向と潮流を敏感に反映して、 観と顕彰であり、 すものは、そのときどきの新しい芸術の展 この展覧会の趣旨であり、 したがって毎回現代美術 と指針を示しながら新 また骨格をな その成果

たのである。二十数年 体的な役割を果してき 芸術の発掘と評価に具 にあとづけるものとい 変容とその諸相を着実 様な世界観と価値観の のまま現代人の多種多 重ねてきたものは、そ 覧会が、その間に積み に及ぶこの伝統ある展 ってよかろう。

までもない。しかしそ 決定されることはいう れらを積極的に寄せ、 動向が作家活動の具体 あるいは作家に刺激を としての作品によって 新しい芸術の推進と

> ほかならない 出来合いの作品を待って選択するだけでな 展の果した役割が大きいというのは、単に 拓精神に強く触れるところがあったからに れる展覧会であることも事実であろう。 与えて活動を促すものが、 作家たちに制作意欲を湧き立たせ、開 こうして組織さ 本

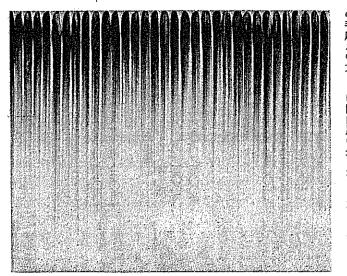
層に見られる裾野の広いところを見ようと きく開け放ち、 活動に対して、 どうにも命題とはなりえないものである。 や<抽象と具象>あるいは<現代美術>と 展開してきた現代美術の思潮にとって、 ろう。さまざまな意識、いろいろの観点で 術の状況に照して何ほどの有効な糸口も提 したものである。 ここでは先鋭化してきた一部の新しい芸術 いうような接点のとり方は、そのままでは 供するものでないことは周知のところであ サブタイトルがついている。両年にわたる たが、今回は<わたしの現代美術>という ならって全展コンクール形式を採用し、 **宜交えて、その都度芸術上の問題や話題を** 据えながら、招待、コンクールの部門を適 一定のレベルの作品を集めて、いわば若い これらのテーマが、今日のティピカルな美 <抽象と具象>という標題が設定されてい **人発掘のための格好の内容とした。前回は** 本展はそういうところに主として照準を してきた。十三回目の本展は、 今日の美術活動の諸相から むしろ思いきって門戸を大 前年に

平面作品は六一一作家から一、二九六 立体作品は一八一作家から二六五点

門安雄、 八四点の入選が決められたのである。 に対応しようという趣意が反映している。 は、間口を大きく今日の多様な表現の状況 家といった各界から委嘱されているところ も、日本画、洋画、彫刻、デザイン、 するように 構成されて おり、 た。評論家と作家との二つの立場から選考 正和、三木多聞、山口勝弘の十五名が当っ 泰、中原佑介、土方定一、深沢幸雄、堀内 れらを審査する選考委員には、 は昨年に比べ約三○○点の増加である。 合わせて一、五六一点が寄せられた。これ こうして平面二一〇点、立体七四点、計二 一、高山辰雄、田中一光、寺山修司、 河北倫明( 斎藤義重、 その 顔ぶれ 乾由明、 佐々木基 劇作 中谷

けられる点は指摘しておく必要があろう。 用さで目を引くもの、感覚的なモダニズ 活気を提し、喧噪ながら一定の充実感を与 は肥満であるのだが、それらがしばしば藁 あり、あるいは優美であり、 ともいうべき、内容の軽い作品が多く見受 えてくれたものだが、ここでは小手先の器 でならそういうばらつきがかえって全体に る点はやむをえないところである。これま 展覧会全体の印象は、散漫なものとして映 設定の仕方にかなりのばらつきがあって、 それにつれて表現についての意識や問題の 雑多であることは避けられず、 別のことばでいえば、あるものは繊細で 結果は当然のことながら、形式や手法が また別のもの したがって

然としたもの、 空虚なものを伴うように (四頁へつづく)



線より(東京国立近代美術館賞)

京都市美術館

京都市左京区岡崎公園

昭和52年8月25日発行

No. 105

形づくってきましたが、 わゆる東洋的でないものの思想文化にわた 作家にとっての時代のなかに生き続けるも 命であります。美術も、時代の内に生きて の様相を一変させました。 ってのあらゆる流入は、当然そうした流れ 伝統の重みを背負って呻吟し続けてきたと は、察するに余りあるものがあります。 のを描く 行為に伴う 血を 絞るような 苦労 すが、移り変り進展していく時代の人々の っていこうとする伝統擁護の姿勢は大事で 人生を歩んでいる者の創造活動ですから、 を通じて、日本画創造の足跡は、大雑把に ばなりません。明治、大正、昭和の戦前戦後 に何か確実な新しさをまさに創造しなけ 意識と感覚とをとらえていくためには、 そういうものであったと言えるでしょう。 っていいでしょう。旧来の良さだけを守 滅びていくのが文化事象一般の宿 その時代の人の心に通うものがな 日本画という厳然たる枠と 明治維新以来のい 何にしてもそう

別

戦後日本画の一系譜

創造美術 新制作 創画の30年」

日本画は、近代まで日本美術史の主流を

れたひとつの時代です。戦後に結成された つかあったそういう動きが最も顕著に現わ 戦後すぐの十年ほどの時代も過去にもいく さにそうしたものとして、昭和戦後美術史 然な展開を示しています。 当時としては大変な、今からみるとごく自 を続けようとしても、古い力によって果さ の第一ページに位置づけることが できま れなかった鬱鬱した逞しい力が結集して、 「創造美術」のグループの活動は、今日ま 戦前の旧来の体制のなかで新しい創作

での官展日本画とはちがった新しい日本画 形で昨秋「日展日本画の名作」展を開催し 展観します。言うまでもなく、それは、昭 戦後日本画の新たな展開です。 在の「創画会」へと連綿と脈打って流れる 和二十三年一月に結成された「創造美術」 な力で創作を続けているひとつの流れ、 の創造を目指して出発し、いまもなお大き ました。それは戦後の日展日本画の歩みの 今秋の美術館の特別展は、 「新制作協会日本画部」を経て、現 戦後にそれま

(四〇〇円) 第 57 回 第 関西自由美術展 平安書道展 小 高 大 中大 上 上 100mm

の亜流が示した、観念よりも視覚、

内容よ

りも感覚といった底の浅いイメージに通す

生命力の弱い意気の揚らぬものとなってい

かつて<冷たい抽象>といわれた一派

(三頁のつづき)

第~ 第~ 12 8 回 3 小中学生 三五〇円 学 生 三五〇円 関西国展 (宝豆)円)

30 第 **≀** 12 31 回 26 第 ~ 30 13 回 るかも知れません。いずれも月曜休館※会期、点数については、多少変更があ 現創会公募展 京都職場美術展 料

第 7 13 12 回

現代日本美術展

グルーフ

生展

京都写真サロン

高大生 小中生

四〇〇円

(五〇〇円)

グル

六〇〇円

100月(100円)

8 } 10

第 2 回

京都きり絵きり紙展

龍門 社

書展

高大生

〇〇円(五〇〇円)五〇〇円 四〇〇円(三〇〇円)三〇〇円

世界の巨匠 画狂人/21~15

- 北斎展-

2 ₹ 5

鳳雛書道展

常設展コー

小中生 五〇円(三〇円)

22 { 26

第 25 回

国連ポスター展

展

覧

숲

案

内

新興美術院展覧会

高大 大 人

五〇〇円

小中生

三 〇 円

は、二〇名以上の団体料金。 ク体は本市主催・共催展

算案の審議や役員の選出が行われます。 昨年度の事業会計報告、新年度の事業、予 創立以来最大となりましたが、総会では

総会と美術展鑑賞 会 だ

本年度の会員数は一、一五〇人を上回り 日午後一時半から美術館で開催します。 友の会は五十二年度の総会を六月十 京都国立近代美術館で開

> 内山武夫氏の解説をきき、 催の「金鈴社の画家たち」について同館 同展を観賞し

21 26

創美術展

大学美術連盟展 12~17

槐樹社展

高大生

| TOOP (TOOP)

高大生

三五〇門

2 (三五〇円)

五〇〇円 (11100円)

小中生

四〇〇円(三〇〇円)

創

元

京都染色美術展

(第22回京都写真連盟展) 京都一○○選一○○人展

10 8 28

常設展コー

小中 生 般

100円 五〇円

(七〇円)

無

第 28 回

水明書道会青少年部書展

無料

公募第三回

昭和美術会展

盛況でした。 のコースで行われ、 の太山寺、旧ハツサム邸、ポ 五月二十二日行われた見学会は、神戸 一〇〇人が参加して タワ

では「パンリアル」の一連の仕事もありま の伝統を持った枠の内における跡づけでし なかから、主だった作品を陳列したもので 系譜がみられます。<br />
それは、 での陳列ということになりますが、ここに ぬ仕事を続けている作家もあります。<br />
京都 体には所属しないながら影響力の小さから 美術院」や「新興美術院」もあり、また団 た。戦後の日本画といっても、他に「日本 だした堀文子、稗田一穂、麻田廳司などや 郎、高橋周桑、菊池隆志らの先駆的な世代 奥村厚一、山本丘人、 な位置にあって創造美術の結成に参加した 世代に至るまで、現創画会の会員による記 に始まり、そこに本来の創作の息吹を見い もまぎれもない戦後の日本画の評価すべき ません。戦後すでに三十二年がたち、 の一定の方向を標傍しているものに他なり れは、同時にこれからの日本画というもの 念的な足跡の交響詩ともなるものです。 本正、近藤弘明、工藤甲人らに続く新しい 現在人気を得て活躍している加山又造、 上村松簋、 この一連の 流れを振りかえって みること 将来にわたる現代の日本画の展望をみ そうした 意味で、 秋野不矩、 澤宏敬、 吉岡堅二、 今回も一定の 枠内 すでに中堅的 広田多津、

<会期は11月3日~11月30日>

(当館学芸員)

弱さを暗示するものである。 (当館員) に今日の人間の生き方の軟弱さと思想の脆

(現代日本美術展は六月一日より十二日

ない実情を語るものだろうし、

揚を得るべき対象をポジチブに把握しえて れは作家たちがいま精神の緊張と意気の昂 展全体を象徴しているかのようである。そ

が優美で繊細であるところは、

いかにも本

だけで示して好感を呼ぶが、このいづれも との原点をイメージを排除して行為の痕跡

煥の平面は、絵画であること、

妄現するこ

えてさわやかであり、美術館賞を得た李禹

体はあくまで造形主義の枠内のものとして るところがある。大賞を得た市川治之の立

見るものに過不足ない物体の緊張力学を伝